



第2期

# 健康たけとよ 21 スマイルプラン

－ 第2回 中間評価・見直し －

健康づくりはまちづくり

「みんな笑顔でイキイキと暮らせる町 たけとよ」

令和3年3月

武 豊 町



# 目 次

## 第1章 計画の中間評価・見直しにあたって

1	中間評価・見直しの趣旨	1
2	計画の基本理念	2
3	計画の期間	2
4	中間評価・見直しの方法	2
5	目標達成の評価について	3

## 第2章 分野別評価及び今後の方向性

(1)	健康づくり	5
(2)	栄養・食生活	19
(3)	運動・身体活動	31
(4)	休養・こころの健康	40
(5)	アルコール	47
(6)	たばこ	53
(7)	歯・口腔の健康	62
(8)	子どもの健康	69
(9)	最終評価までの重点的な取り組み	78

### <参考資料>

(1)	住民、町内企業に実施したアンケート内容	79
(2)	町内小学校高学年に実施したアンケート内容	87

# 第1章 計画の中間評価・見直しにあたって

## 1 中間評価・見直しの趣旨

武豊町では、「第2期健康たけとよ21スマイルプラン」を平成25年3月に策定し、計画を推進してきました。

この計画では、①健康づくり ②栄養・食生活 ③運動・身体活動 ④休養・こころの健康 ⑤アルコール ⑥たばこ ⑦歯・口腔の健康 ⑧子どもの健康の8分野を設定し、それぞれの分野の目標・具体的取組・目標値を掲げ、改善に向けて取り組んできました。

計画策定から8年目を迎えた令和2年度は、各分野における取り組み状況等について2回目の中間評価を行いました。そして、健康づくりを取り巻く社会情勢等の変化を踏まえ、また国が策定した「健康日本21（第2次）」、及び愛知県が策定した「健康日本21 あいち新計画」等との整合性を図りながら、今後の課題や方向性を見直しました。

最終評価年度（令和6年度）に向けて、住民の健康づくりを総合的かつ効果的に推進し、健康寿命の延伸を図り、住民が笑顔でイキイキと暮らせるまちづくりをめざしていきます。

また、愛知県では、県民一人一人が食の大切さを理解して、主体的に食育に取り組むため、平成28年3月に「あいち食育いきいきプラン2020」を策定、推進しています。食生活と健康づくりは、相互に影響しやすく、あらゆる年代の健康課題等に対応し、本町のさらなる健康づくりを推進するため、今回の中間評価からは、本計画に食育推進計画を含めていくこととします。

### 食育とは・・・

食育基本法では、生きる上での基本であって、知育、徳育及び体育の基礎となるべきものと位置付けるとともに、様々な経験を通じて「食」に関する知識と「食」を選択する力を習得し、健全な食生活を実践することができる人間を育てることとされています。

また、「国民一人一人が『食』について改めて意識を高め、自然の恩恵や『食』に関わる人々の様々な活動への感謝の念や理解を深めつつ、『食』に関して信頼できる情報に基づく適切な判断を行う能力を身に付けることによって、心身の健康を増進する健全な食生活を実践するために国民運動として食育の推進に取り組む」とも記載されています。

## 2 計画の基本理念

### 健康づくりはまちづくり

### 「みんな笑顔でイキイキと暮らせる町 たけとよ」

## 3 計画の期間

本計画の期間は、平成25年度から令和6年度までの12年間です。1回目の中間評価を平成28年度に行い、今回は2回目の中間評価となります。令和6年度に目標の達成状況の最終評価を行います。

本計画では、計画策定時を「策定時」、1回目の中間評価を「中間評価①」、今回  
の中間評価を「中間評価②」と表記します。

## 4 中間評価・見直しの方法

今回の中間評価においては、直近の令和元年度の事業実績に加え、(1)～(3)の  
のとおり実施したアンケートの集計結果を「中間評価値」として使用しています。

### (1) 住民アンケートの実施

調査地域	：武豊町全域
調査対象者	：住民20歳～79歳の男女 2,000人
抽出方法	：無作為抽出
調査期間	：令和2年7～8月
調査方法	：郵送により配布、返信用封筒にて回収
有効回答数	：830人(41.5%)

### (2) 町内小学校高学年へのアンケートの実施

調査対象者	：町内4小学校の4～6年生 1,247人
調査期間	：令和2年7月
調査方法	：学校へ依頼をして実施
有効回答数	：1,218人(97.7%)

### (3) 町内企業在勤者へのアンケートの実施

調査対象者：町内2企業

- ・日油株式会社の20～30歳代社員 147人
- ・ファイザー・ファーマ株式会社20～50歳代社員から無作為に選んだ50人

調査期間：令和2年7月

調査方法：各企業へ依頼をして実施

有効回答数：147人（74.6%）

※中間評価①では、住民アンケートのうち、20～30歳代からの回収率が低く、若年層の意見が反映されにくかったことから、今回の中間評価では、町内企業に協力依頼し、若年層の社員を中心にアンケートを実施しました。この結果を住民アンケートに追加し、分析することとしました。

### (4) 庁内関係機関との意見交換・連携の確認

中間評価①から4年間（H28～R元年度）の評価、今後における行政機関の施策の調整を目的とし、意見交換ならびに行政内部における連携の確認等を行いました。

### (5) 武豊町民健康づくり推進協議会による審議

令和3年3月、「武豊町民健康づくり推進協議会・武豊町保健センター運営協議会」にて概要説明を行い、ご意見をいただきました。

## 5 目標達成の評価について

### (1) 達成率の計算方法

目標値が数値で定められている場合には、次の計算値から判定します。

※①で評価しますが、策定値がないものについては、②で評価します。

①

$$\text{達成率} = \frac{(\text{中間評価②値} - \text{策定値})}{(\text{目標値} - \text{策定値})} \times 100 (\%)$$

②

$$\text{達成率} = \frac{(\text{中間評価②値} - \text{中間評価①値})}{(\text{目標値} - \text{中間評価①値})} \times 100 (\%)$$

## (2) 判定区分

策定時の現状値と比較し、目標値にどの程度到達しているのかについて、以下のように判定を区分し、それぞれの分野の達成度を評価します。

評価区分	評価基準	
A (達成・概ね達成)	目標達成または達成率90%以上 ・数値目標がない場合：あきらかな増加	
B	B+ (改善)	ベースライン値より改善 (達成率50%以上90%未満)
	B- (やや改善)	ベースライン値より改善 (達成率10%以上50%未満) ・数値目標がない場合：ベースライン値から5%以上
C (変わらない)	ベースライン値から変化がない (達成率-10%以上10%未満) ・数値目標がない場合：ベースライン値から-5%以上5%未満	
D (悪化)	ベースライン値より悪化 (達成率-10%未満) ・数値目標がない場合：ベースライン値から-5%未満	
E (判定不能)	基準の変更により判定ができない	

※ベースライン値：計画策定時または中間評価時の値

※「健康日本21あいち新計画」の評価方法に準ずる

## 第2章 分野別評価及び今後の方向性

### (1)健康づくり

めざす  
姿

**からだも点検！今すぐ始めよう、全身メンテナンス**

健康寿命の延伸・健康格差の縮小・生活習慣病の発症と重症化予防をめざす。

#### 中間評価①の方向性

- ① メタボリックシンドローム該当者及び予備群の出現率の減少
- ② がん検診受診率の向上

#### 中間評価①からの主な取り組み

- ① メタボリックシンドローム該当者及び予備群の出現率の減少
  - 保険医療課と協働で「幸せの黄色いリボン事業」の推進
  - 特定健診、後期高齢者健診、あおば健診の継続実施
  - 特定保健指導該当者に対する保健指導の継続実施
  - あおば健診受診率向上のためのメールサービス等を活用した情報発信の工夫
  - あおば健診会場での保健指導、健康情報の発信
  - 健康たけとよスマイレージの健診ポイントの付与
- ② がん検診受診率の向上
  - がん検診の定員枠を増員
  - がん検診クーポン事業（乳、子宮頸がん）を実施できる個別医療機関の拡充
  - メールサービス、ホームページ等で受診勧奨
  - がん検診受診率向上のための情報発信の工夫
  - 新たな受診者を取り込むために町内歯科医院、薬局等にポスターを掲示
  - 健康たけとよスマイレージの健診ポイントを付与

## 指標の達成状況

指標	策定値 (H23年度)	中間評価① (H27年度)	中間評価② (R元年度)	目標値	評価
①主観的健康感の向上					
自分自身が健康だと思う人の割合	75.3%	77.4%	78.2%	80.0%	B+
②がん検診の受診率の向上					
がん検診の受診率※					
胃がん	3.1%	3.5%	3.2%	40.0%	C
大腸がん	5.9%	7.8%	6.0%	40.0%	C
肺がん	10.3%	10.4%	9.3%	40.0%	C
子宮頸がん	6.3%	6.6%	5.9%	50.0%	C
乳がん	7.5%	8.8%	8.4%	50.0%	C
③メタボリックシンドロームの該当者及び予備群の減少					
(特定健康診査受診者のうち) メタボリックシンドローム該当者及び予備群の出現率					
該当者	23.0%	22.3%	24.5%	16%	D
予備群	10.8%	11.6%	11.4%	8.0%	D
④特定健診・特定保健指導の実施率の向上					
(国民健康保険被保険者のうち)					
特定健康診査の受診率	51.2%	52.2%	54.5%	60.0%	B-
特定保健指導の実施率	8.3%	18.6%	35.0%	60.0%	B+
最低受診区の受診率	38.9%	47.8%	54.3%	50.0%	A
⑤地域のつながりの強化					
この地域で安心して暮らしていると思う住民の割合	未把握	92.7%	93.2%	100.0%	C
⑥趣味の会、スポーツの会に参加している住民の増加					
趣味の会、スポーツの会に参加している住民の割合	20～64歳未把握 65歳以上 43.1% (H22年度)	31.3%	22.8% コロナの影響 でできない人 9.4%	45.0%	D
⑦「憩いのサロン」拠点数の増加					
憩いのサロン拠点数	8か所	13か所	13か所	14か所	B+

※がん検診受診率の考え方

評価する年度の4月1日時点の対象年齢人口を母数とし、対象年齢のうちの受診者数を子数として算出した。指標項目の資料は「がん検診結果報告及び歯周疾患（歯周病）検診実施状況報告」だが、報告物の算出方法が変更しても算出方法は、上記のとおりとし、経年で比較できるものとする。

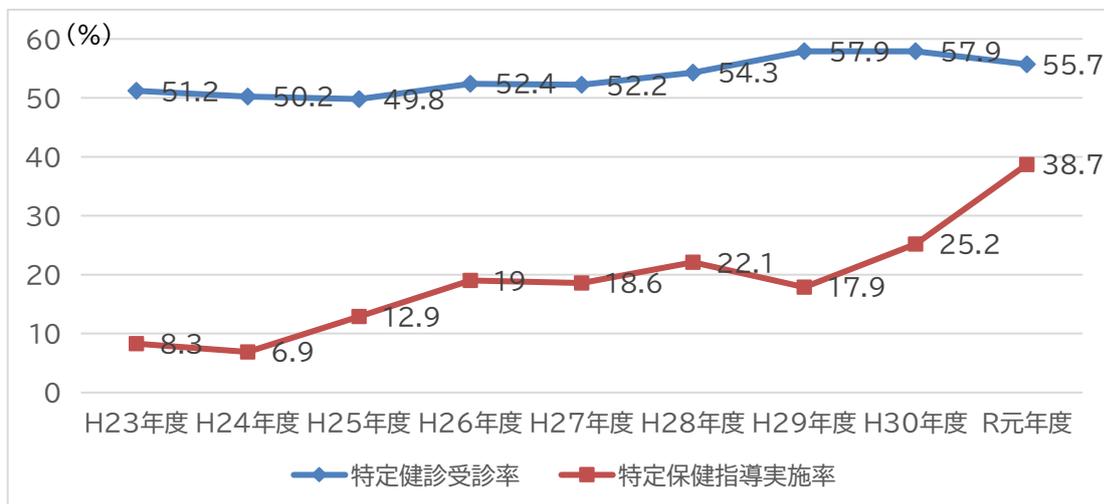
【各指標項目の資料等】

項目	資料	担当
①⑤⑥	健康たけとよ21スマイルプラン 中間評価アンケート	健康課
②	がん検診結果報告及び歯周疾患（歯周病）検診実施状況報告 （評価年度4月1日時点の対象年齢人口を分母とし、対象年齢のうちの受診者数を分子として受診率を計算）	健康課
③④	健康かるて 令和元年度国保データベースシステム（以下、KDB） 帳票「地域の全体像の把握」	保険医療課 健康課
⑦	庁内資料	福祉課

現状・考察

①メタボリックシンドローム該当者及び予備群の出現率について

【特定健康診査受診率・特定保健指導実施率の年次推移】

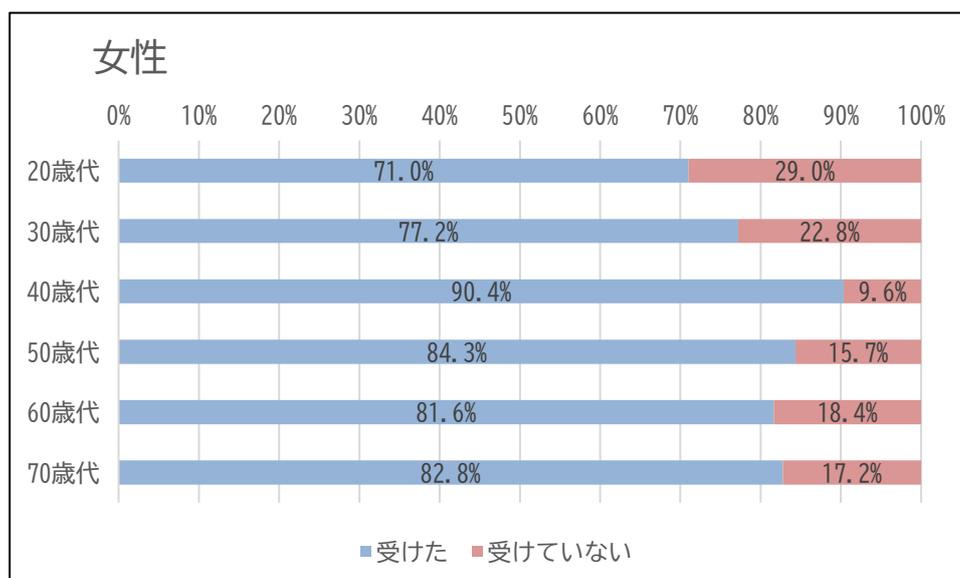
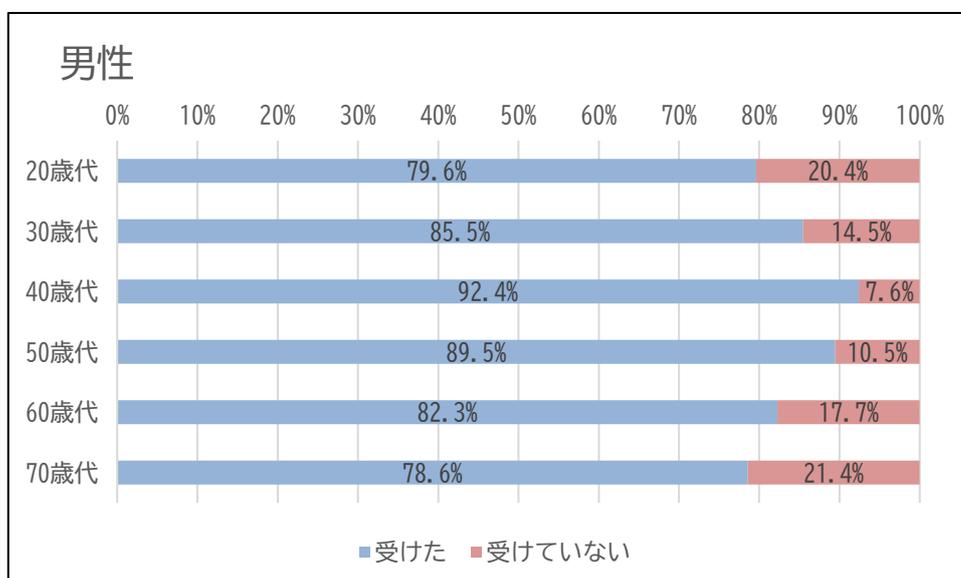


資料：KDB

平成23年度以降の特定健診受診率の年次推移は横ばいになっている。特定保健指導実施率においては平成24年度に減少し、その後増加している。令和元年度に初回保健指導を分割したことや個別医療機関で受診した保健指導対象者は半田市医師会健康管理センターに保健指導事業を委託したことで、実施率が伸びている。

## 【過去1年間に健診を受けた人の割合】

「あなたは過去1年間に、健診（健康診断や健康診査）や人間ドックを受けましたか？」



資料：第2期健康たけとよスマイルプラン中間評価②アンケート集計結果

前述の特定健診受診率は武豊町国民健康保険加入者の特定健診を受診した人の割合であるが、この設問はアンケートによるものであり、社会保険加入者も含まれる。男女ともに40歳代の9割以上が健診を受けていると回答していた。一方で、20歳代女性は71.0%であり、全年代の中で一番低く、次いで30歳代女性が77.2%と低い結果だった。男性では70歳代が78.6%で、20歳代が79.6%という順に低い結果であった。

【健診を受けていない理由について】

「健診を受けていない理由は？」（複数回答可）

※8頁「あなたは過去1年間に、健診（健康診断や健康診査）や人間ドックを受けましたか？」の設問で「受けていない」と回答した人より

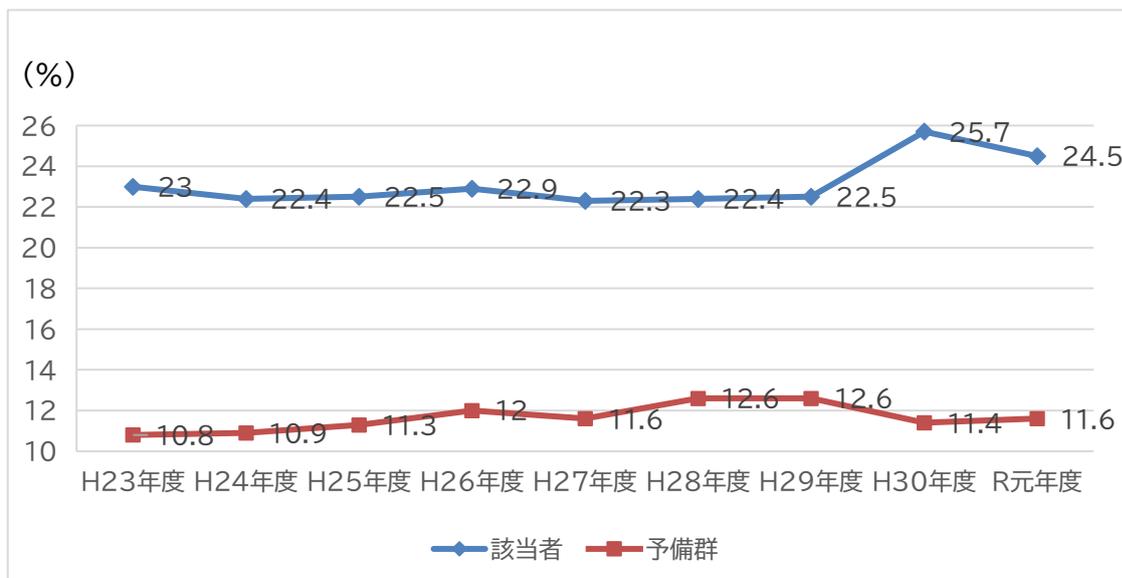
	有効回答数 (件)	健康に自信が ある	面倒くさい	忙しい	何か指摘され るのがこわい	健診そのもの が苦痛
男性 20 歳代	11	9.1%	18.2%	18.2%	0.0%	0.0%
30 歳代	17	23.5%	23.5%	17.6%	5.9%	5.9%
40 歳代	5	0.0%	60.0%	60.0%	0.0%	0.0%
50 歳代	6	0.0%	50.0%	16.7%	0.0%	0.0%
60 歳代	14	0.0%	28.6%	14.3%	14.3%	7.1%
70 歳代	21	9.5%	19.0%	0.0%	4.8%	0.0%
女性 20 歳代	20	0.0%	10.0%	5.0%	0.0%	5.0%
30 歳代	13	7.7%	46.2%	23.1%	0.0%	23.1%
40 歳代	8	0.0%	12.5%	50.0%	25.0%	0.0%
50 歳代	13	7.7%	23.1%	15.4%	23.1%	7.7%
60 歳代	18	5.6%	22.2%	11.1%	0.0%	5.6%
70 歳代	20	5.0%	10.0%	5.0%	15.0%	20.0%

	必要を感じない	受診できる機会 がない	受診できる場が わからない	通院中	その他
男性 20 歳代	9.1%	54.5%	9.1%	0.0%	9.1%
30 歳代	17.6%	5.9%	0.0%	0.0%	11.8%
40 歳代	0.0%	20.0%	20.0%	20.0%	0.0%
50 歳代	0.0%	16.7%	16.7%	16.7%	16.7%
60 歳代	0.0%	21.4%	0.0%	50.0%	21.4%
70 歳代	4.8%	4.8%	4.8%	57.1%	4.8%
女性 20 歳代	10.0%	55.0%	5.0%	0.0%	30.0%
30 歳代	7.7%	30.8%	15.4%	0.0%	23.1%
40 歳代	0.0%	12.5%	12.5%	12.5%	37.5%
50 歳代	0.0%	7.7%	7.7%	23.1%	23.1%
60 歳代	5.6%	16.7%	0.0%	22.2%	11.1%
70 歳代	15.0%	0.0%	5.0%	50.0%	15.0%

資料：第2期健康たけとよスマイルプラン中間評価②アンケート集計結果

「過去1年間に、健診（健康診断や健康診査）や人間ドックを受けていない理由」は、40～50歳代男性で「面倒くさい」「忙しい」と回答した人が約5割となっている。40歳代女性では「忙しい」という結果だった。20歳代の「受診できる機会がない」と答えた人が多いのは、町が若年層（18歳～39歳）を対象に実施しているあおば健診の周知が不十分であることが考えられる。

【メタボリックシンドローム該当者及び予備群の年次推移】

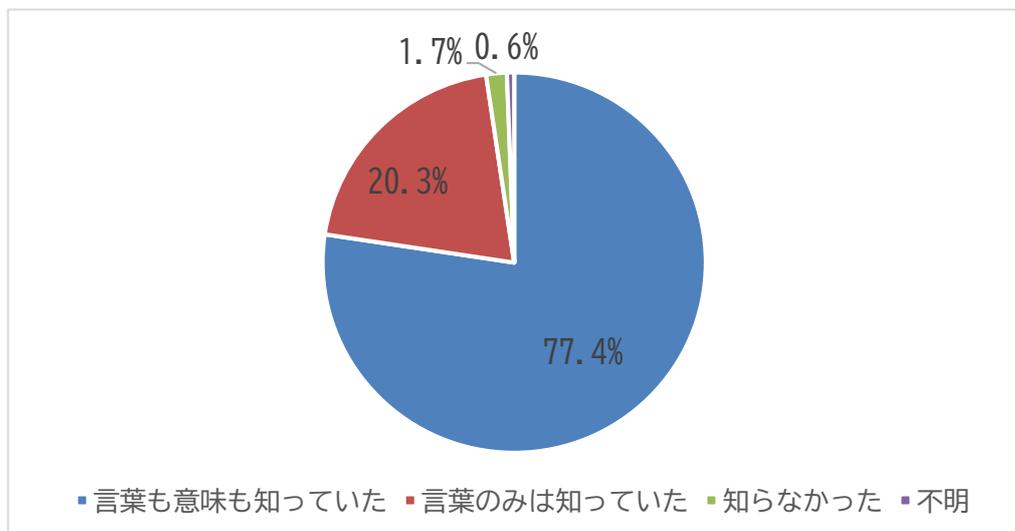


資料：KDB

平成23年度以降のメタボリックシンドローム該当者の年次推移は、緩やかに増減していたが、近年はやや増加している。また予備群の年次推移は、緩やかに増加している。

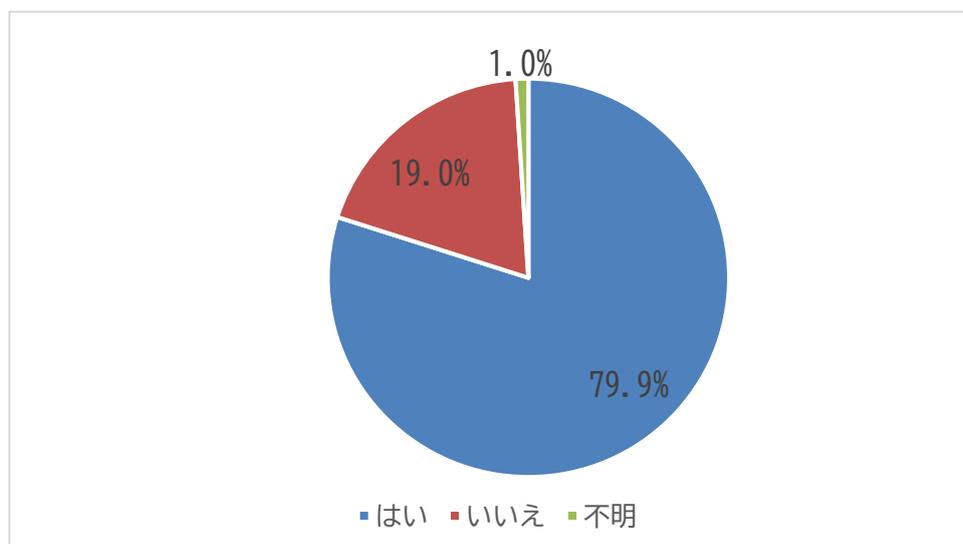
## 【メタボリックシンドロームの認知度】

「あなたはメタボリックシンドロームを知っていましたか？」



資料：第2期健康たけとよスマイルプラン中間評価②アンケート集計結果

「メタボリックシンドロームが動脈硬化性疾患（脳卒中、心疾患）の大きな原因の1つになることを知っていましたか？」

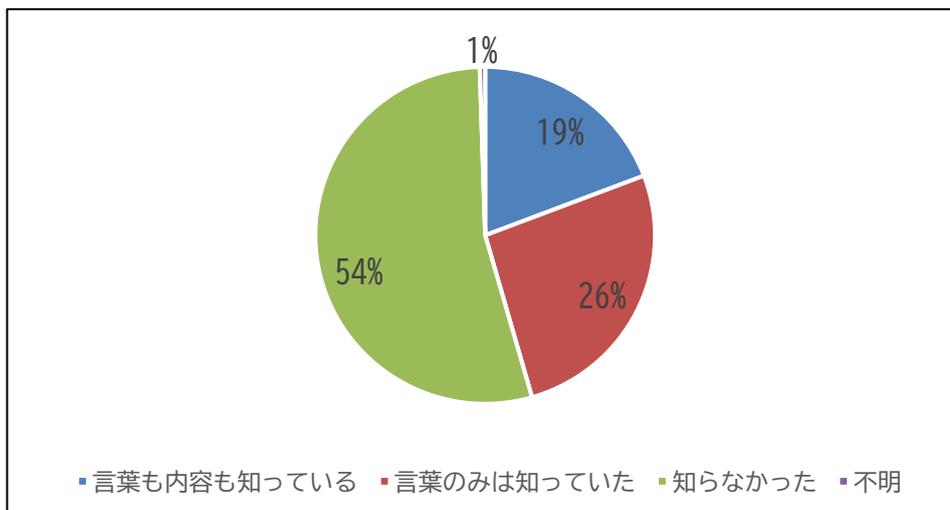


資料：第2期健康たけとよスマイルプラン中間評価②アンケート集計結果

メタボリックシンドロームという言葉は、約98%の人に普及しており、意味を分かっている人も77.4%である。メタボリックシンドロームが動脈硬化性疾患の大きな原因の一つになることについては79.9%の人が知っているが、まだ約2割の人が知らないため、普及活動を継続する必要がある。

## 【幸せの黄色いリボン事業の認知度】

「幸せの黄色いリボン事業を知っていましたか？」

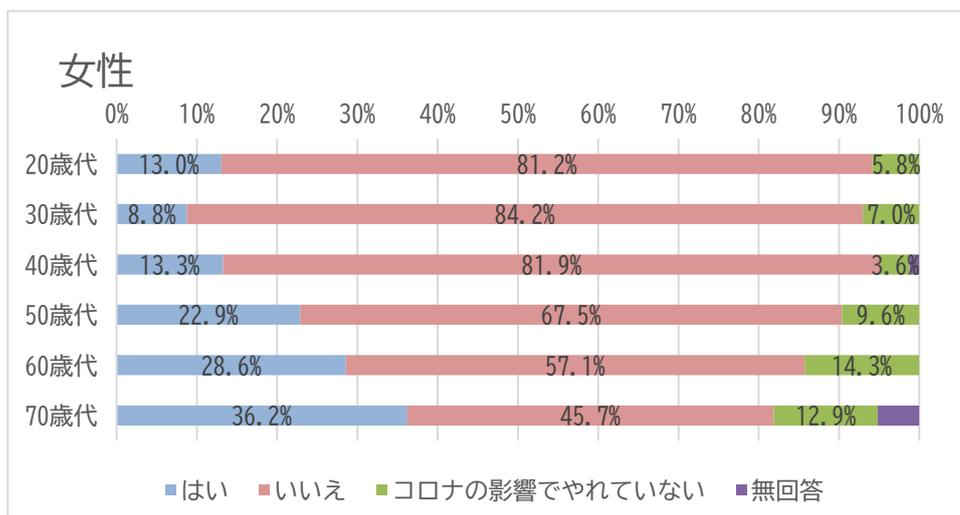
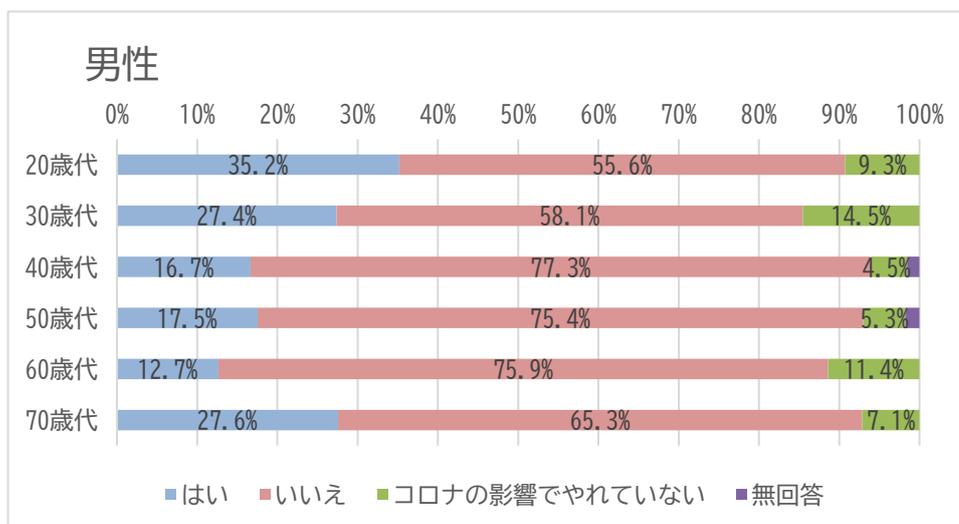


資料：第2期健康たけとよスマイルプラン中間評価②アンケート集計結果

平成28年度より黄色いリボン事業を実施しているが、「知らなかった」と答えた人が54%であった。45%の人は言葉を知っているが、内容も知っているのは19%だった。

【趣味の会、スポーツの会に参加している住民の割合について】

「あなたは趣味の会やスポーツの会に参加していますか？」



資料：第2期健康たけとよスマイルプラン中間評価②アンケート集計結果

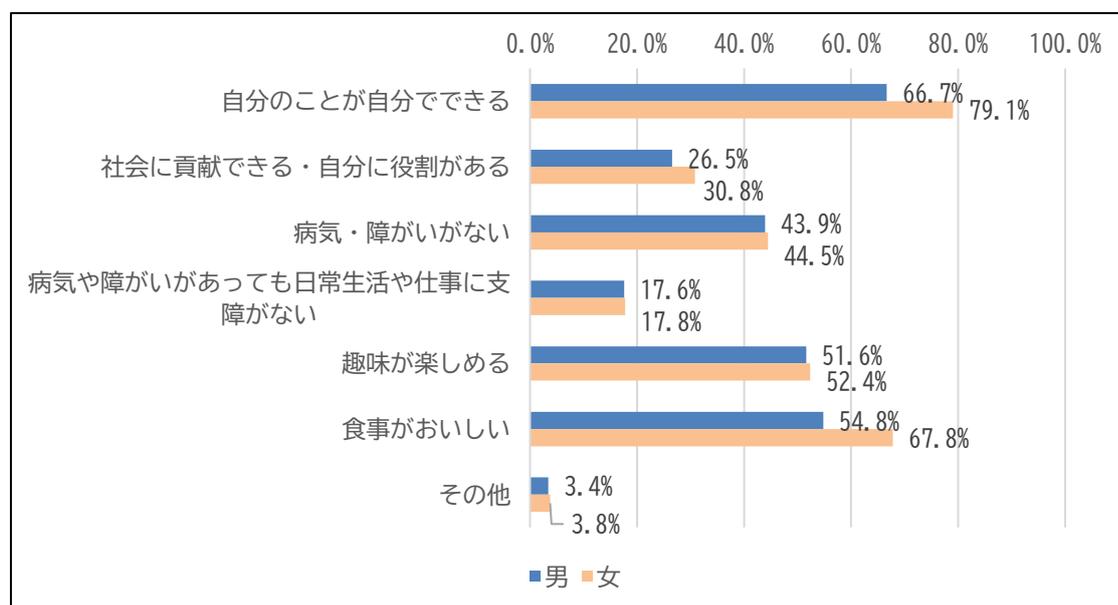
趣味の会、スポーツの会に参加している人の割合は、全体的に男女ともに低いが、特に男性では、40～60歳代が約1～2割となっており、女性では20～40歳代が約1割となっている。40～60歳代男性は、一般的に社会の中では働き盛りの世代であり、仕事等で忙しい人が参加できていないことが考えられる。20～40歳代女性は、子育て中である人も多い世代であるが、子育て等で忙しく、自分の時間を持つことができず参加できていないことが考えられる。

一方で男性では20歳代が35.2%、女性では70歳代が36.2%と高く、自分の時間が持てる世代の人は参加できていると考えられる。

全体的に参加率が低いため、趣味の会、スポーツの会に参加しやすくするために各関係機関と協力する必要がある。さらに、忙しい世代の人が趣味の会、スポーツの会に参加しやすくする環境整備が必要であるが、参加できなくても健康につながるような活動を自分自身で意識できる機会を持つようにすることが、今後の課題だと考えられる。

## 【健康を感じる時について】

「あなたが健康だと感じるのは、どんな時ですか？」



資料：第2期健康たけとよスマイルプラン中間評価アンケート集計結果

男女とも「自分のことが自分でできる」、「食事がおいしい」、「趣味が楽しめる」と回答した人の割合が高くなっている。

### ②がん検診の受診率について

平成30年の愛知県の死因順位は1位「悪性新生物（がん）」、2位「心疾患」、3位「老衰」であり、武豊町の死因順位は1位「悪性新生物（がん）」、2位「心疾患」、3位「肺炎」となっている。悪性新生物（以下「がん」と表記する）は、昭和56年より日本人の死因第1位であり、がんの早期発見、早期治療するために、がん検診を受診することが大切とされている。

本町のがん検診の受診率は、胃がん検診3.2%、大腸がん検診6.0%、肺がん検診9.3%、子宮頸がん検診5.9%、乳がん検診8.4%で、平成27年度と比較するとやや減っている。このがん検診の受診率は、「対象年齢の住民すべて」が母数、「本町で行うがん検診の受診者」が子数となっているため、本町のがん検診以外の方法で受診した人の数は含まれていない。計画の最終年度までに町民全体の受診状況を把握することは困難であるため、目標値の再設定の必要がある。

また、本町のがん検診は保健センターでの集団検診が主であり、会場、日にちや定員に限りがあるため、受診率を向上させるためには、集団検診以外の受診環境を整備する必要がある。今後は、個別医療機関でも、がん検診を受診できるようにすることが課題と考えられる。

### 中間評価②でみえてきた課題

#### ①メタボリックシンドローム該当者及び予備群の出現率の増加

メタボリックシンドロームの言葉や意味、メタボリックシンドロームの悪影響については、知っ

ている人が多くなっている一方で、メタボリックシンドロームの該当者は、中間評価①より増加しており、予備軍も減少していない。平成28年度から実施している「幸せの黄色いリボン事業」は約4割の人が事業名を知っているが、事業内容を知らない人も多く、今後も住民への周知・啓発を実施していく必要がある。また、メタボリックシンドロームの知識はあっても、該当者が増加していることから、知識普及だけでなく、今後は健康づくりのきっかけとなるような取り組みを各関係機関や企業等と連携して実施していく必要がある。

過去1年間に健診を受診した人の割合は、男女ともに20歳代が他の年代より低い傾向にあった。高齢者の医療の確保に関する法律に基づく特定健康診査は40歳以上を対象としており、40歳未満の人は、就労していれば受診する機会があるが、未就労の人には法的根拠となる健診がない。健康づくりは、若年のうちから積み上げていくものであり、若年のうちでの生活習慣が、大きく影響する。そのため、本町では18～39歳の人を対象に「あおば健診」を実施し、若年層に対し健康意識の向上を図っている。今後もあおば健診を継続し、若年層に対する取り組みを充実させることが有効と考えられる。

## ②がん検診の受診率の低迷

本町では、子宮頸がん検診、乳がん検診のクーポン事業以外のがん検診は、すべて保健センターで実施している。定員充足率は高値であり、今後、がん検診の受診率を上げるためには定員を増やす必要があるが、保健センターの会場や日程には限りがあるため、個別医療機関でも実施できるようにする必要がある。

令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の影響を受け、がん検診の受診率が低下することが見込まれるが、定期的ながん検診を受診することは、早期発見、早期治療につながるため、今後もがん検診を受診するように周知していく必要がある。

## 目標達成に向けた具体的な事業展開

- 「受診できる機会がない」と回答した若年層へのあおば健診の周知の工夫  
例) メール等で発信する際の文面、チラシ等わかりやすくする
- 黄色いリボン事業の普及活動の継続
- 健康無関心層も集まる場所で健康情報を発信  
例) 役場での手続きの待ち時間に見ることのできるポスターを作成し、掲示する
- 個別医療機関でのがん検診の実施
- 健康たけとよスマイレージの活用推進

## 削除・変更した指標

指標	変更前目標値	変更後目標値
がん検診の受診率		
胃がん	40.0%	4.0%
大腸がん	40.0%	7.0%
肺がん	40.0%	11.0%
子宮頸がん	50.0%	7.0%
乳がん	50.0%	9.0%
理由：現在、把握できるがん検診の受診率は、武豊町が実施しているもののみで、社会保険加入者等が会社の福利厚生で受診しているものについては、把握しきれない。また、ほとんどを集団検診で実施しており、定員充足率は高いものの受診率を変更前目標値に達することは不可能であるため。		

項目	変更前出典元資料	変更後出典元資料
②	地域保健報告	がん検診結果報告及び歯周疾患（歯周病） 検診実施状況報告
理由：地域保健報告の報告方法が変更となり、町事業実施が正しく反映されなくなったため		

## 実施事業・関連事業

No	事業名	事業内容	担当課
1	各種がん検診	胃がん検診、大腸がん検診、肺がん検診、子宮頸がん検診、乳がん検診、前立腺がん検診を実施する。子宮頸がん検診、乳がん検診、大腸がん検診については、特定の年齢の人に無料クーポン券を送付する。 また、各がん検診の要精密検査となった人に対し、受診勧奨を個別に実施する。 R3年度より乳がん、子宮頸がん検診において受診可能な個別医療機関を拡充する。	健康課
2	要精密検査未受診者への受診勧奨	各がん検診の要精密検査となった人で未受診者に対し、受診勧奨を個別に実施する。	健康課
3	肝炎ウイルス検診	肝炎ウイルス検診事業に基づいて実施する。	健康課
4	あおば健診	18歳から39歳で健診を受ける機会のない住民の健診を実施する。	健康課
5	特定健康診査	40歳から74歳の国民健康被保険者の健診を実施する。	保険医療課 健康課

No	事業名	事業内容	担当課
6	特定健診未受診者勧奨	特定健康診査の未受診者を把握し、受診に向けた働きかけを実施する。	保険医療課 健康課
7	後期高齢者医療健康診査	後期高齢者医療被保険者の健診を実施する。	保険医療課 健康課
8	特定保健指導 (動機づけ支援・積極的支援)	健診結果に応じて、生活習慣病予防のための保健指導を実施する。	保険医療課 健康課
9	「幸せの黄色いリボン」事業	町内協力機関や町内イベント、あおば健診等において男性85cm、女性90cmのリボンを設置または配布し、メタボリックシンドロームの周知や腹囲の日常的意識の向上に努める。	保険医療課 健康課
10	健康たけとよスマイレージ事業	住民の生涯を通じた健康づくり活動を支援するためにチャレンジシートを配布。健診ポイント、行事ポイント、毎日ポイントを合計100ポイント貯めると「あいち健康づくり応援カード!~MyCa(まいか)~」を交付する。まいかは年1回の抽選の応募券に変わり、当選者にはプレゼントを贈呈する。	健康課
11	国民健康保険との連携	健康課題がある者や適正受診ができていない場合に保健指導等を実施する。	健康課 保険医療課
12	企業・全国健康保険協会 愛知支部等との協働と連携	企業や全国健康保険協会愛知支部等と連携し、がん検診の勧奨や健康課題の情報提供等を実施する。	健康課
13	健康相談	保健師による健康相談を実施する。	健康課
14	各種健康教育・啓発事業	健康づくりに関する様々な講座・教室を開催し、住民の健康意識を高め、正しい知識を普及する。また、広報誌やホームページ等において情報提供を実施する。	生涯学習課 健康課 スポーツ課
15	学校保健との連携	各地区の健康課題等を盛り込んだ健康教育を実施し、生活習慣病予防や健康意識の向上・健康づくりのきっかけとする。	健康課 学校教育課
16	高齢者(B類)予防接種事業	65歳以上の住民に対して、高齢者肺炎球菌及び高齢者インフルエンザの予防接種を実施することで、住民の健康を維持する。	健康課
17	保健推進員養成講座	地域における健康づくり実践活動の中核となる推進員を養成する。	健康課
18	保健推進員連絡会との協働	地域における健康づくり活動を積極的に実践する。健康課事業へ参加し、円滑な保健事業実施に協力する。	健康課
19	保育園健康診断	保育園児の健康診断を実施する。	子育て支援課
20	学校健康診断	小中学生の健康診断を実施する。	学校教育課

No	事業名	事業内容	担当課
21	憩いのサロン	65歳以上を対象に、地域のボランティアが中心となり、健康体操、交流活動などを実施する。	福祉課 地域包括センター 健康課
22	生活元気度調査	介護保険認定者以外の70歳の人へ基本チェックリストを郵送する。生活機能低下の該当者に、介護予防事業の勧奨を実施する。	福祉課 地域包括センター

\*担当課内「地域包括センター」は「地域包括支援センター」の略。以下同。



## (2) 栄養・食生活

めざす  
姿

**食べ方変えたら、からだも変わる。手に入れよう！元気の食習慣**

食事量やバランスについて心がけ、自分自身の適正体重を保ち、楽しんで食べる習慣を持つことをめざす。

### 中間評価①の方向性

- ① 肥満者割合の減少
- ② 野菜摂取の増加
- ③ 高血圧者割合の減少

### 中間評価①からの主な取り組み

- 若年層へのアプローチのため、野菜摂取推奨のチラシを配布
  - ・ あおば健診等の来所者等に対しチラシ配布
- 生活習慣病予防普及啓発事業にて、野菜摂取、塩分・糖質制限の食事指導を実施
  - ・ 高血圧予防教室（H28, 30年度）
  - ・ 糖尿病予防教室（H29年度）
  - ・ 脂質代謝異常改善教室（R元年度）
- 小学6年生を対象に実施した「がん教育」の中で野菜摂取、1日3食摂取することを推奨
- 保健センター館内に塩分含有量の目安等を展示
- 憩いのサロン等で高齢者向けへの低栄養防止の食事についての健康教育を実施
- 健康たけとよスマイレージの毎日ポイントの付与

## 指標の達成状況

指標	策定値 (H23年度)	中間評価② (H27年度)	中間評価② (R元年度)	目標値	評価
①肥満（BMI 25 以上）、やせ（BMI 18.5 未満）の減少					
20～60 歳代男性の肥満者の割合	29.2%	31.8%	24.4%	28.0%	A
40～60 歳代女性の肥満者の割合	16.6%	18.8%	13.8%	15.0%	A
20 歳代女性のやせの人の割合	23.5%	25.8%	39.1%	20.0%	D
②主食・主菜・副菜を組み合わせた食事が1日2回以上の日が、ほぼ毎日の人の増加					
主食・主菜・副菜を組み合わせた食事が1日2回以上の日が、ほぼ毎日の人の割合	未把握	53.4%	46.6%	65.0%	D
③野菜の摂取量の増加					
1日に食べる野菜のおかずが3皿分以上の人の割合	未把握	38.6%	36.4%	50.0%	D
④カロリーなどの栄養成分表示を参考にしている人の増加					
カロリーなどの栄養成分表示を参考にしている人の割合	13.0%	31.9%	33.4%	40.0%	B+
⑤よくかんで、毎食の食事時間15分以上を心がける人の増加					
よくかんで、毎食の食事時間15分以上を心がける人の割合	27.0%	49.1%	47.5%	60.0%	B+
⑥楽しく食事をしている人の増加					
楽しく食事をしている人の割合	14.9%	74.0%	74.9%	85.0%	B+
⑦腹八分目を心がけている人の増加					
腹八分目を心がけている人の割合	31.8%	58.9%	55.6%	70.0%	B+
⑧朝・昼・夕の三食を必ず食べることに気をつけて食事をしている子どもの増加					
朝・昼・夕の三食を必ず食べることに気をつけて食事をしている子どもの割合 小学4～6年生	未把握	93.4%	89.3%	100.0%	D

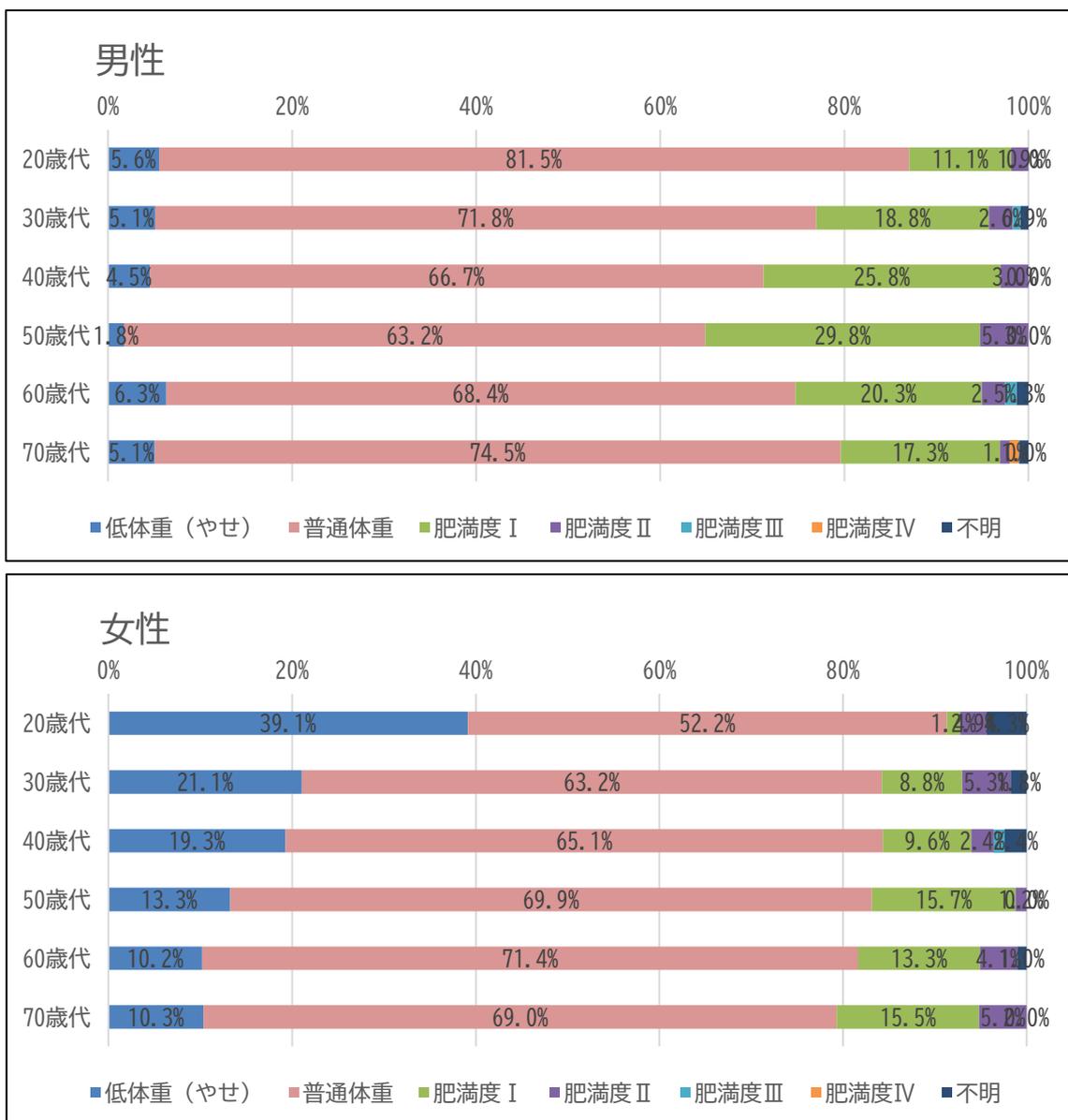
指標	策定値 (H23年度)	中間評価② (H27年度)	中間評価② (R 元年度)	目標値	評価
<b>⑨肥満傾向にある子どもの減少</b>					
中等度・高度肥満傾向児の割合		(H26 年度)			
3 歳児	1.0%	0.2%	0%	減少	A
小学 4～6 年生	未把握	8.2%	4.3%	7.0%	A
<b>⑩共食の増加</b>					
食事をひとりで食べる子どもの割合の減少					
小学 4～6 年生					
朝食	未把握	22.8%	21.3%	15.0%	B-
夕食	未把握	5.3%	3.9%	2.0%	B-
<b>⑪高血圧の減少</b>					
(特定健診受診者のうち)					
血圧有所見率	(H24 年度) 7.1%	7.7%	7.8%	7.0%	D
自身の味つけが濃いと感じる人の割合	11.3%	9.0%	8.2%	7.0%	B+

【各指標項目の資料等】

項目	資料	担当
①②③④⑤⑥ ⑦⑧⑩	健康たけとよ21スマイルプラン 中間評価アンケート	健康課 学校教育課
⑨	令和元年度母子健康診査マニュアル集計結果 (「ふとりすぎ」に該当する3歳児) 学校健診の状況 (データヘルス計画より肥満度20%以上の児童)	健康課
⑪	血圧所有見率 KDB 帳票「地域の全体像の把握」 自身の味つけが濃いと感じる人の割合 国民健康保険 特定健康診査問診項目	保険医療課 健康課

## 現状・考察

【肥満（BMI 25.0以上）とやせ（BMI 18.5未満の割合）】

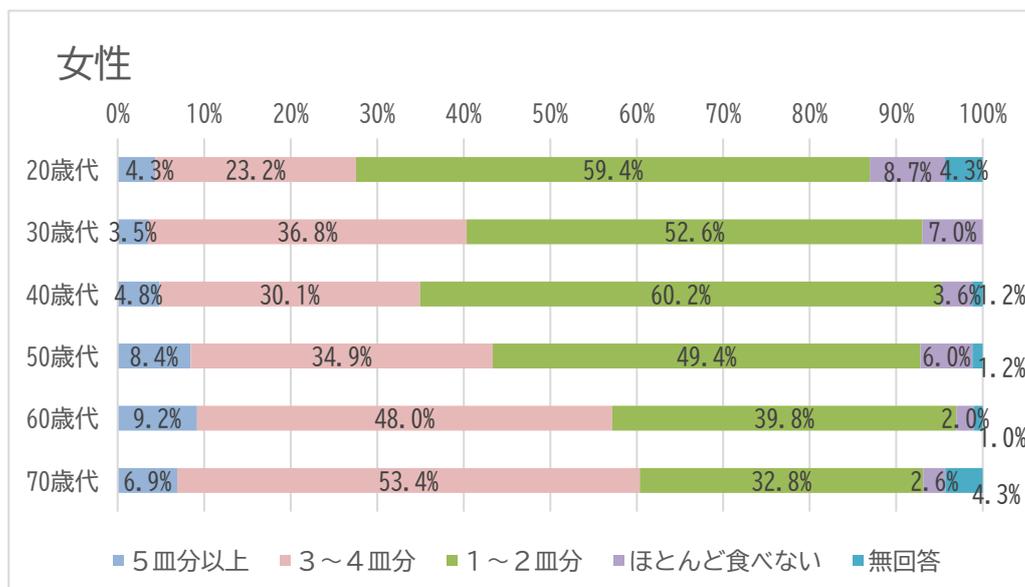
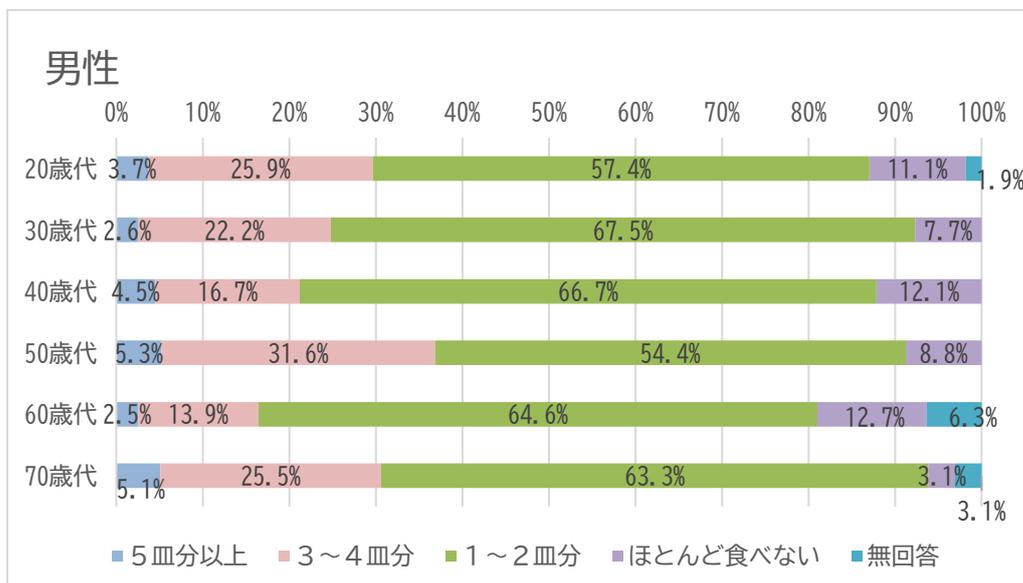


資料：第2期健康たけとよスマイルプラン中間評価②アンケート集計結果

女性に比べると全体的に男性の方が肥満の割合が高い。特に40～50歳代の働き盛りの男性の肥満が多く、約3割の人は肥満である。肥満者の割合は、20～60歳代男性の24.4%、40～60歳代女性の13.8%である。一方、女性はやせの割合が高く、特に20歳代のやせの割合は39.1%と高く、目標値を上回っている。国が策定している「第2次健康日本21」でも20歳代女性のやせの者の割合が多いことが課題になっており、20%に減少させることを目標としている。若年女性のやせは骨量減少や低出生体重児のリスクなどに関連があり、適正な栄養摂取をすることを周知していく必要がある。

## 【1日に食べる野菜のおかずについて】

「あなたは野菜のおかずを1日何皿分食べますか？」



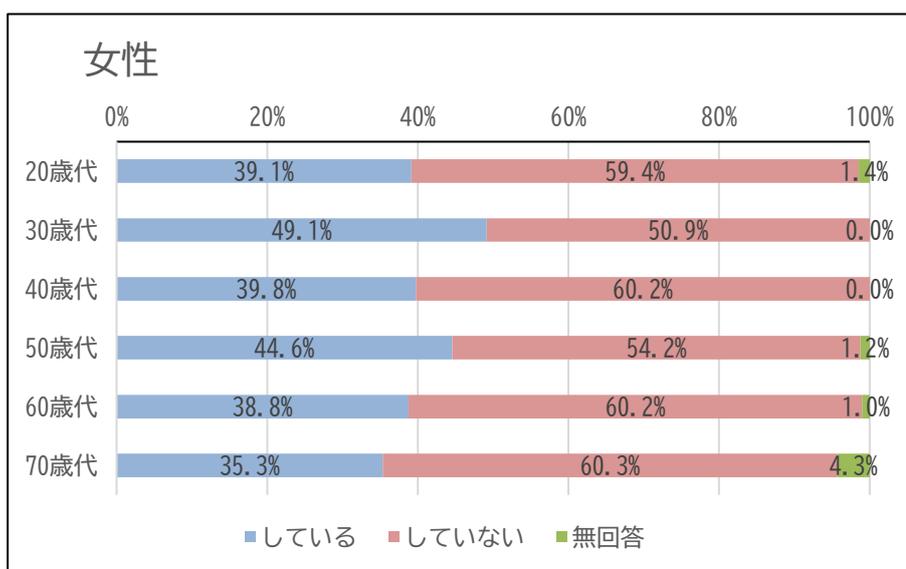
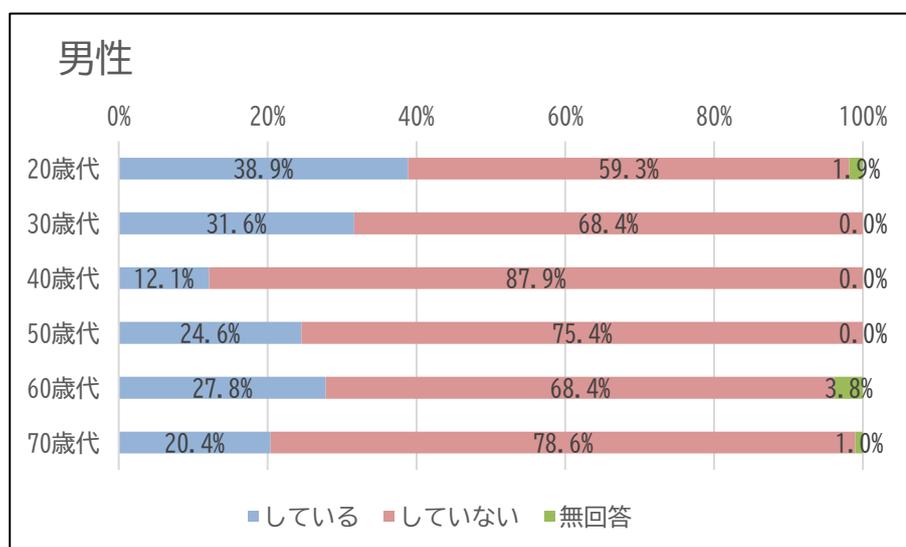
資料：第2期健康たけとよスマイルプラン中間評価アンケート②集計結果

男女とも「3皿分以上」と回答した人の割合は、どの年代においても男性より女性の方が野菜を多く食べている傾向がみられる。女性では60～70歳代において野菜を食べる人の割合が高くなっている。全体で中間評価①時より低い割合となっており、目標値を下回っている。

男性の全ての年代、女性の20～50歳代において、「1～2皿分」と回答した人の割合が高いため、1日に3皿以上野菜のおかずを摂取することを目標に、まずはプラス1皿を目標にすることが必要である。

## 【栄養成分表示を参考にしている人について】

「あなたは外食や買い物するとき、カロリーなどの栄養成分表示を参考にしていますか？」



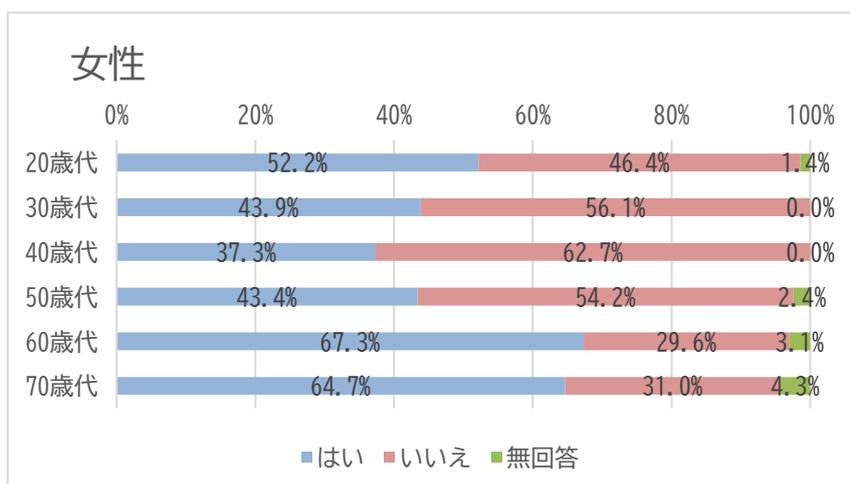
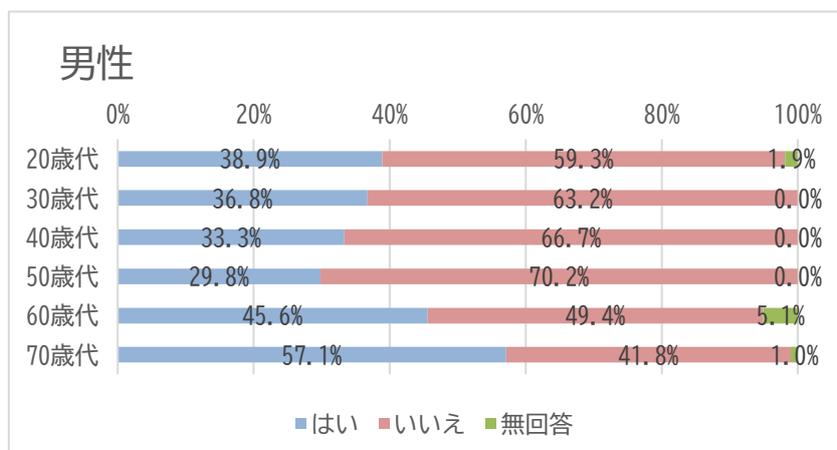
資料：第2期健康たけとよスマイルプラン中間評価アンケート集計結果

男性より女性の方が「している」と回答した人の割合が高くなっている。特に40、50、70歳代の男性の割合が低い。全体では、策定時、中間評価①時より徐々に高い割合となっており、目標値に近づいている。

栄養成分表示は、カロリーだけではなく塩分量の把握にも非常に役立つため、生活習慣病予防の手段の一つとして活用していくことは重要であると考えられる。栄養成分表示の見方や理想の量、参考にするメリットを周知する必要がある。

## 【食事時間について】

「あなたはよく噛んで、毎食の食事時間を15分以上にしていますか？」



資料：第2期健康たけとよスマイルプラン中間評価アンケート集計結果

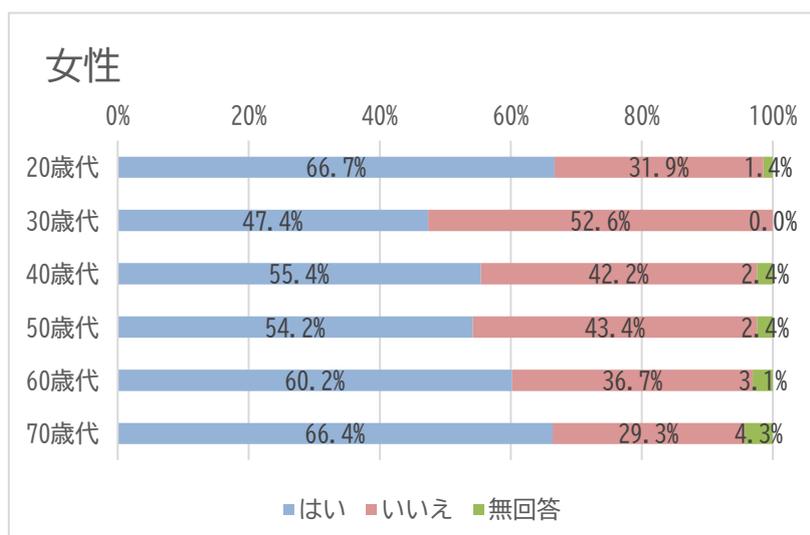
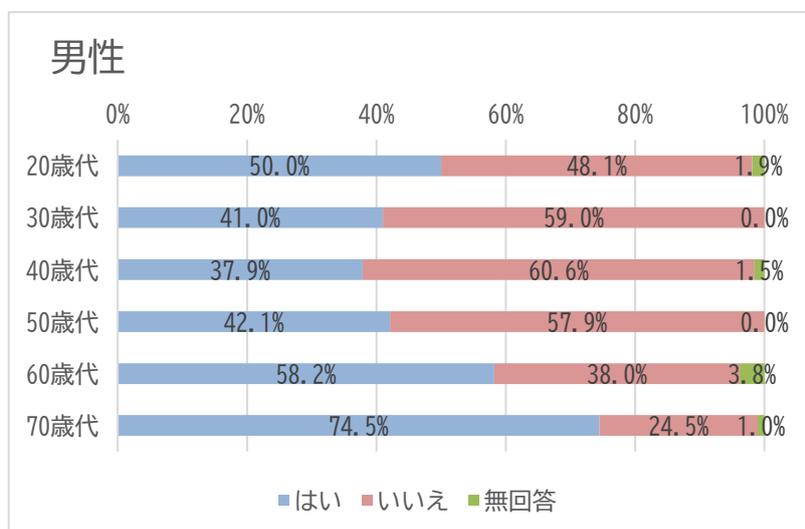
男性より女性の方が「している」と回答した人の割合が高くなっている。また、年代で見ると男女とも60～70歳代以上において「している」と回答した人の割合が高くなっている。全体で策定時より増加しているが、中間評価①より低下しており、目標値よりは低い。

食事時間と肥満の関係は多数の研究からも示唆されており、30～50歳代男性の早食い傾向と30～50歳代男性における肥満者割合は、関連があるのではないかと考えられる。

よく噛んでゆっくり食事摂取することは、満腹中枢を刺激し、食べすぎを抑制するだけでなく、唾液分泌促進につながり、歯周病予防になる。また、高齢者にとっては、誤嚥性肺炎の予防にもなるため、よく噛んで食べる、噛み応えのあるものを食べるなどを推奨していく必要がある。

## 【腹八分目について】

「あなたは食事をするとき、腹八分目にしていますか？」



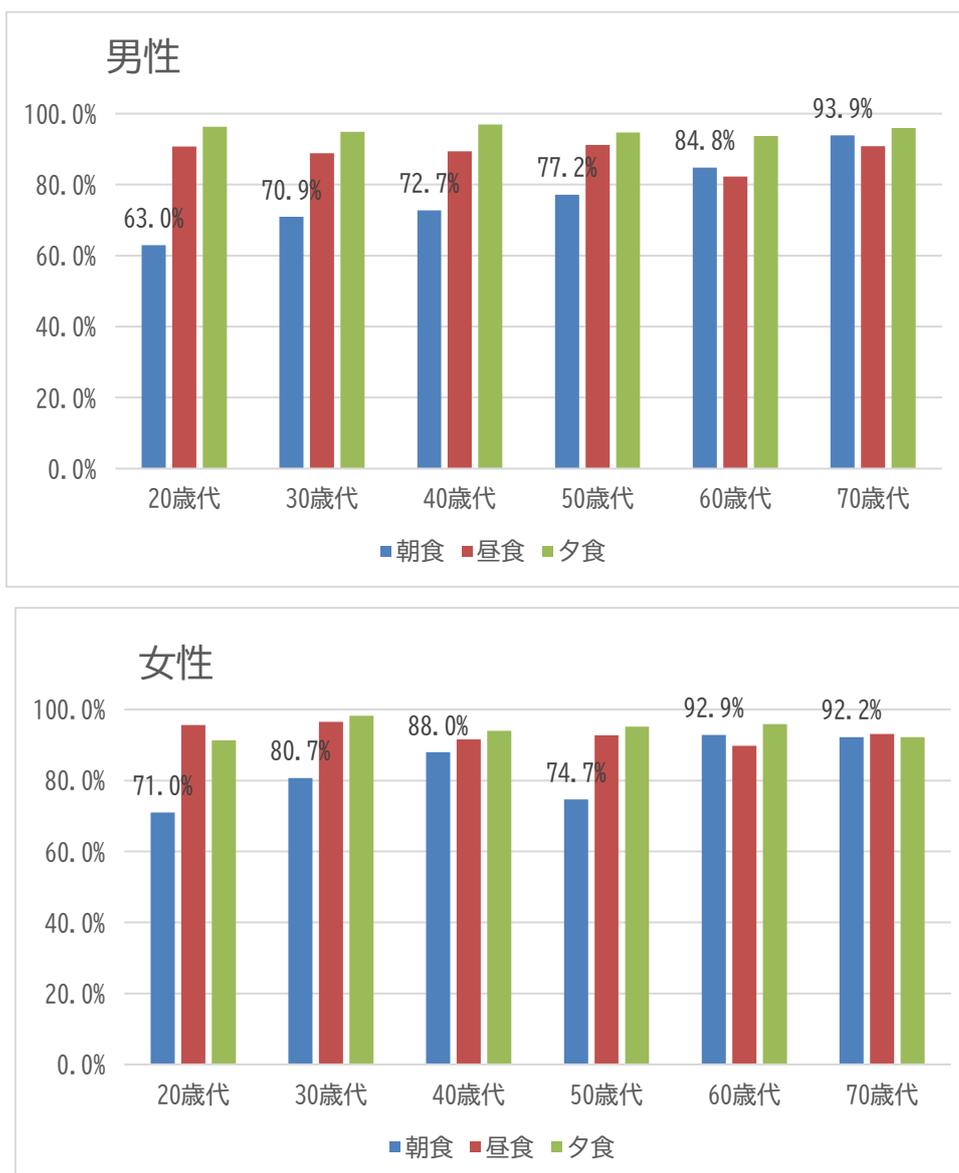
資料：第2期健康たけとよスマイルプラン中間評価②アンケート集計結果

「あなたは食事をするとき、腹八分目にしていますか？」という設問に対して、男性の70歳代、女性20歳代、70歳代において「している」と回答した人の割合が、高くなっている。

また30～50歳代男性、30歳代女性では5割を下回っている。全体で策定時より増加しているが、中間評価①より低下しており、目標値よりは低い。

男性30～50歳代は肥満者割合が高い年代であり、食事時間（早食い）と合わせて腹八分目を意識するかどうかも肥満者割合の増加に影響していることが考えられる。

### 【3食の喫食率について】



資料：第2期健康たけとよスマイルプラン中間評価②アンケート集計結果

全体の朝食喫食率は81.5%で、うち男性は78.1%、女性84.6%であった。昼食喫食率90.9%、夕食喫食率94.8%と比べ、一番低い割合となっている。

年代別に見ると、20歳代男性が63.0%、20歳代女性が71.0%と他の年代に比べ、低い割合であった。年代が上がると朝食喫食率は上がる傾向にあり、特に70歳代男性、60～70歳代女性は9割を超えている。

小学4～6年生を対象にしたアンケートによると、3食を必ず食べている人の割合は89.3%で中間評価①より低くなっている。朝食は1日の活力につながり、栄養摂取量を適切にするためには、欠かせないものであり、育ち盛りの子どもの中には不可欠である。しかし、子どもが朝食を摂るには、親である大人の影響を大きく受けるため、まずは、子どもの親世代である若い人を中心に、朝食の重要性について伝えていき、朝食を食べる習慣を付けるようにする必要がある。

### 【肥満傾向にある子どもの割合について】

令和元年度の3歳児中等度・高度肥満傾向児は0%である。また、小学校高学年（4～6年生）の割合も4.3%と中間評価①時より減少しており、目標値にも到達している。

### 【高血圧者の割合について】

本町では血圧有所見者の割合が高い（KDBより）。また、医療費の半数以上が高血圧に関連する疾病であることが分かっており、国民健康保険データヘルス計画においても重要な課題として位置づけられている。

血圧有所見率は策定時、中間評価①時より高くなっている。「自身の味付けが濃いと感じる人の割合」についてはやや減少傾向にはあるが、目標値に到達していない。また、この項目は主観によるものであるため、今後も減塩等、高血圧についての普及啓発は引き続き必要であると考えられる。

## 中間評価②でみえてきた課題

### ① 男性の肥満者割合の増加、若年女性のやせ割合の増加

30～50歳代男性において、食事時間に15分以上かけている人や腹八分目を心がけている人の割合が低くなっており、40～50歳代男性の肥満度Ⅰの「ちょっと肥満」の人が多くことと関連があると考えられる。働き盛りの男性の「ちょっと肥満」については、将来的な生活習慣病につながりやすいため、企業連携する等、働く世代へのアプローチを進めていく必要があると考える。

一方で、20～30歳代女性のやせの割合が高い傾向にあることも今後の課題の一つになっていくことが考えられるため、適正な栄養摂取についても併せて周知していく必要がある。

また、将来の担い手となる子どもへの健康教育も重要であり、今後取り組むべき課題の一つであると考えられる。働く世代は子育て世代でもあるため、子どもへの健康教育は間接的なアプローチとなるとともに、子どもを通じた健康教育は非常に有効な方法だと考える。そのためにも、今後も引き続き、小中学校と連携を図る必要があると考えられる。

### ② 野菜摂取不足

「野菜のおかず3皿分以上」の人の割合は、36.4%と目標値より低くなっており、「1～2皿分」と回答した人の割合が60～70歳代女性以外すべての年代で一番高い結果となっている。まずは、全年代の人に向け、今の食事より1皿多く野菜のおかずを食べることを啓発していく必要がある。全体的に女性より男性の方が摂取していないこと、20～40歳代の若年層の方が摂取していないという結果から、男性や若年層に対する啓発方法を工夫する必要がある。

野菜摂取は、様々な生活習慣病予防になるだけでなく、噛む回数を増やすため、食事時間が長くなり、早食い予防となり肥満予防にもつながるため、優先的に対策を講じる必要がある。

### ③ 若年層の朝食喫食率が低い

朝食の喫食率は男女ともに20歳代が一番低く、小学4～6年生の3食必ず食べる人の割合も低く、朝食が摂れていないという結果だった。

朝食を食べることは、体内時計をリセットし、1日の生活リズムを整える効果がある。また、体温を上昇させるため、頭が働きやすくなったり、摂取したエネルギーを燃やす効果もある。一方、朝食を食べないと、野菜不足をはじめ1日に必要な栄養摂取量が摂りにくく、栄養バランスも崩れやすい。また、食事の間が空くことにより、昼食を摂取した時に血糖値の急上昇を引き起こし、血管を痛めやすいこともわかっている。

小学生が朝食を食べる習慣を持つためには、親である若い世代の大人が食べる習慣を持ち、子どもにも食べさせる必要がある。まずは、若年層に対し、朝食の重要性と摂取しやすい方法を周知していくことが有効と考える。

### ④ 高血圧者割合が高い

高血圧者割合が高いことは本町の大きな課題であるため、引き続き、具体的に事業展開していく必要がある。栄養成分表示を参考にすることは、カロリー摂取だけでなく、塩分量の把握にもつながるため、栄養成分表示の見方や見ることのメリットを伝えていく必要がある。参考にしていると回答した人は男性より女性が多い結果だったため、男性にも伝わりやすい啓発の方法を工夫することが必要である。

## 目標達成に向けた具体的な事業展開

- 男性や若年層に対し、野菜摂取の効果、目安量についての普及、啓発  
例) 町内施設だけでなく、町内企業、商工会等と連携し、ポスターを掲示してもらう
- 管理栄養士により野菜を使った簡単メニューを配布  
例) 健康マイレージ参加者に配布したり、保育園や野菜販売している店舗で配布してもらう
- 朝食の効果についての普及、啓発  
例) 学校保健と連携して小学生とその親や乳幼児健診来所者に対しチラシを配布する
- 各健康教育、健康相談等で塩分摂取量、野菜摂取の目安量、効果についての啓発  
例) ポスターだけでなく、写真等の媒体で目安量をわかりやすいように工夫する

## 実施事業・関連事業

No	事業名	事業内容	担当課
1	栄養相談	管理栄養士による個別栄養相談を実施する。	健康課
2	各種健康教育・啓発事業	あおば健診、憩いのサロン、福祉まつり等において、講話や情報提供を実施する。	健康課
3	赤ちゃん教室	管理栄養士による離乳食の説明と試食を実施する。	健康課
4	7か月児すくすく相談	管理栄養士による離乳食についての講話、個別栄養相談を実施する。	健康課
5	特定保健指導 (動機づけ支援・積極的支援)	健診結果に応じて、生活習慣病予防のための栄養指導を実施する。 また、「元気！からだの学校」において“食ベレター”による情報提供を実施する。	保険医療課 健康課
6	国民健康保険との連携	ハイリスク者に対して本町の大きな課題である高血圧を中心に、重症化予防のための具体的な健康教育を実施する。	健康課 保険医療課
7	フレッシュパパママ教室 (しょくじ編)	妊娠中の食事や、非妊娠時の食生活について、管理栄養士の講話と試食を実施する。	健康課
8	食育健康づくりグループ養成講座	地域における食生活改善活動を行う推進員を養成する。	健康課
9	食育健康づくりグループとの協働	食の学習会、地域における健康づくりや食育・地産地消推進のための活動を実施する。 健康課事業へ参加し、円滑な保健事業実施に協力する。	健康課
10	企業・全国健康保険協会 愛知支部等との協働と連携	企業や全国健康保険協会愛知支部等と連携し、健康課題の情報提供等を実施する。	健康課
11	学校保健との連携	各地区の健康課題等を盛り込んだ健康教育を実施し、生活習慣病予防や健康意識の向上・健康づくりのきっかけとする。	健康課 学校教育課
12	各種料理教室	親子料理教室など様々な世代に向けた調理実習を行い、食に対する関心を高め健康増進を図る。	生涯学習課 学校給食センター
13	保育園での食育	保育園での野菜の栽培・収穫、調理活動や管理栄養士による食育活動を実施する。	子育て支援課
14	農畜産業の振興	地域農畜産業の振興及び活性化事業の推進・農業体験の実施	産業課
15	地産地消の推進	まちの駅「味の蔵たけとよ」における地元食材の販売スペースや、ふるさと納税返礼品の品目を充実させ、地元産品の情報発信・消費拡大を図る。	産業課
16	産業まつり	地域産業の振興及び地元産品のPR	産業課

## (3) 運動・身体活動

めざす  
姿

暮らしの中に“動くクセ”。クセも積もれば運動に！

生活習慣病予防のためにも、ライフスタイルに合わせて、日ごろから動くクセをつける。

### 中間評価①の方向性

- ① 40～50歳代男性、30歳代女性の運動習慣の定着
- ② ロコモティブシンドロームの認知度の向上

### 中間評価①からの主な取り組み

- 小学6年生対象に実施した「がん教育」の中で運動習慣をつけることを推奨
  - ・衣浦小学校（H30年度）
  - ・緑丘小学校（H30, R元年度）
  - ・富貴小学校（H30, R元年度）
- 憩いのサロン等で高齢者向けへのロコモティブシンドロームをはじめ、筋力低下予防についての健康教育を実施
- 生活習慣病予防普及啓発事業にて、体操インストラクターによる姿勢や歩き方の指導を実施
  - ・高血圧予防教室の開催（H28, 30年度）
  - ・糖尿病予防教室の開催（H29年度）
  - ・脂質代謝異常改善教室の開催（R元年度）
- 健康たけとよスマイレージの毎日ポイントの付与

## 指標の達成状況

指標	策定値 (H23 年度)	中間評価① (H27 年度)	中間評価② (R 元年度)	目標値	評価
① 日常生活における身体活動の増加					
日常生活において歩行又は同等の身体活動を1日1時間以上実施している人の割合	未把握	44.3%	46.3%	55.0%	B-
② 運動習慣者の増加					
30分・週2日以上を1年以上継続している人の割合	未把握	38.2%	35.2% コロナの影響で できない 1.2%	40.0%	D
③ 運動やスポーツを習慣的にしている子どもの増加					
授業以外で運動やスポーツを週に3日以上している子どもの割合 小学4～6年生	未把握	70.2%	59.4%	75.0%	D
④ ロコモティブシンドローム（運動器症候群）を認知している住民の増加					
ロコモティブシンドローム（運動器症候群）を認知している住民の割合	未把握	19.3%	16.7%	50.0%	C
⑤ 高齢者の社会参加の促進					
憩いのサロンスタッフ数	194人	280人	326人	増加	A
シルバー人材センター会員数	292人	270人	315人	増加	A

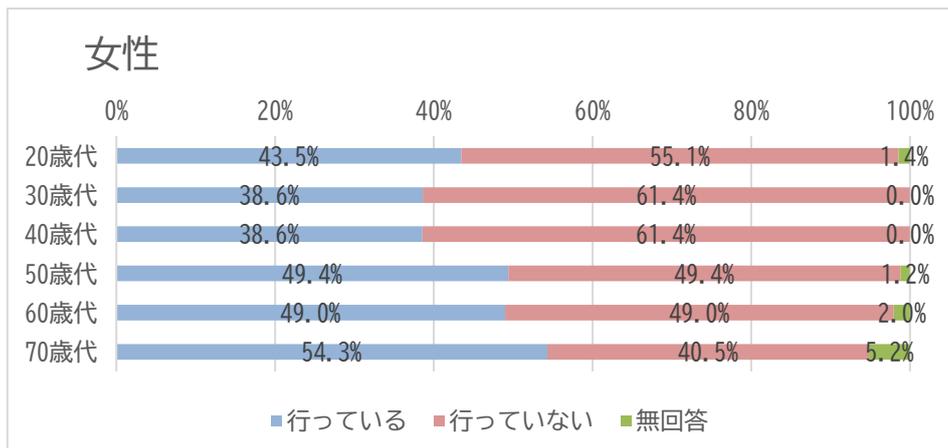
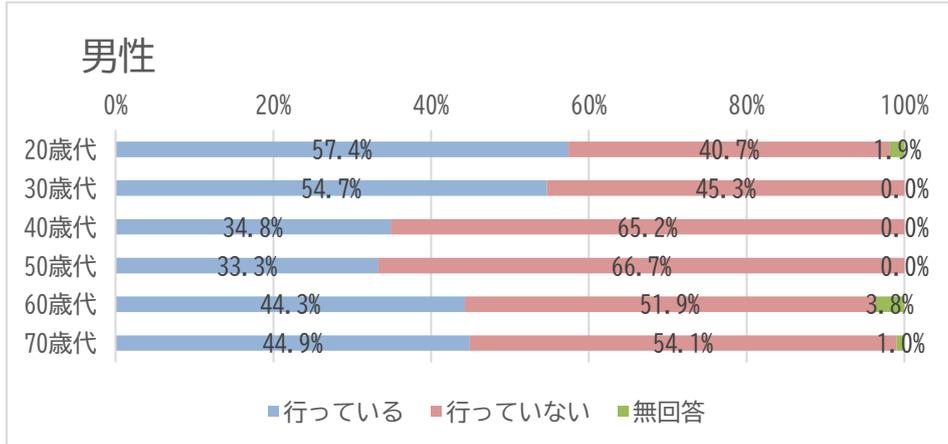
### 【各指標項目の資料等】

項目	資料	担当
①②③④	健康たけとよ21スマイルプラン 中間評価アンケート	健康課
⑤	庁内資料	地域包括支援センター
⑤	町政概要	福祉課

## 現状・考察

【身体活動について】

「あなたは、日常生活において歩行又は同等の身体活動を、1日1時間以上行っていますか？」



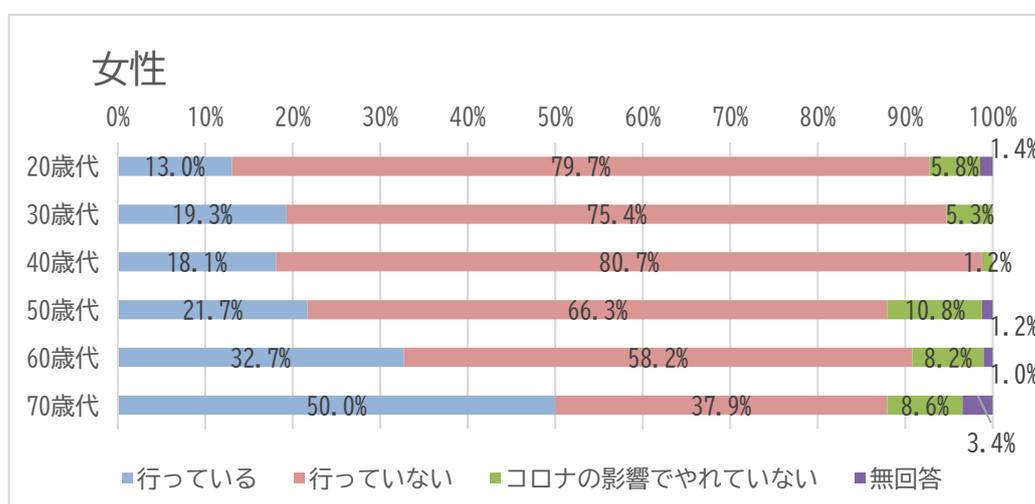
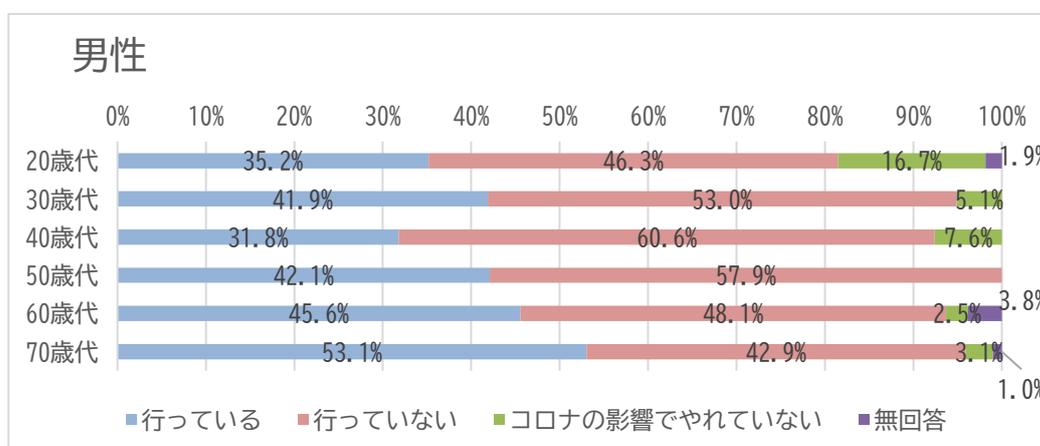
資料：第2期健康たけとよスマイルプラン中間評価②アンケート集計結果

全体として、中間評価①時より2%増加したが、中間評価①時同様、40～50歳代の男性、30～40歳代の女性において「行っていない」と回答した人の割合が高くなっている。20～30歳代男性、70歳代女性が「行っている」と回答した人が5割を超えているが、それ以外の年代では、全て5割を下回っている。

仕事や家事、子育て等で忙しい働き盛りの年代であり、また、本町の交通事情から、多くの人が自動車を移動手段として使っており、生活活動量が少なくなっていることが考えられる。

## 【運動について】

「あなたは1回30分以上の軽く汗をかく運動を週2日以上行っていますか？」



資料：第2期健康たけとよスマイルプラン中間評価②アンケート集計結果

男女とも70歳代以上で「行っている」と回答した人の割合が高く、5割を超えている。しかし、その他の年代ではすべて下回っており、特に20～50歳代女性が「行っていない」と回答した割合が高くなっている。

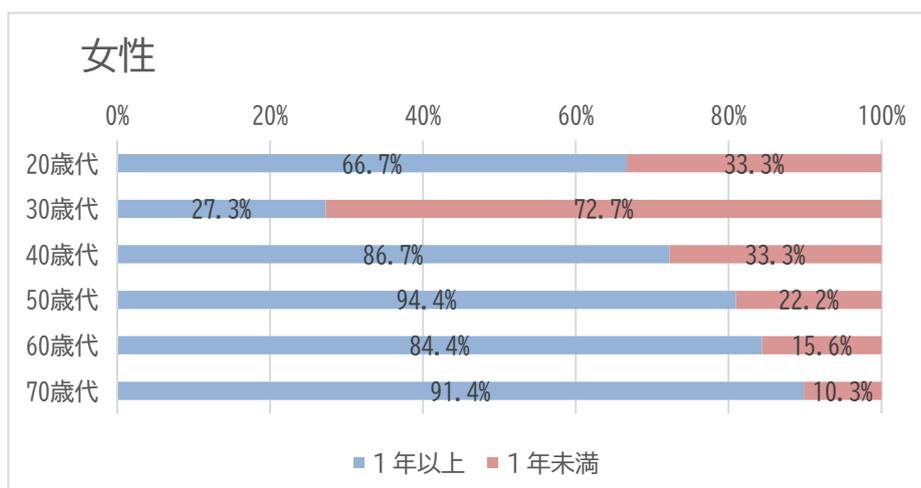
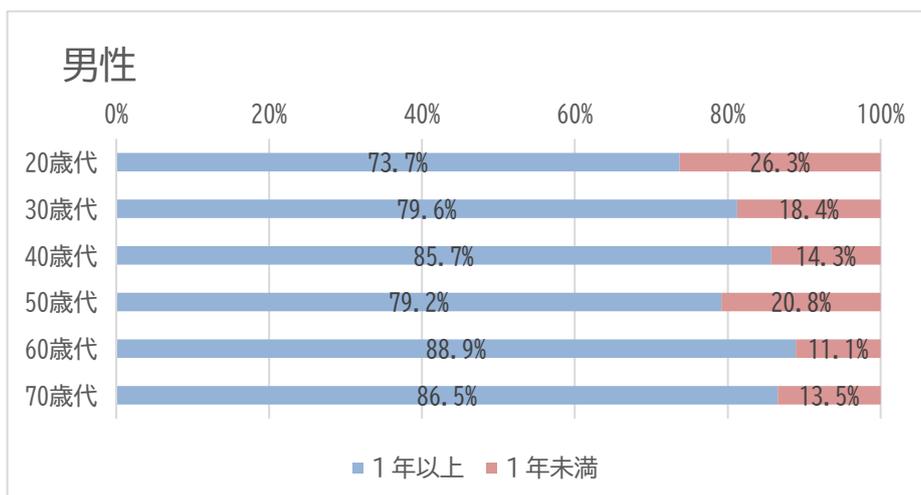
70歳代以上では退職している人が多く、時間にゆとりができることにより、運動時間が確保できていると考えられる。

仕事や家事、子育て等で忙しい働き盛りの年代である20～50歳代女性は、週2回の頻度で1回30分以上の時間をまとめて取ることは難しく、10分程度の短時間の運動を毎日することや日常生活における家事などの活動量を増やしていくことの方が実施しやすいことが考えられる。

## 【運動の継続について】

「どのくらい継続していますか？」

※33頁「あなたは1回30分以上の軽く汗をかく運動を、週2日以上行っていますか？」の設問で「はい」と回答した人より



男性では、全年代で7～8割、女性では40～70歳代で8～9割が1年以上継続できていた。一方で、30歳代女性で運動を継続できている人は3割を切っており、他年代より圧倒的に少ない結果となっていた。運動を始めても習慣化していくのは難しく、子育て中の女性が定期的に運動できる機会を検討していく必要がある。

## 【年代別「運動できない」理由】

「理由は何ですか？」

※33頁「あなたは1回30分以上の軽く汗をかく運動を、週2日以上行っていますか？」の設問で「いいえ」と回答した人より

	運動が嫌い	時間がない	仲間がいない	場所がない	病気等のためできない	必要ない	その他
男	16.7%	48.3%	13.8%	15.4%	7.5%	8.3%	16.3%
20歳代	12.0%	56.0%	4.0%	4.0%	8.0%	4.0%	16.0%
30歳代	6.5%	64.5%	12.9%	21.0%	0.0%	6.5%	17.7%
40歳代	27.5%	62.5%	10.0%	22.5%	2.5%	7.5%	20.0%
50歳代	15.2%	60.6%	18.2%	15.2%	6.1%	3.0%	9.1%
60歳代	13.2%	23.7%	21.1%	7.9%	13.2%	7.9%	18.4%
70歳代	28.6%	19.0%	14.3%	14.3%	19.0%	19.0%	14.3%
女	29.6%	49.2%	12.8%	12.1%	5.9%	3.7%	19.9%
20歳代	30.9%	52.7%	25.5%	27.3%	0.0%	5.5%	16.4%
30歳代	30.2%	81.4%	7.0%	16.3%	0.0%	2.3%	11.6%
40歳代	35.8%	56.7%	11.9%	11.9%	1.5%	3.0%	11.9%
50歳代	23.6%	56.4%	12.7%	5.5%	3.6%	1.8%	23.6%
60歳代	28.1%	33.3%	10.5%	8.8%	12.3%	1.8%	26.3%
70歳代	27.3%	13.6%	6.8%	2.3%	20.5%	9.1%	31.8%
総計	24.1%	48.8%	13.2%	13.5%	6.6%	5.7%	18.4%

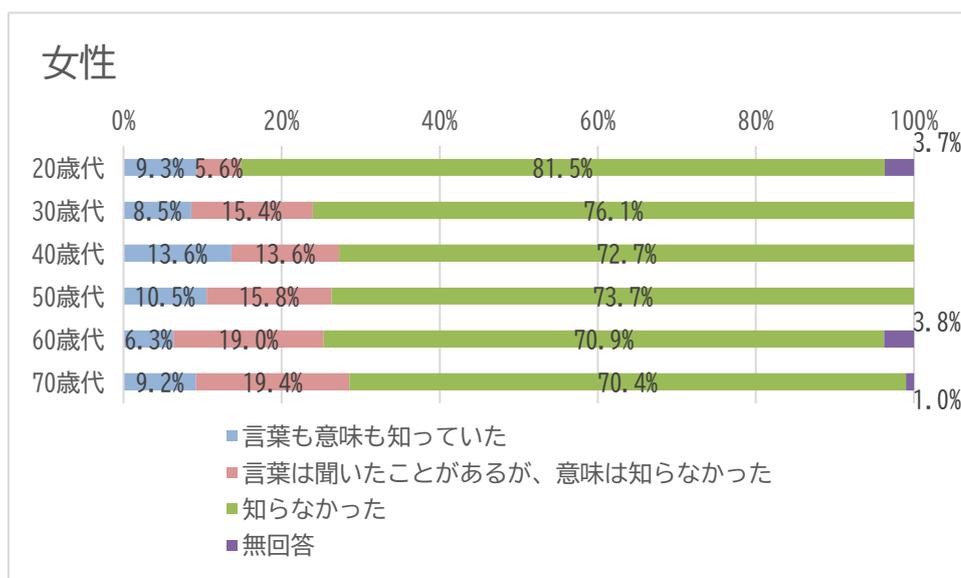
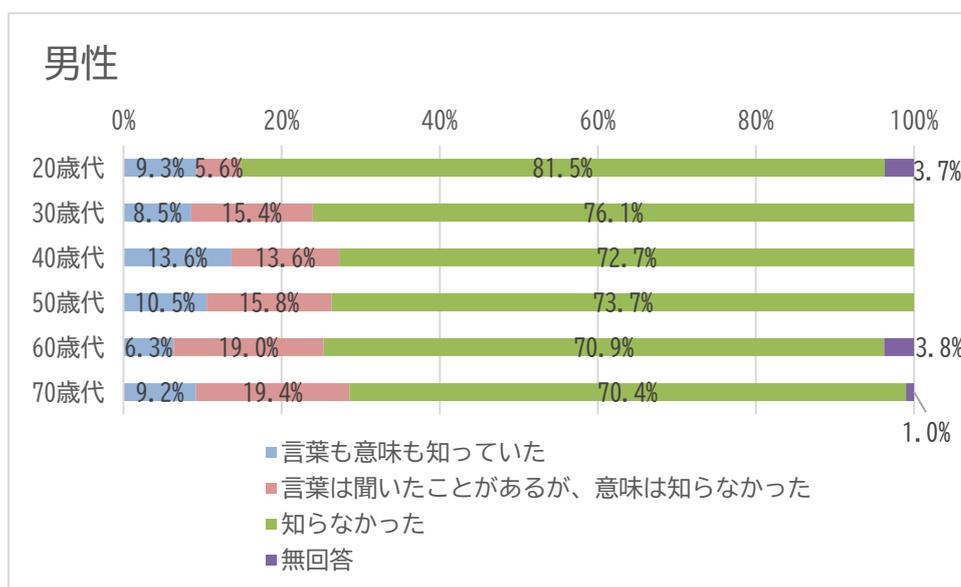
資料：第2期健康たけとよスマイルプラン中間評価②アンケート集計結果

30歳代女性は、運動できない理由として「時間がない」と答えた人が81.4%であり、また運動をはじめても継続できている人の割合が27.3%と、他の年代に比べ圧倒的に低い。このことから、30歳代女性は、家事や幼い子どもの育児等で忙しいことで、運動を継続的に行うことが困難になっていると考えられる。

前述(33頁)したように、子育て世代である人に対しては、10分程度の短時間の運動や日常生活における家事などの活動量を増やすことを勧めることが有効と考える。

## 【ロコモティブシンドロームの認知度】

「あなたはロコモティブシンドローム（運動器症候群）を知っていましたか？」



資料：第2期健康たけとよスマイルプラン中間評価②アンケート集計結果

「言葉も意味も知っていた」と回答した人の割合は、男性で9.3%、女性で23.5%と低くなっている。ロコモティブシンドロームとは、加齢に伴う筋力の低下など運動器の機能が衰えて、要介護や寝たきりになったり、そのリスクが高い状態を表す言葉で、平成19年に提唱されたものであるが、近年では、「フレイル」（虚弱。身体的機能や認知機能の低下）や「サルコペニア」（加齢に伴って生じる骨格筋量と骨格筋力の低下）という言葉も使われるようになり計画策定時と比べ、この言葉の周知機会が少なくなってきたことが認知度の低さの要因と考えられる。

## 中間評価②でみえてきた課題

### ① 40～50歳代男性、20～50歳代女性の運動不足

日常生活において歩行又は同等の身体活動を1日1時間以上行っている人の割合は、40～50歳代男性と30～40歳代女性で低い。40～50歳代男性は肥満の割合も高く、運動習慣を身につけておくことで、メタボリックシンドロームの予防が期待できると考えられる。この世代へアプローチしていく必要があるため、町内企業と連携したり、その年代が来所しそうな施設で啓発するなどが有効と考える。また、30～40歳代女性は家事、育児、仕事等で忙しい年代であり、運動習慣を定着させるには「時間がない」と感じている人も多いことから、運動のために時間を捻出するよりも日常生活の中で活動量を増やすことが有効と考える。

1回30分以上の軽く汗をかく運動を、週2日以上行っている人の割合は、全体的に男性より女性の方が低く、特に20～50歳代女性で低いことから、女性は定期的に運動するより、何かのついでにできることの方が取り入れやすいと考える。そのため、女性に対しては運動習慣の定着を勧めるよりも、日常生活の活動量を手軽に増加できるコツを伝えていくことが必要と考える。

### ② ロコモティブシンドロームの認知度が低い

ロコモティブシンドロームの認知度については、16.7%で、第1回中間評価の19.3%より下がっている結果であった。近年はロコモティブシンドロームの他にフレイルやサルコペニアなどの用語も提唱されるようになり、言葉と意味が一致しにくくなっていることが考えられる。

筋肉量を増やし筋力を強化させることは、壮年期にとってはエネルギーを消耗しやすくするため生活習慣病予防となり、高齢者にとっては転倒予防や腰痛・膝痛予防などの介護予防の効果が期待できる。そのため、今後は言葉を普及させるだけでなく、筋肉を付けること、筋力を強化することの意義を周知し自身が筋力を付けるための行動を取れるように支援していくことが重要である。

## 目標達成に向けた具体的な事業展開

- 身体活動を増やし、筋肉量を増やすこと、筋力を付けることが、介護予防、メタボリックシンドローム予防、腰痛予防等になり、各世代にメリットがあるという情報を町内企業や商工会等の各関係機関と連携し、その世代に合わせた方法で発信する
- 子育て世代が「日常生活で取り入れられるような体操」や、「手軽にできる活動量増加のコツ」についてのチラシを乳幼児健診や保育園等で配布する
- 体を動かすことのきっかけ作りとして、健康たけとよスマイレージを推進する

## 実施事業・関連事業

No	事業名	事業内容	担当課
1	各種健康教育・啓発事業	ウォーキング教室など、様々な世代に向けた運動教室を実施し、身体活動の習慣化を図る。	生涯学習課 スポーツ課 健康課
2	「元気！からだの学校」 体操教室	特定保健指導対象者に対して、メタボ予防の健康体操を実施する。	保険医療課 健康課
3	憩いのサロン	65歳以上を対象に、地域のボランティアが中心となり、健康体操、交流活動などを実施する。	福祉課 地域包括センター 健康課
4	体操サロン	65歳以上を対象に、地域のボランティアが中心となり、筋力アップ・転倒防止のための体操などを実施する。	福祉課 地域包括センター
5	健康づくりリーダーとの協働	憩いのサロンなど地域において体操教室を実施し、健康づくりにおける運動効果を普及・啓発する。	福祉課 地域包括センター
6	企業・全国健康保険協会 愛知支部等との協働と連携	企業や全国健康保険協会愛知支部等と連携し、健康課題の情報提供等を実施する。	健康課
7	学校保健との連携	各地区の健康課題等を盛り込んだ健康教育を実施し、生活習慣病予防や健康意識の向上・健康づくりのきっかけとする。	健康課 学校教育課
8	ウォーキングコース	自然、歴史文化、醸造蔵などテーマに合わせたウォーキングコースや武豊中央公園にウォーキングコースを設け、住民の健康増進を図る。	産業課 都市計画課
9	ゆめたろうスマイルマラソン	部門別マラソン及びファミリージョギングを開催する。	スポーツ課
10	たけとよスポーツ Day ～みそたろうと一緒に チャレンジ&ウォーク～	距離別の3コースのウォーキングや筋力測定等のチャレンジができる館内外イベントを開催する。	スポーツ課
11	体力チェック	握力、上体起こし、長座体前屈、反復横とび、立幅跳び、急歩を実施し、自分自身の体力年齢をチェックする。	スポーツ課
12	体育協会活動事業	各競技スポーツの普及活動として大会を開催する。	スポーツ課
13	スポーツ推進委員活動事業	ニュースポーツ普及復興・出前講座を実施する。	スポーツ課
14	総合型地域スポーツクラブ活動 事業	スポーツクラブ支援・スポーツ全般の普及振興を図る。	スポーツ課
15	介護予防教室	65歳以上を対象に、転倒予防教室など健康づくりに役立つプログラムを提供する。	福祉課 地域包括センター



## (4) 休養・こころの健康

めざす  
姿

“休息・睡眠・相談”でこころのバランスを整えよう

こころの健康づくりに対する意識を高め、日々の生活をいきいきと楽しんで送ることをめざす。

### 中間評価①の方向性

- ① 30歳代男性のうつ傾向割合の減少
- ② 50歳代女性のうつ傾向割合の減少
- ③ 睡眠による休養を十分にとれている人の増加

### 中間評価①からの主な取り組み

- 「愛知いのちの電話」での相談窓口の周知
- 保健師による健康相談、電話相談、家庭訪問の実施
- SOSの出し方教育  
・ 緑丘小学校5年生1クラス（R元年度）



## 指標の達成状況

指標	策定値 (H23年度)	中間評価① (H27年度)	中間評価② (R元年度)	目標値	評価
①気分障がい・不安障がいに相当する心理的苦痛を感じている人の減少					
気分障がい・不安障がいに相当する心理的苦痛を感じている人の割合 (うつ傾向の人の割合)	20～64歳 未把握 65歳以上 27.9%	19.5%	30.8%	14.0%	D
②睡眠による休養を十分にとれていない人の減少					
睡眠による休養を十分にとれていない人の割合	未把握	20.1%	20.3%	15.0%	C
③自分の楽しみを持っている人の増加					
自分の楽しみを持っている人の割合	86.7%	81.7%	82.9%	90.0%	D
④悩みや心配事が相談できる相手や場所がある人の増加					
悩みや心配事が相談できる相手や場所がある人の割合	未把握	79.6%	79.9%	85.0%	C
⑤認知症サポーター延べ養成者数の増加					
認知症サポーター延べ養成者数	540人	1310人	3381人	増加	A

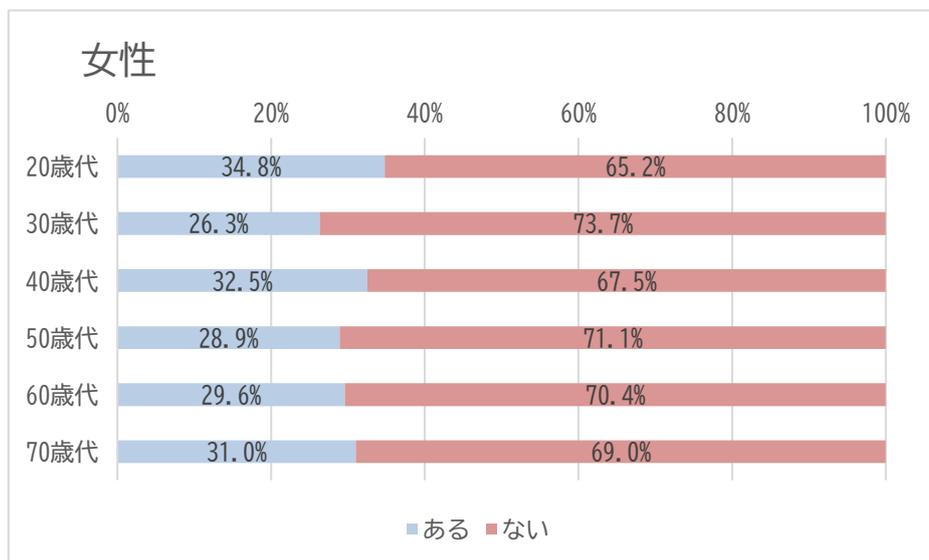
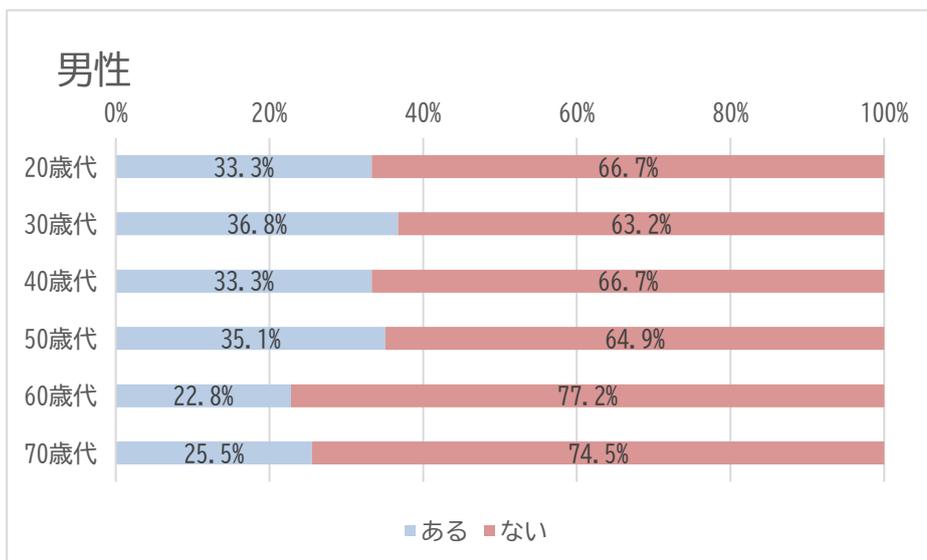
### 【各指標項目の資料等】

項目	資料	担当
①②③④	健康たけとよ21スマイルプラン 中間評価アンケート	健康課
⑤	庁内資料	地域包括支援センター

## 現状・考察

### 【うつ傾向の人の割合について】

ここ2週間において、「毎日の生活に充実感がないと感じる」、「これまで楽しんでやれたことが楽しめなくなった」、「以前は楽にできていたことが今ではおっくうに感じられる」、「自分が役に立つ人間だと思えないと感じる」、「わけもなく疲れたように感じる」の5項目のうち、2項目以上に該当した人をうつ傾向があるとした。

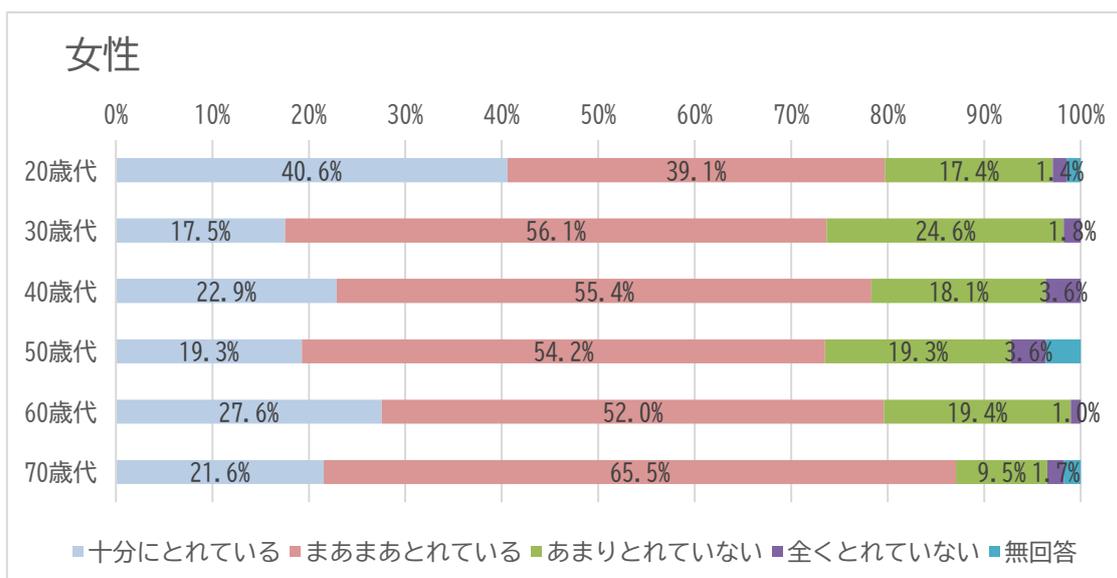
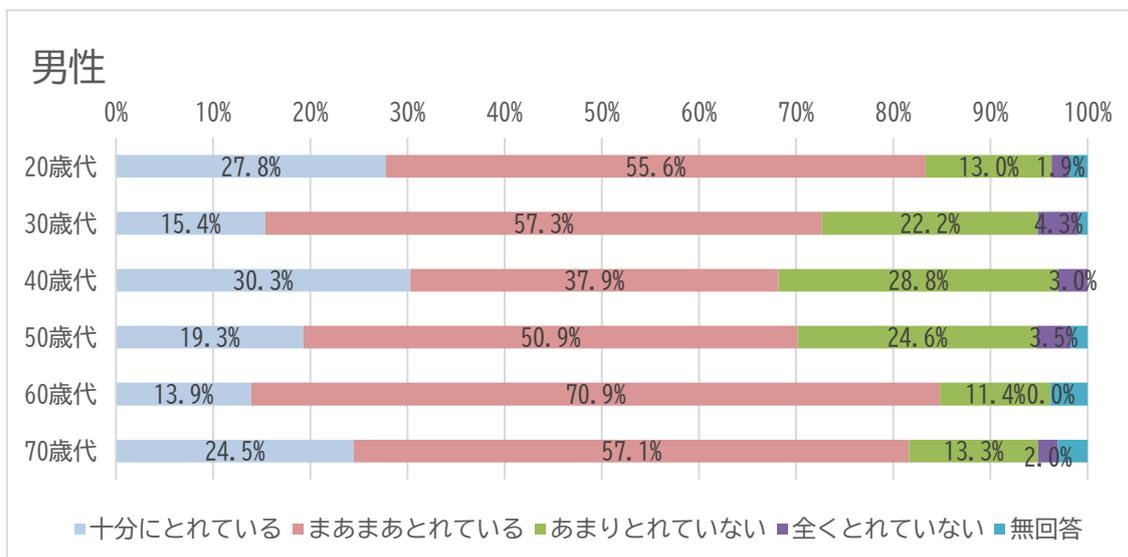


資料：第2期健康たけとよスマイルプラン中間評価②アンケート集計結果

うつ傾向の人の割合は、全体のうち、30.8%で、中間評価①の19.5%より増加していた。今回のアンケートは令和2年7月～8月上旬に行ったものであり、新型コロナウイルス感染症拡大を受け、生活環境が変化し、うつ傾向に影響を及ぼしたことが考えられる。

【睡眠による休養を十分にとれていない人について】

「あなたはここ1か月、睡眠で休養がとれていますか？」

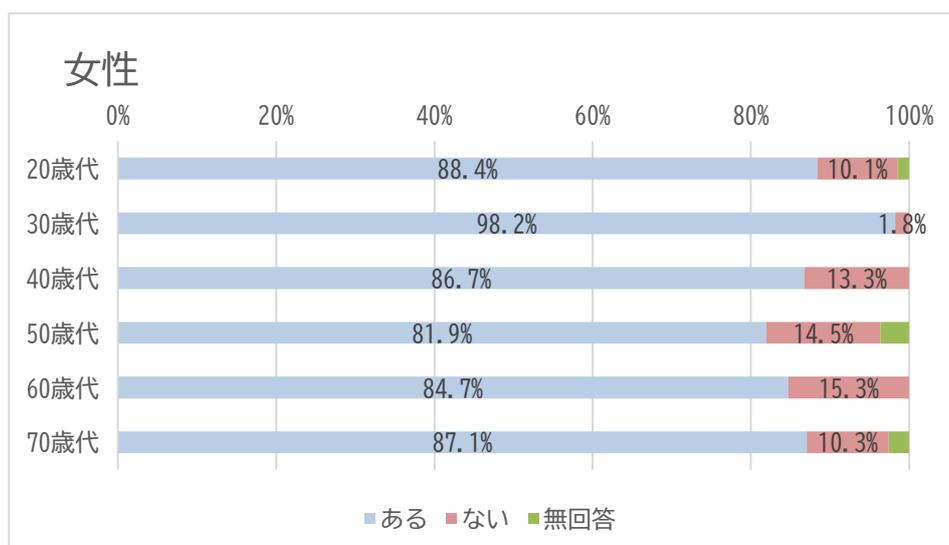
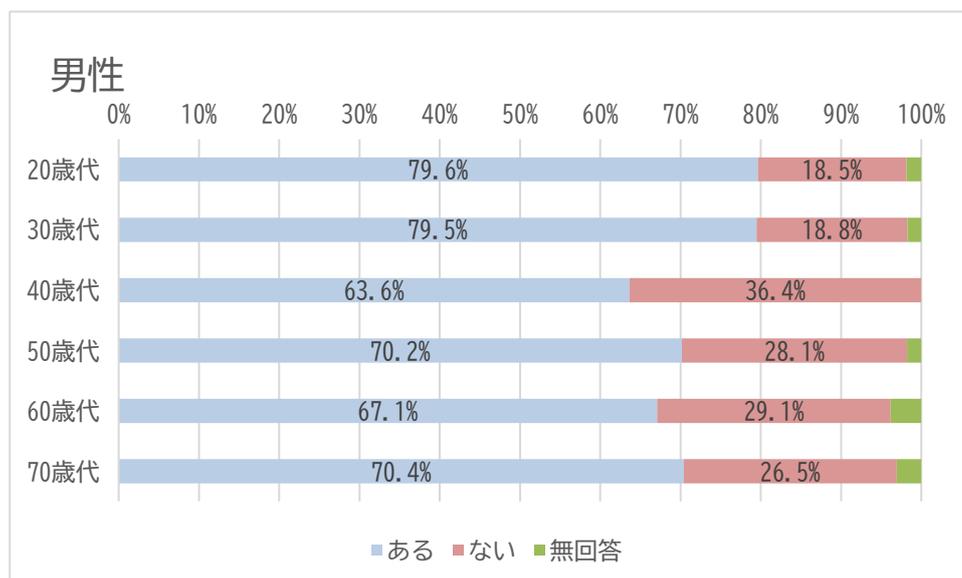


資料：第2期健康たけとよスマイルプラン中間評価②アンケート集計結果

全体的に「まあまあとれている」と回答した人の割合が高くなっている。一方で、30～50歳代男性、30歳代女性では「あまりとれていない」と回答した人が2割以上という結果だった。

## 【悩みや心配事が相談できる相手や場所がある人について】

「あなたは悩みや心配事が相談できる相手や場所がありますか？」



資料：第2期健康たけとよスマイルプラン中間評価②アンケート集計結果

どの年代においても男性より女性の方が「ある」と回答した人の割合が高くなっている。  
また、「ない」と回答した男性を年代別にみると、40歳代が36.4%、60歳代が29.1%、50歳代が28.1%の順で高い割合となっている。

## 中間評価②でみえてきた課題

### ① 全年代におけるうつ傾向割合が高い

今回のアンケートの回収時期は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、国が、「緊急事態宣言」を発令した後であった。感染に対する不安を感じる人、外出制限や3密の回避など生活スタイルに変化があった人が多く、うつ傾向割合が上がった原因の一つとして考えられる。

うつ傾向の予防には、他者に相談したり、気分を発散することが有効と考えられ、感染症予防の啓発とともに、相談機関の周知や感染対策をしながら気分転換を図る方法を紹介する等の必要があると考えられる。

また、うつ傾向と睡眠は、強い関係性があると考えられ、うつ傾向の予防のために質の良い睡眠を確保できるように周知していく必要がある。

### ② 40～60歳代男性の相談できる相手、場所がない人の割合が高い

全年代において、女性の方が男性より相談相手がいると答えており、女性は他者に話して、気分転換をしている人が多いのに比べて、男性は自分一人でため込んでしまう可能性があると考えられる。特に40～60歳代男性は、社会的に責任の重い役割を担っている人も多い年代であるが、周りに相談相手がいなかったため、精神的負担を感じやすくなることが考えられる。

この年代の人たちや周囲に対し、相談機関やストレスやうつとの関わり方のコツ等、必要な情報を周知するために、企業等とも連携し、こころの健康づくりについて、力を入れていく必要があると考える。

## 目標達成に向けた具体的な事業展開

- 専門機関への相談リーフレットの配布の工夫  
例) 企業等とも連携し、リスクの高い人も集まる場所に置く
- 新型コロナウイルス感染症対策についての正しい情報を発信し、新しい生活様式の中でも気分転換を図っていけるよう啓発
- 各種教室やポスター掲示で、質の良い睡眠をとる方法を周知  
例) 入眠前にスマートフォンを見ることによる弊害についての啓発

## 実施事業・関連事業

No	事業名	事業内容	担当課
1	各種健康教育・啓発事業	各課の事業においてメンタルヘルスに関する講座を実施する。	健康課 福祉課
2	健康相談	保健師、精神保健福祉士等による個別精神保健相談を実施する。必要時、家庭訪問を実施する。	健康課 福祉課 地域包括センター 子育て支援課 社会福祉協議会
3	精神保健福祉連絡会	半田保健所、知多南部相談支援センターと連携し、地域の精神保健福祉に関するケース情報を共有化し、具体的な支援をする。	福祉課 健康課 社会福祉協議会
4	憩いのサロン	65歳以上を対象に、地域のボランティアが中心となり、健康体操、交流活動などを実施する。	福祉課 地域包括センター 健康課
5	認知症サポーター養成講座	認知症高齢者を理解し、支援する役割を担う認知症サポーターの養成を住民向け・事業所・小中学校等で実施する。	福祉課 地域包括センター 健康課
6	企業・全国健康保険協会 愛知支部等との協働と連携	企業や全国健康保険協会愛知支部等と連携し、健康課題の情報提供等を実施する。	健康課

## (5)アルコール

めざす  
姿

飲む時・飲む量・飲むペース ルールを守っておつきあい

飲酒についての正しい知識を広めるとともに、妊婦や未成年の飲酒防止をめざす。

### 中間評価①の方向性

- ① (飲酒している人のうち) 50歳代以上で習慣化している人の減少
- ② 未成年者及び妊婦の飲酒について正しく理解している人の割合の維持

### 中間評価①からの主な取り組み

- 小学6年生向けのがん教育にて、飲酒の害についての啓発
- 母子健康手帳交付時に飲酒をやめてない妊婦に対し、禁酒の勧奨



### 指標の達成状況

指標	策定値 (H23年度)	中間評価① (H27年度)	中間評価② (R元年度)	目標値	評価
①生活習慣病のリスクを高める量を飲酒している人の減少					
1日当たりの純アルコール摂取量					
男性 40g 以上の人の割合	29.3%	11.6%	13.4%	15.0%	A
女性 20g 以上の人の割合	14.3%	9.7%	8.9%	3.0%	B-
②未成年者に対する飲酒の害について知っている子どもの増加					
未成年者に対する飲酒の害について知っている子どもの割合					
小学4~6年生	未把握	95.3%	95.5%	100.0%	C
③妊婦中の飲酒をなくす					
妊婦の飲酒率	5.8%	0.8%	0.6%	0%	B+

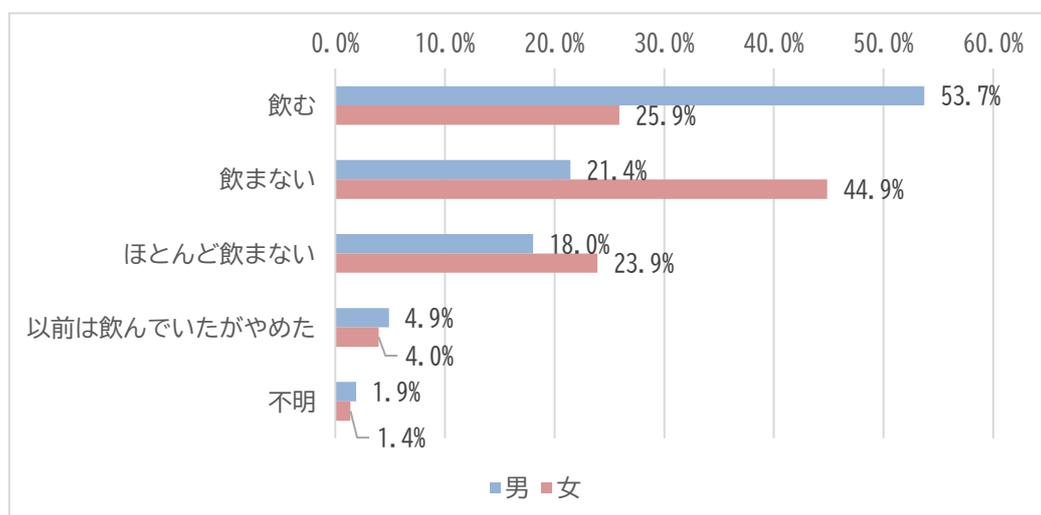
#### 【各指標項目の資料等】

項目	資料	担当
①②	健康たけとよ21スマイルプラン 中間評価アンケート	健康課 学校教育課
③	令和元年度母子保健報告	健康課

## 現状・考察

### 【飲酒している人の割合】

「あなたはお酒を飲みますか？」

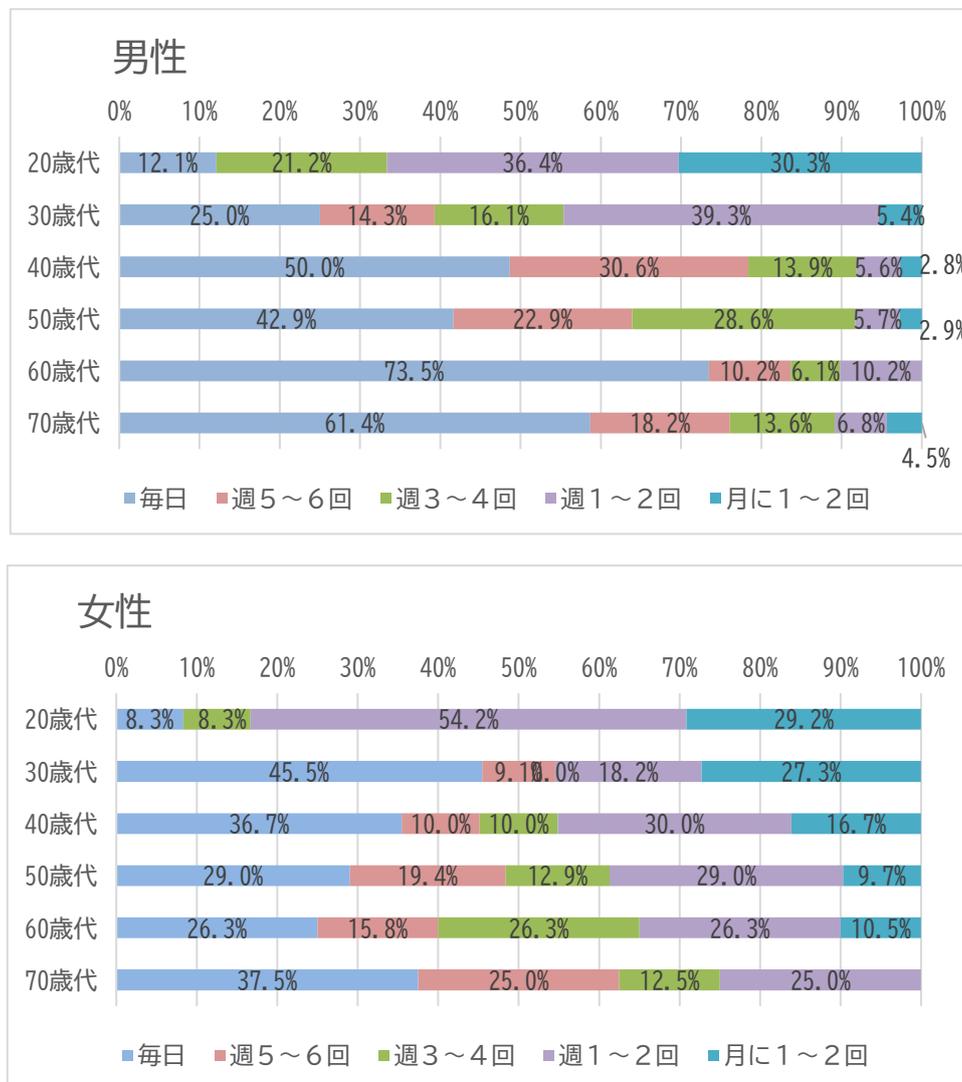


男性の53.7%、女性の25.9%が「はい」と回答し、男性の方が女性より飲酒の習慣がある人が多かった。

【(飲酒している人の) 飲酒頻度について】

「どのくらいの頻度を飲みますか？」

※47頁「あなたはお酒を飲みますか？」の設問で「はい」と回答した人より



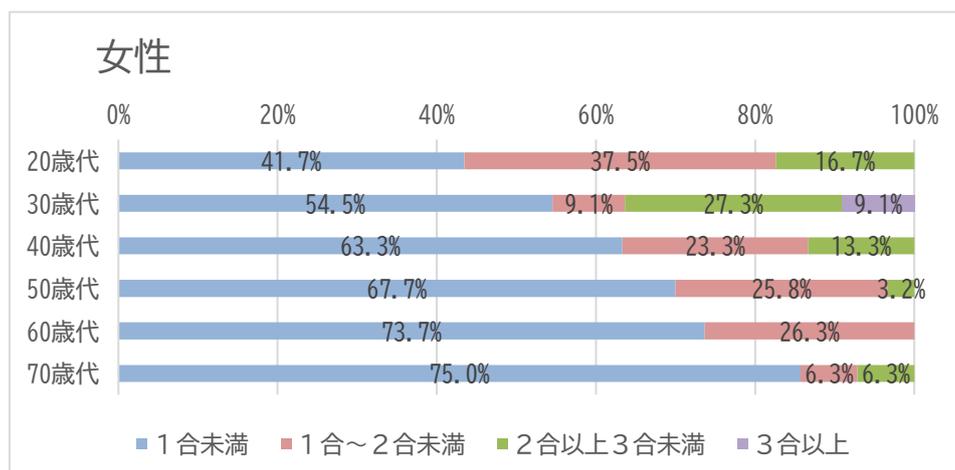
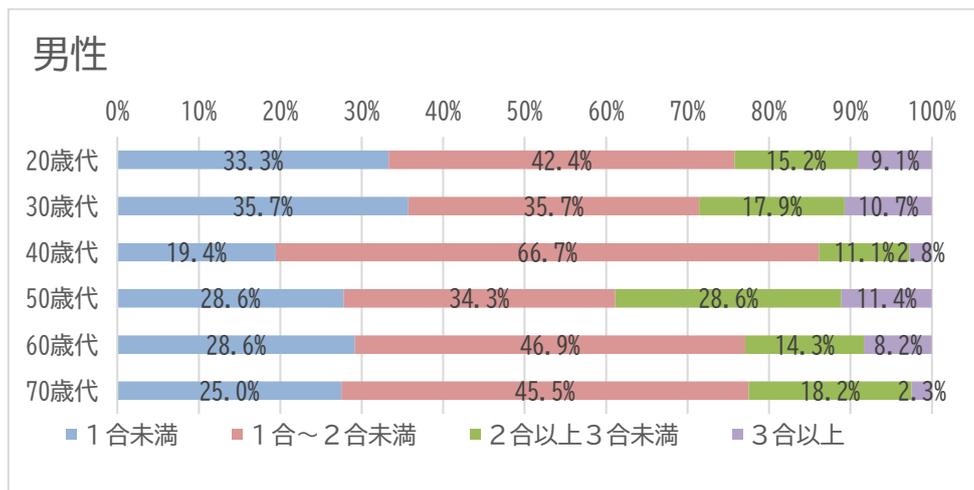
資料：第2期健康たけとよスマイルプラン中間評価②アンケート集計結果

「毎日飲む」と回答した人の割合が、男性では40~70歳代、女性では30歳代が高くなっている。一方、男女ともに20歳代は飲酒頻度が少ない人が多い。

【(飲酒している人の) 飲酒量について】

「どのくらいの量を飲みますか？」

※47頁「あなたはお酒を飲みますか？」の設問で「はい」と回答した人より

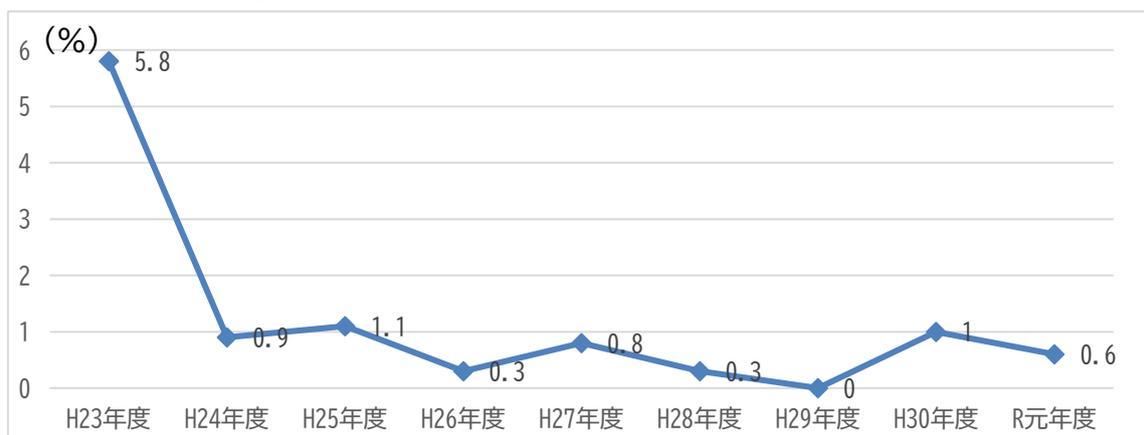


資料：第2期健康たけとよスマイルプラン中間評価②アンケート集計結果

男性では1合～2合未満の割合が高く、女性では1合未満の割合が高かった。

生活習慣病のリスクを高める純アルコール摂取量は、男性40g以上、女性20g以上であり、純アルコール20gに相当する酒量が1合程度である。そのため、1合未満に抑えることが望ましいが、男性で飲酒習慣のある人は、適正量を超えている人が多い。

## 【妊婦の飲酒率について】



資料：母子保健報告

平成23年度から令和元年度までの妊婦の飲酒率の年次推移は、平成24年度に大幅に減少し、その後横ばいになっている。

## 第2回中間評価でみえてきた課題

### ① 飲酒習慣は男性（40～70歳代）で多く、適正量以上摂取している人が多い

毎日飲酒する人の割合は、男性40～70歳代、女性30歳代で高く、飲酒習慣のある人のうち、男性の方が適正量以上を摂取している人が多い傾向にあった。

飲酒習慣のある人が多い40～70歳代男性に対して、適正量の周知や休肝日を推進する必要がある。また、飲酒する際に水やお茶を摂取することで、血中アルコール濃度の上昇を抑える効果があることから肝臓への負担軽減が期待できる。そのため、飲酒の際の工夫についても周知していくことが有効と考えられる。

## 目標達成に向けた具体的な事業展開

### ○ 休肝日、適正量、飲酒の際の工夫等の啓発

例）・40～70歳代男性が多く集まる場所（スポーツジムなど）にポスターを掲示し、健康関心層から意識付けを図る

- ・特定保健指導面接時に飲酒習慣のある人に対しての周知する
- ・がん検診の会場の待合で目に留まりやすいところにポスター掲示

## 実施事業・関連事業

No	事業名	事業内容	担当課
1	各種健康教育・啓発事業	飲酒の害について、公民館まつりで断酒会にチラシを配布してもらうなど町主催のイベントや各種教室で周知を図る。	健康課 生涯学習課
2	学校保健との連携	各地区の健康課題等を盛り込んだ健康教育を実施し、生活習慣病予防や健康意識の向上・健康づくりのきっかけとする。	健康課 学校教育課
3	特定保健指導 (動機づけ支援・積極的支援)	適正な飲酒量の情報提供をする。	保険医療課 健康課
4	母子健康手帳交付時での保健指導	アンケートにより、妊婦の飲酒習慣の有無を把握し、保健指導を実施する。	健康課
5	健康相談	保健師、精神保健福祉士等による健康相談を実施する。必要時、家庭訪問を実施する。	健康課 福祉課 地域包括センター 社会福祉協議会
6	企業・全国健康保険協会 愛知支部等との協働と連携	企業や全国健康保険協会愛知支部等と連携し、健康課題の情報提供等を実施する。	健康課



## (6) たばこ

めざす  
姿

たばこの煙は「吸わない」「吸わせない」

たばこの害を正しく理解し、禁煙および受動喫煙防止の意識向上をめざす。

### 中間評価①の方向性

- ① 成人の喫煙率低下
- ② 育児期間中における同居家族の喫煙率の低下
- ③ COPDの認知度の向上

### 中間評価①からの取り組み

- 保険医療課と協力し、依存症予防教室を開催（R元年度）
- 母子健康手帳交付時に喫煙者の妊婦または家族が喫煙者の人に対し保健指導の実施

### 指標の達成状況

指標	策定値 (H23 年度)	中間評価① (H27 年度)	中間評価② (R 元年度)	目標値	評価
① COPDの認知度の向上					
COPDについて知っている人の割合	未把握	17.4%	18.4%	30.0%	C
② 成人の喫煙率の減少（喫煙をやめたい人がやめる）					
成人の喫煙率					
男性	23.5%	25.7%	23.1%	17.0%	C
女性	4.1%	6.3%	4.9%	4.0%	D
③ 喫煙することで受ける害を知っている人の増加					
喫煙することで受ける害を知っている人の割合	89.1%	96.1%	99.9%	100.0%	A
④ 受動喫煙防止の取り組みを行っている施設の増加					
受動喫煙防止対策実施認定制度を受けている施設数	118 か所	148 か所	— ※既存特定飲食提供施設 28 か所 (経過措置)	増加	E

指標	策定値 (H23年度)	中間評価① (H27年度)	中間評価② (R元年度)	目標値	評価
⑤ 喫煙・受動喫煙の害について知っている子どもの増加					
喫煙・受動喫煙の害について知っている子どもの割合 小学4～6年生	未把握	97.4%	98.5%	100.0%	B-
周りで喫煙している人がいると答えた子どもの割合 小学4～6年生	未把握	60.3%	56.9%	50.0%	B-
⑥ 妊娠中の喫煙をなくす					
妊婦の喫煙率	7.1%	2.4%	2.2%	0%	B+
⑦ 育児期間中の同居の家族の喫煙をなくす					
同居の家族の喫煙率					
3か月児健康診査時	41.0%	46.3%	36.9%	0%	B-
1歳6か月児健康診査時	45.5%	45.5%	39.3%	0%	B-
3歳児健康診査時	46.5%	45.2%	39.1%	0%	B-

【各指標項目の資料等】

項目	資料	担当
①②③⑤	健康たけとよ21スマイルプラン 中間評価アンケート	健康課 学校教育課
④	半田保健所資料（※既存特定飲食提供施設数）	健康課
⑥	令和元年度母子保健報告	健康課
⑦	令和元年度母子健康診査マニュアル集計結果	健康課

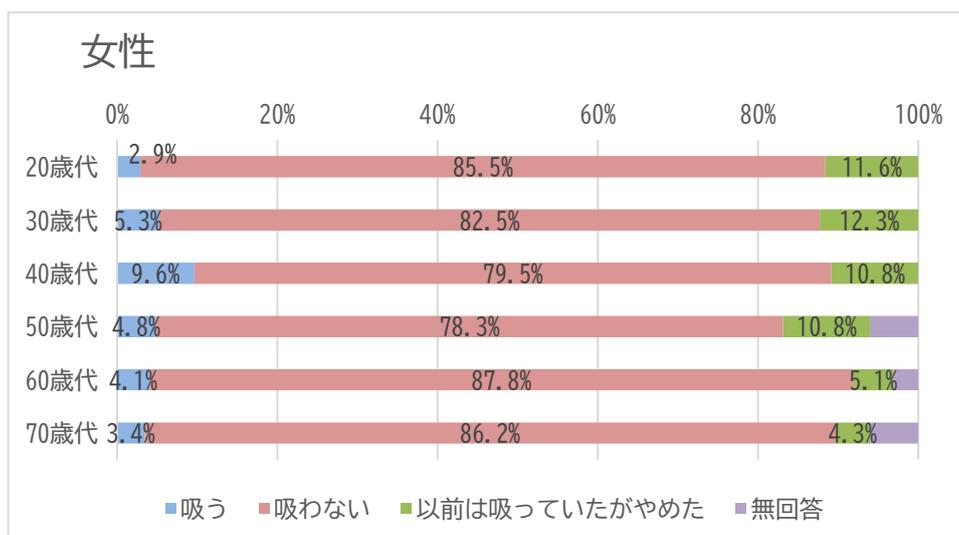
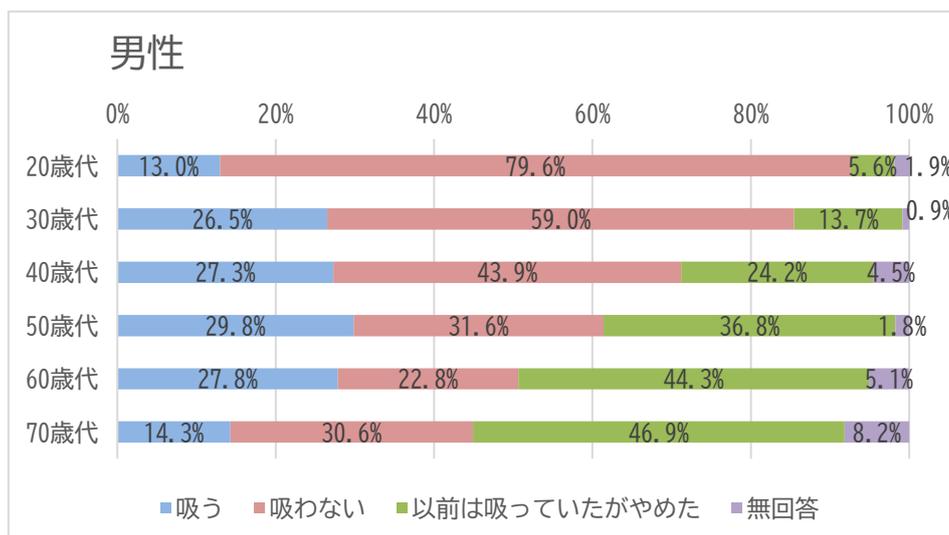
※既存特定飲食提供施設

改正健康増進法に伴い、令和2年4月1日より、様々な施設で原則屋内禁煙となったが、経過措置として、小規模な飲食店は、喫煙可能な場所である旨を掲示することで、店内での喫煙が可能である。登録には既存特定飲食提供施設として半田保健所に届け出る必要がある。

## 現状・考察

【喫煙状況について】

「あなたはたばこを吸いますか？」



資料：第2期健康たけとよスマイルプラン中間評価アンケート集計結果

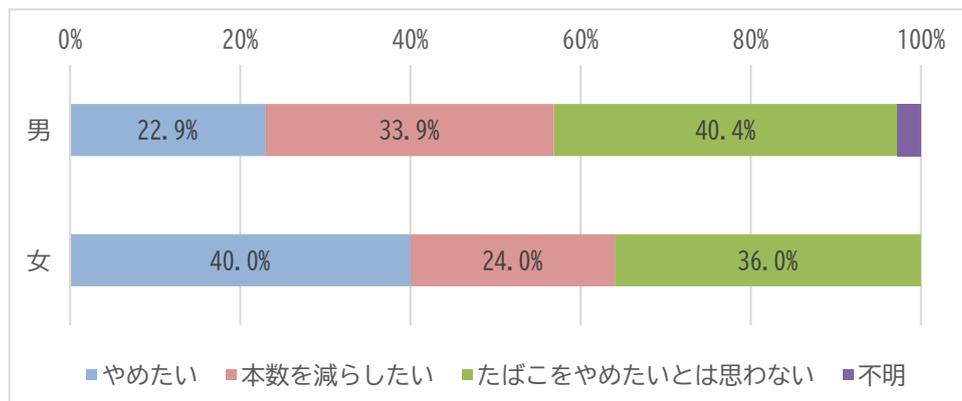
「あなたはたばこを吸いますか？」という設問に対して、「吸う」と回答した人の割合は男性23.1%、女性4.9%であり、中間評価①より下がっているが、目標値は達成していない。

また、30～60歳代男性は約3割弱、が「吸う」と回答しており、他の年代と比較して喫煙率が高くなっている。女性では40歳代の喫煙率がやや高くなっている。

【喫煙者対象）たばこを吸うことについて】

「たばこを吸うことについて、どう思いますか？」

※54頁「あなたはたばこを吸いますか？」の設問で「はい」と回答した人より



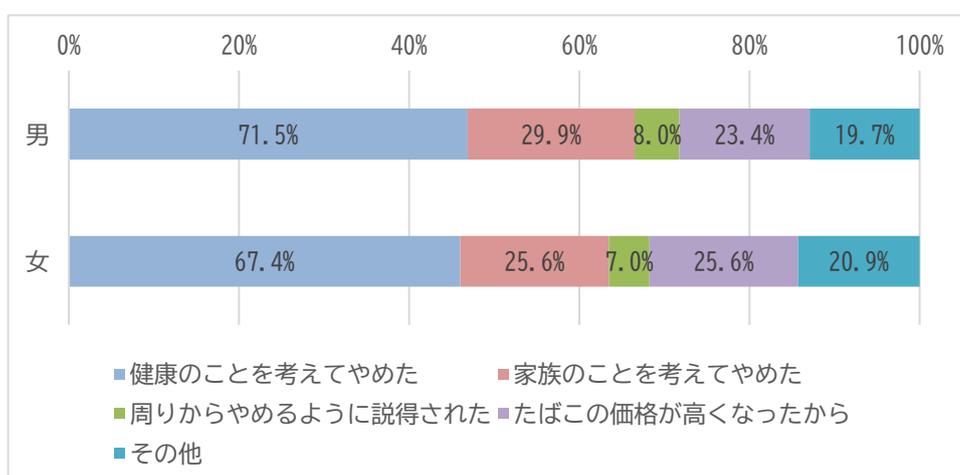
資料：第2期健康たけとよスマイルプラン中間評価②アンケート集計結果

「やめたい」、「本数を減らしたい」と答えた人が男女ともに半数以上の割合であり、現状を改善したいと考えている人が多い結果だった。

【禁煙のきっかけについて】

「禁煙できたきっかけは何ですか？」

※54頁「あなたはたばこを吸いますか？」の設問で「以前は吸っていたがやめた」と回答した人より

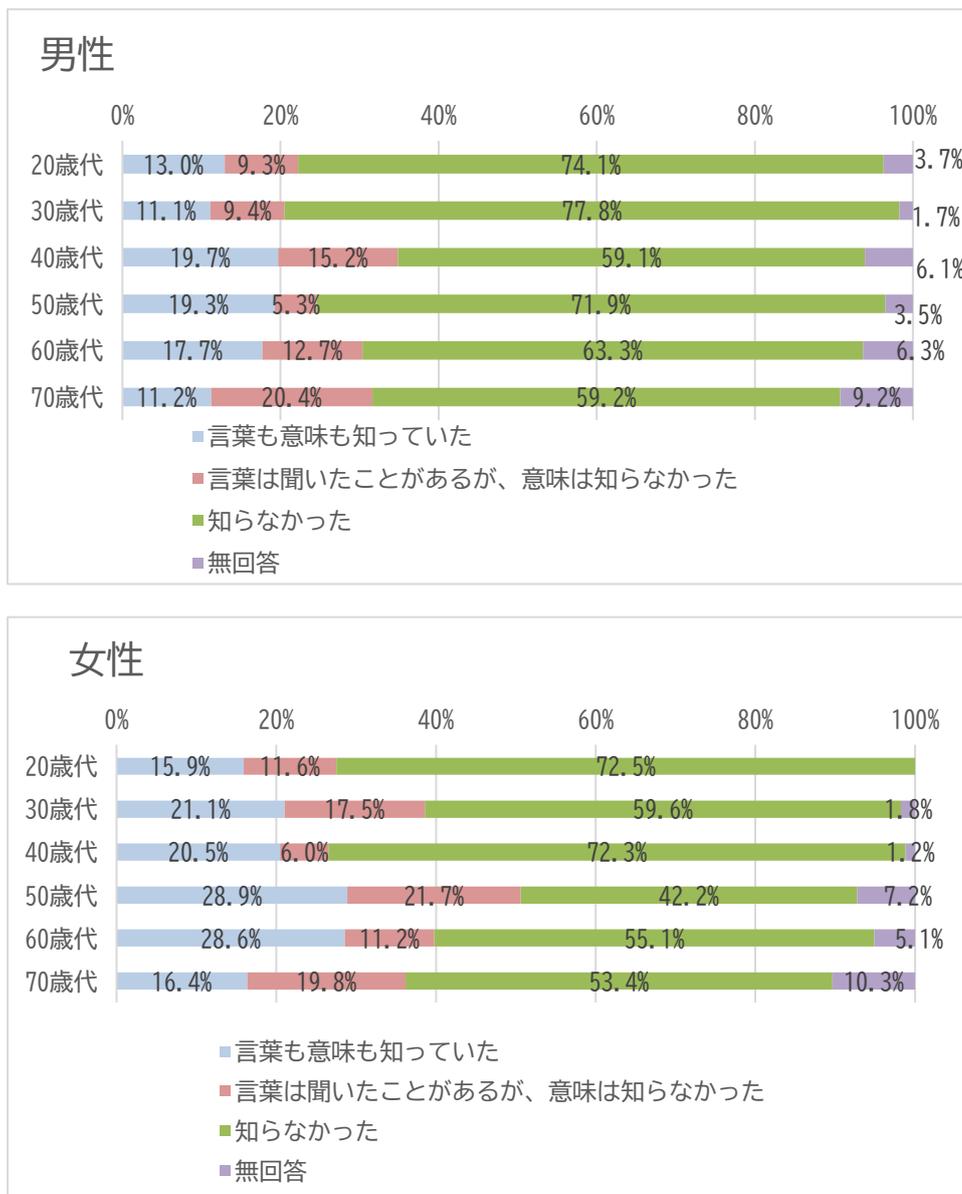


資料：第2期健康たけとよスマイルプラン中間評価②アンケート集計結果

「以前は吸っていたがやめた」と回答した人の割合が、男性29.1%、女性8.5%であった、そのうち禁煙できたきっかけとして、男女とも「健康のことを考えてやめた」と回答する人の割合が高くなっている。次いで多いのが、「家族のことを考えてやめた」、「たばこの価格が高くなったから」で、「その他」と回答した人の中には「病気をしたから」「妊娠がきっかけ」と回答する人が多かった。

## 【COPDの認知度について】

「あなたはCOPD（慢性閉塞性肺疾患）を知っていましたか？」



資料：第2期健康たけとよスマイルプラン中間評価②アンケート集計結果

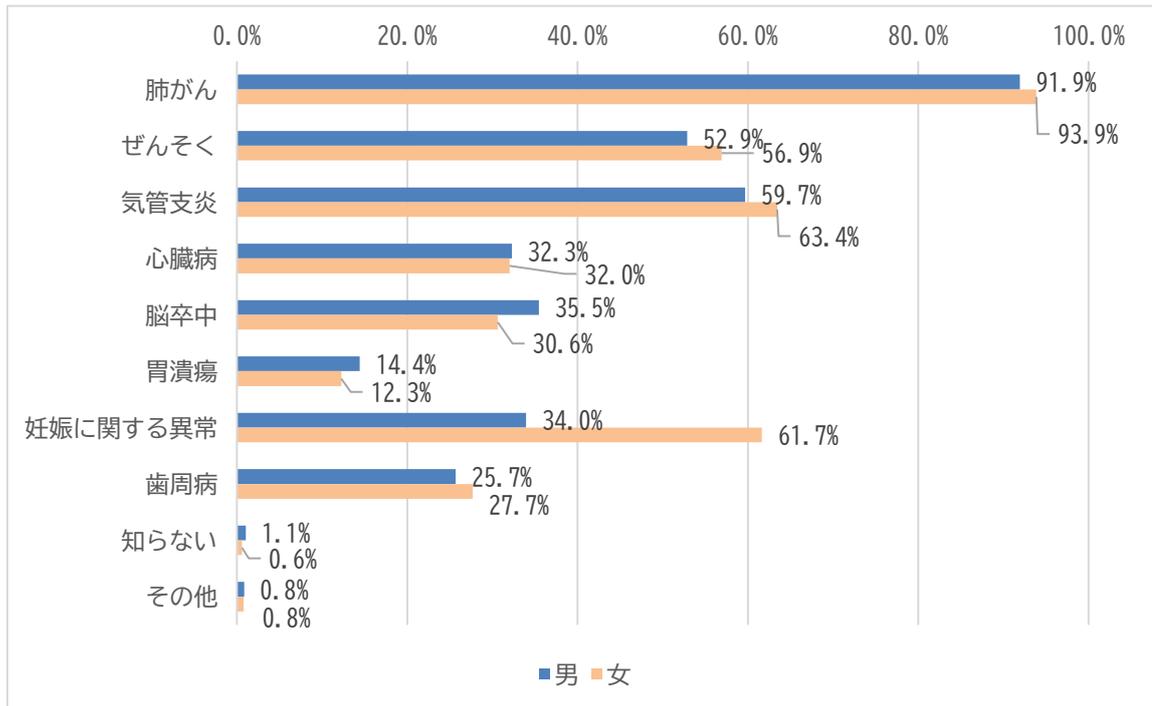
「言葉も意味も知っていた」と回答した人の割合は、18.4%と低くなっており、中間評価①時より微増しているが、目標に達していない。

また、20～30歳代男性、50歳代男性、20歳代女性、40歳代女性の7割以上が「知らなかった」と回答した。

COPDの周知は全体的に行う必要があるが、喫煙は始めると依存につながりやすく、やめることが困難になるため、非喫煙率の高い20歳代をはじめ、子どものうちから喫煙によるリスクについて周知していくことが有効と考えられる。

【喫煙に関する病気について】

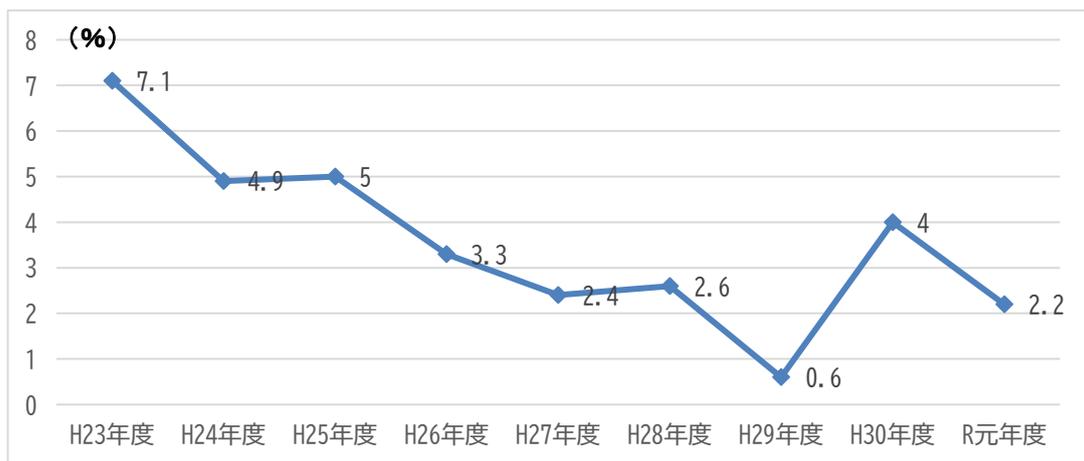
「あなたが知っている、喫煙に関する病気は何ですか？」



資料：第2期健康たけとよスマイルプラン中間評価②アンケート集計結果

「肺がん」と回答した人の割合が9割以上と高くなっている。次いで「気管支炎」、「ぜんそく」の認知度が高くなっている。また、「妊娠に関する異常」は女性で61.7%であるのに対し、男性では34.0%と低くなっており、特に男性への周知が必要であると考えられる。

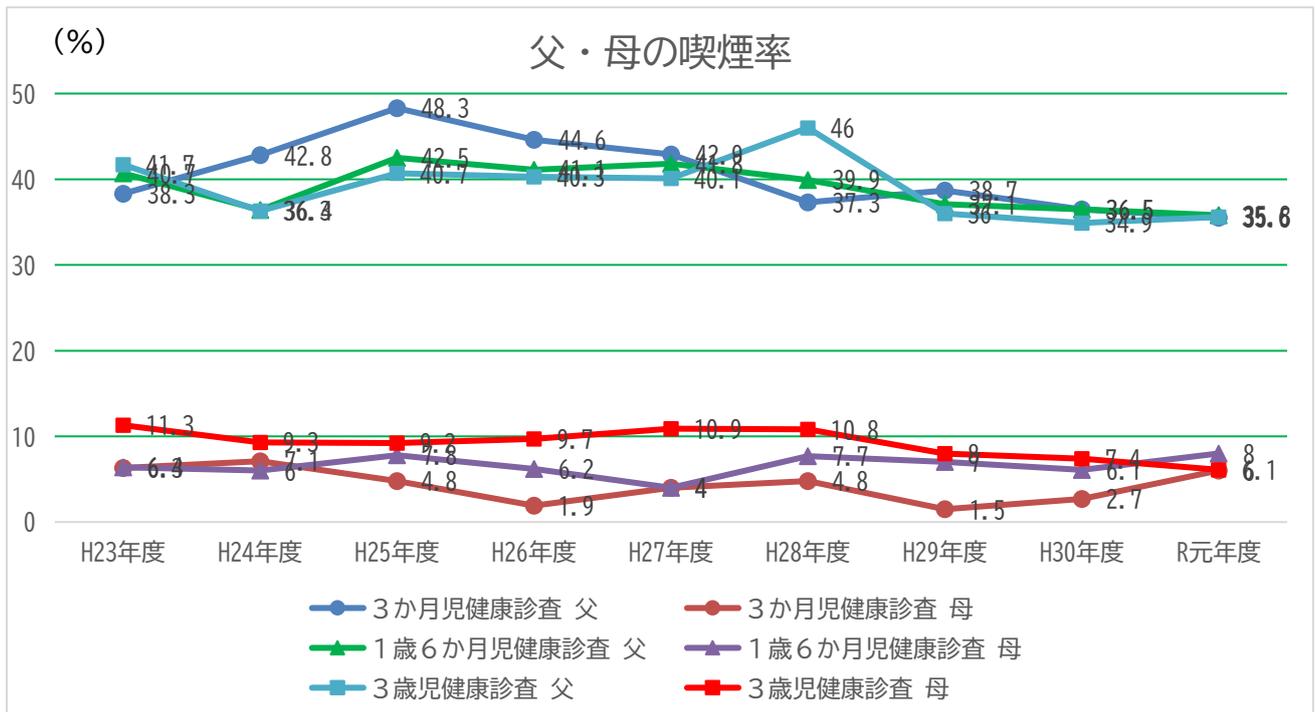
【妊婦の喫煙率について】



資料：母子保健報告

妊婦の喫煙率は、平成30年度に少し上がったが、近年では徐々に低下している傾向があり、目標には達してはいないが、策定時、中間評価①時より低くなっている。

【乳幼児健診の間診での父母の喫煙率について】



資料：母子保健報告

乳幼児健診の間診の中で聞き取った父母の喫煙率は、父の喫煙率の方が高く、3～4割が喫煙者であった。母の喫煙率は、ほぼ1割未満であった。

また、父の喫煙率は3か月児健診、1歳6か月児健診、3歳児健診において割合が大きく変わらないのに対し、母の喫煙率は3か月児健診で低く、次いで1歳6か月児健診、3歳児健診の順に高くなる傾向があった。

妊娠中や乳児を育児している母親の喫煙率は低くなっているのに対し、幼児期になるにつれて、喫煙率が高くなることから、育児中の保護者に対しても、喫煙が及ぼす影響も周知していく必要があると考える。

## 中間評価②でみえてきた課題

### ① 成人の喫煙率が低下しない

平成23年度と比較して、成人の喫煙率は男女ともほぼ横ばいである。中間評価①時よりは低下しているが、目標値は達成していない。

喫煙は本人だけでなく、受動喫煙による周囲への影響も大きいことから、喫煙率の減少は重要な課題であるとする。

特に20～60歳代男性の約3割弱は喫煙者である。喫煙は依存性が高く、喫煙者になってからはなかなかやめることができないため、非喫煙者のうちに喫煙の健康被害等の周知をしていくことが良いと考えられ、若年層のいる企業や学校保健との連携が必要になってくる。

## ② 育児期間中における父の喫煙率が高い

## ③ 子どもの成長とともに母の喫煙率が高くなる

喫煙に関する病気のうち、「妊娠に関する異常」についての認知度が、特に男性で低くなっている。たばこによる害は喫煙者のみならず、受動喫煙により非喫煙者にも大きく関与し、子どもの成長、発達に悪影響を与える。妊婦のみならず男性への周知も重要であると考えられるため、両親学級等、父親が集まりそうな場での周知が必要である。

また、子どもが成長するにつれ、母親の喫煙率が高くなることから、育児等のストレス解消法として喫煙を選ぶ人もいることが考えられるが、子どもへの悪影響について、健診等で継続的に周知する必要があると考える。

## ④ COPDの認知度が低い

COPDについて「言葉も意味も知っていた」と回答した人は18.4%であり、中間評価①よりは微増したが、目標値30.0%は達成していない。

COPDの言葉を普及することは難しいかもしれないが、たばこの害について「肺がん」、「気管支炎」等の呼吸器疾患以外にも、心臓疾患や脳疾患、歯周病等の様々な健康問題と関連が強いことを周知していく必要があると考える。

## 目標達成に向けた具体的な事業展開

- 学校保健と連携し、子どものうちから喫煙・受動喫煙に関する知識を普及
- 町内企業と連携し、若年層に向け、喫煙を始めないように健康被害のリスクを周知
- 子どもが受動喫煙の害にさらされないよう、子育て中の人に健康被害のリスクを周知  
例) ・10か月児すくすく相談来所者に向け、子どもの成長につれ喫煙率が上がること、受動喫煙による健康被害についてのチラシを配布し、喫煙しないように促す  
・1歳6か月児健診、2歳児歯科健診、3歳児健診において、受動喫煙による子どもへの健康被害を周知する（ポスター掲示等）
- フレッシュパパママ教室（妊婦向けの両親学級）にて、たばこの害についての啓発チラシを配布

## 実施事業・関連事業

No	事業名	事業内容	担当課
1	各種健康教育・啓発事業	町主催のイベントや各種教室において、たばこの害について周知を図るとともに、禁煙治療のできる医療機関の情報を収集し、広く周知を図る。	健康課
2	学校保健との連携	各地区の健康課題等を盛り込んだ健康教育を実施し、生活習慣病予防や健康意識の向上・健康づくりのきっかけとする。	健康課 学校教育課
3	母子健康手帳交付時での保健指導	アンケートにより、妊婦及び家族の喫煙習慣の有無を把握し、保健指導を実施する。	健康課
4	3か月児・1歳6か月児・3歳児健康診査時アンケート	問診項目で父母の喫煙習慣の有無を把握し、保健指導を実施する。	健康課
5	健康相談	特定保健指導の実施時に保健師等による健康相談を行い、たばこの害の周知啓発を図る。	健康課
6	企業・全国健康保険協会愛知支部等との協働と連携	企業や全国健康保険協会愛知支部等と連携し、健康課題の情報提供等を実施する。	健康課
7	薬物乱用防止啓発事業	薬物乱用のない地域づくりをめざし、薬物乱用防止の街頭活動を実施する。	健康課 福祉課 生涯学習課

## 削除・変更する指標

変更前指標	変更前目標値
受動喫煙防止対策実施認定制度を受けている施設数	増加
変更後指標	変更後目標値
既存特定飲食提供施設数（経過措置）	減少
<p>理由：平成30年度に健康増進法の一部を改正する法律が施行され、令和2年4月1日より飲食店等が原則禁煙となった。そのため、経過措置として「既存特定飲食提供施設」の登録をしている施設（飲食店のうち、喫煙可能な届出をしている施設）を減らすことを目標とした。</p>	

## (7) 歯・口腔の健康

めざす  
姿

いい歯！いい口！いい笑顔！噛めておいしい歯っぴーライフ

生涯にわたり自分の歯でしっかり噛めるように、歯科保健の意識向上をめざす。

### 中間評価①の方向性

- ① 3歳児でう蝕がない子の増加
- ② 歯周病検診受診率の向上

### 中間評価①からの取り組み

- 歯周病検診対象者に対する受診勧奨
- 歯と口の衛生週間での健診、フッ素塗布の実施
- 広報誌等での歯周病のリスクの啓発
- 各保育園にて虫歯予防教室を実施
- 10か月児すくすく相談にて歯科衛生士からの講話
- 10か月児すくすく相談にて赤ちゃん用の歯ブラシのプレゼント（R2年度～）



## 指標の達成状況

指標	策定値 (H23年度)	中間評価① (H27年度)	中間評価② (R元年度)	目標値	評価
①歯周病検診受診率の増加					
歯周病検診受診率	13.5%	13.4%	9.1%	20.0%	D
②歯の喪失防止					
60歳で24歯以上の自分の歯を有する人の割合	76.3%	88.5%	90.6%	90.0%	A
40歳で喪失歯のない人の割合	87.1%	93.2%	95.0%	95.0%	A
③歯周疾患を有する人の減少					
進行した歯周炎を有する人の割合 (CPI 3または4に該当する人)					
40歳代	32.3%	13.5%	32.6%	10.0%	C
60歳代	30.3%	21.2%	69.5%	15.0%	D
④過去1年間に歯科検診を受診した人の増加					
過去1年間に歯科検診を受診した人の割合	未把握	63.1%	64.5%	70.0%	B-
⑤1日に2回以上歯をみがく人の増加					
1日に2回以上歯をみがく人の割合	67.2%	70.0%	70.4%	80.0%	B-
⑥3歳児でう蝕がない子の増加					
3歳児健康診査の歯科健診においてう蝕罹患型が0型の子の割合	89.0%	85.5%	93.4%	95.0%	B+
⑦12歳でう蝕がない児童の増加					
学校健康診査の歯科検診における12歳児(中学1年生)の永久歯のう蝕がない児童の割合	59.8%	72.3%	70.2%	77.0%	B+

### 【各指標項目の資料等】

項目	資料	担当
①②③	歯周病検診結果	健康課
④⑤	健康たけとよ21スマイルプラン 中間評価アンケート	健康課
⑥⑦	歯科保健事業実施報告(地域歯科保健業務状況報告)	健康課

## 現状・考察

### 【歯周病検診の受診率について】

策定時、中間評価①時と比較して、受診率が低下しているが、過去1年間に歯科検診を受診した人の割合は上がっている。歯周病検診の対象者は35～75歳の5歳刻みの年齢の人のうち、定期受診、定期健診を受けていない人であるため、歯周病検診の受診率は下がったが、歯科検診をする人の割合が下がったとは言い切れない。ただ、策定時と中間評価①時と比べ、対象者に、35歳が加わったこと以外は同条件であるが、歯周病検診受診率が下がっているため、受診率が低いと言え、今後も課題として取り組む必要がある。

年代別にみると35～60歳の5歳刻みの年齢の人の受診率は約7～8%であるが65～75歳の人の受診率は約11～14%であり、仕事等で忙しい世代の人たちにとっては、歯や口腔の健康管理が後回しになっている可能性が考えられる。

### 【歯周病を有する人について】

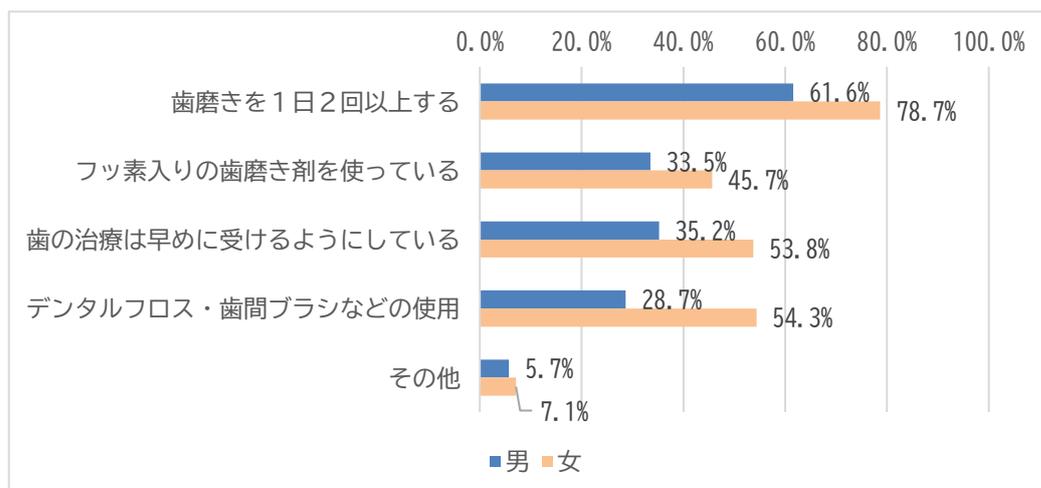
CPIとは歯周病指数のことであり、4～5mmの歯周ポケットが存在する場合がCPI3となり、6mm以上の歯周ポケットが存在する場合がCPI4となるが、歯周病検診を受けた人のうち、CPI3または4に該当する人が、40歳代で32.6%、60歳代で69.5%の割合となっており、策定時、中間評価①時より高くなっている。歯周病は全身の健康状態と関連すると言われているため、口腔ケアの必要性や方法を周知していくことが、重要である。

### 【子どものう蝕について】

策定時、中間評価①時と比較して、3歳児でう蝕がない子の割合は高くなっている。12歳でう蝕がない児童の割合は策定時より高くなっているが、中間評価①時と比較するとやや低くなっている。12歳においてう蝕のない児童が策定時より増加したのは、平成26年9月より町内4小学校の全学年を対象にフッ化物洗口を実施していることも一つの要因と考えられる。

## 【歯の健康管理について】

「あなたは歯の健康管理として実践していることはありますか？」



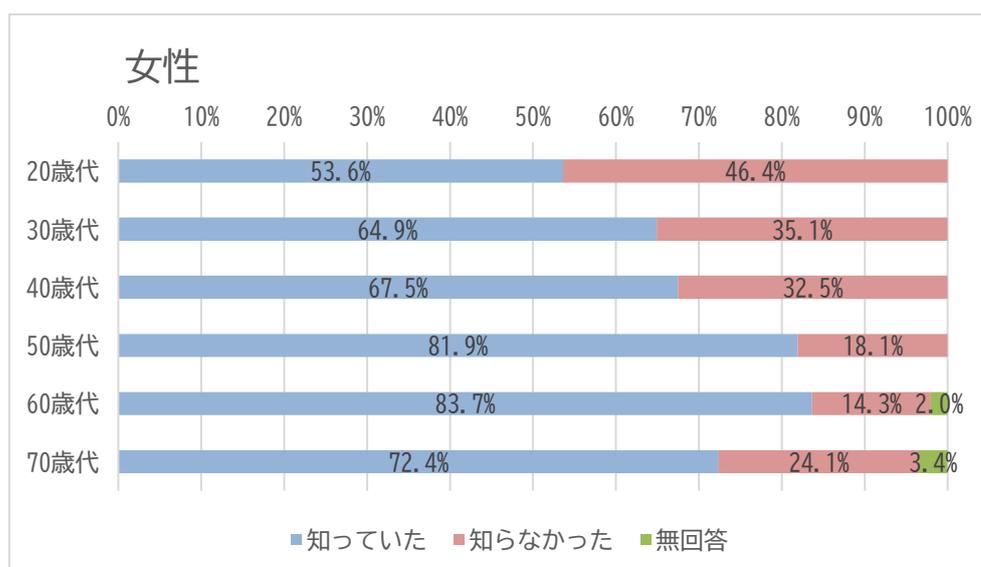
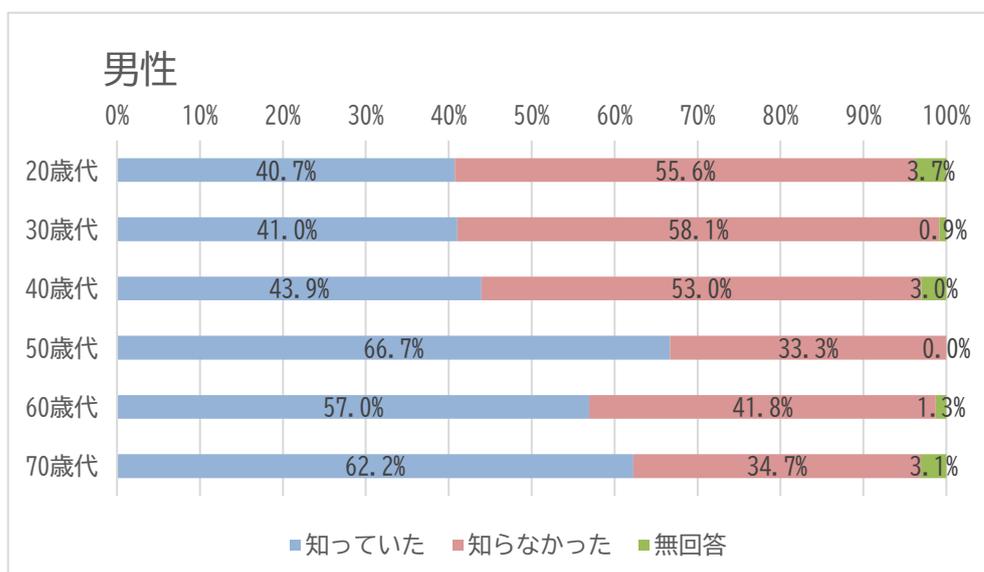
資料：第2期健康たけとよスマイルプラン中間評価②アンケート集計結果

全ての項目において男性より女性の方が実践している割合が高くなっている。

また、男女とも「歯磨きを1日2回以上する」と回答した人の割合が高くなっており、女性では約8割となっている。デンタルフロスや歯間ブラシの使用は、う蝕や歯周病予防に効果があるが、女性では53.8%の人が使用していることに比べて、男性は35.2%であり、特に男性に対して知識の普及、啓発を継続する必要がある。

## 【歯周病と全身の病気の関係性の認知度】

「あなたは、歯周病が全身の病気に関係があることを知っていましたか？」



資料：第2期健康たけとよスマイルプラン中間評価②アンケート集計結果

「知っていた」と回答した人の割合は男性で51.6%であるのに対し、女性で71.9%と高くなっている。

過去1年間に歯科検診を受診した人の割合では、男性57.1%、女性71.3%と、女性の方が全体的に、歯・口腔の健康に意識が高い傾向があることがわかる。歯・口腔の健康は美容と直結しやすい所であるためと考えられる。

## 中間評価②でみえてきた課題

### ① 歯周病検診受診率の低迷

策定時、中間評価①時と比較して、歯周病検診の受診率は低下している。しかし、中間評価アンケートにおいて、過去1年間に歯科検診を受けた人の割合は上がっており、定期受診を心がけている人も増えていることが考えられる。年代別にみると35～60歳の対象者において、受診率が低くなっていることから、忙しい世代の人に対し、歯周病健診等、歯と口腔ケアについての重要性を伝えていく必要があると考えられる。

### ② 歯の健康管理をする男性の割合が低い

### ③ 歯周疾患を有する人の割合が高い

歯・口腔の健康は全身の病気と深く関係しており、さらにセルフケアをしやすい場所であるが、CPI 3または4の人の割合が高く、自己管理が十分でない人も多いことが考えられる。

全年代に対し、口腔ケアの必要性を伝えていくことが重要であるが、特に喫煙と歯周病には関係性があるため、喫煙者の多い男性に対して知識の普及、啓発が必要がある。

## 目標達成に向けた具体的な事業展開

- 歯周病検診対象者が受診したくなるような案内の工夫
- 歯や口の健康管理の必要性について、若年層をはじめ、男性にも周知  
例) 町内企業等に協力してもらい、チラシを配布する
- デンタルフロス等を使用することのメリットや使用方法の周知  
例) あおば健診や献血での来所者等に対し、チラシや試供品を配布する

## 実施事業・関連事業

No	事業名	事業内容	担当課
1	歯周病検診	35～75 歳までの 5 歳刻みの住民に、歯周病検診を実施する。	健康課
2	妊産婦歯科健康診査受診票の交付	妊婦または産婦に対して、虫歯・歯周病などの診察、ブラッシング指導、歯科相談を歯科医師が実施する。	健康課
3	10 か月児すくすく相談	歯科衛生士による歯科衛生講話を実施する。	健康課
4	1 歳 6 か月児・2 歳児・3 歳児健康診査（歯科健診）	歯科健診、フッ化物歯面塗布、ブラッシング指導を実施する。	健康課
5	虫歯予防教室	町立保育園年長児と保護者に対し、保健師によるブラッシングの実技指導と歯科衛生講話を実施する。	健康課 子育て支援課
6	歯と口の健康週間事業	歯科医師による歯科検診、乳幼児のフッ化物歯面塗布を実施する。	健康課
7	各種健康教育・啓発事業	町主催のイベントや各種教室、広報において、歯の健康について周知を図る。	健康課
8	8020 表彰	80 歳以上で 20 本の歯がある高齢者の表彰を実施する。	健康課
9	学校保健との連携	各地区の健康課題等を盛り込んだ健康教育を実施し、生活習慣病予防や健康意識の向上・健康づくりのきっかけとする。	健康課 学校教育課
10	企業・全国健康保険協会愛知支部等との協働と連携	企業や全国健康保険協会愛知支部等と連携し、健康課題の情報提供等を実施する。	健康課
11	学校健康診断（歯科検診）	小中学生の歯科検診を実施する。	学校教育課
12	フッ化物洗口	小学校でフッ化物洗口を実施する。	学校教育課



## (8) 子どもの健康

めざす  
姿

子どもの笑顔は宝物！子どもが元気に生まれ育つまち

将来を担う次世代の健康づくりとして、特に妊産婦や子どもに焦点を当てた取り組みをすすめる。

### 中間評価①の方向性

- ① 低出生体重児の割合の減少
- ② 事故予防対策を実施している家庭の増加
- ③ ゆったりとした気分で子どもと過ごせる時間がある母親の増加



### 中間評価①からの主な取り組み

- 母子健康手帳交付時に妊婦または家族が喫煙者である場合に、指導を実施
- 3か月児健診時に事故予防のリーフレットを配布
- 育児相談等の事業にて、個別に対応
- 親子遊び方教室等の各種教室で、子どもの成長発達についての啓蒙
- 妊娠8か月のサポートコールの実施（R元年度～）
- 子育て世代包括支援センターの相談事業、養育支援訪問の実施（R2年度～）

### 指標の達成状況

指標	策定値 (H23年度)	中間評価① (H27年度)	中間評価② (R元年度)	目標値	評価
① 安全な妊娠・出産の確保のため、妊娠初期からの妊婦健診受診の促進					
11週以下での妊娠届出率	96.4%	97.6%	95.7%	100.0%	D
② 出産後1か月児の母乳育児の増加					
1か月児健診時の栄養方法が「母乳」 または「混合」の割合	91.7%	93.4%	89.0%	維持・増加	D
③ 全出生数中の低出生体重児の減少					
出生時の体重が2500g未満の出生割合	10.5%	13.0% (H26年度)	8.9%	9.6%	A

指標	策定値 (H23年度)	中間評価① (H27年度)	中間評価② (R元年度)	目標値	評価
<b>④ お元気ですか訪問実施率の増加</b>					
お元気ですか訪問の実施率	90.3%	99.0%	98.7%	100.0%	B+
<b>⑤ 母子健康診査受診率の維持・増加</b>					
<b>母子健康診査受診率</b>					
3か月児健康診査	100.0%	96.7%	97.9%	100.0%	B-
1歳6か月児健康診査	96.7%	98.4%	96.9%	100.0%	C
2歳児歯科健康診査	94.9%	97.1%	95.5%	100.0%	B-
3歳児健康診査	98.1%	98.9%	98.5%	100.0%	B-
<b>⑥ かかりつけの小児科を持っている家庭の増加</b>					
<b>かかりつけの小児科を持っている家庭の割合</b>					
3か月児健康診査時	未把握	82.8%	88.3%	100.0%	B-
1歳6か月児健康診査時	未把握	98.0%	95.8%	100.0%	D
3歳児健康診査時	未把握	89.9%	93.7%	100.0%	B-
<b>⑦ 休日・夜間の小児救急医療機関を知っている家庭の増加</b>					
<b>休日・夜間の小児救急医療機関を知っている家庭の割合</b>					
1歳6か月児健康診査時	未把握	72.1%	未把握	100.0%	E
3歳児健康診査時	未把握	72.9%	未把握	100.0%	E
<b>⑧ 乳幼児のいる家庭で、事故予防対策を実施している家庭の増加</b>					
<b>3か月児健康診査時</b> 「たばこ・ボタン電池・硬貨は、1m以上の高さのところにしている」と回答した家庭の割合	70.4%	71.7%	79.8%	80.0%	A
<b>1歳6か月児健康診査時</b> 「風呂場のドアを乳幼児が自分で開けることができないようにしている」と回答した家庭の割合	47.6%	48.9%	49.4%	60.0%	B-
<b>3歳児健康診査時</b> 「バルコニーや窓のそばに踏み台になるものを置かないようにしている」と回答した家庭の割合	96.5%	95.8%	94.2%	100.0%	D

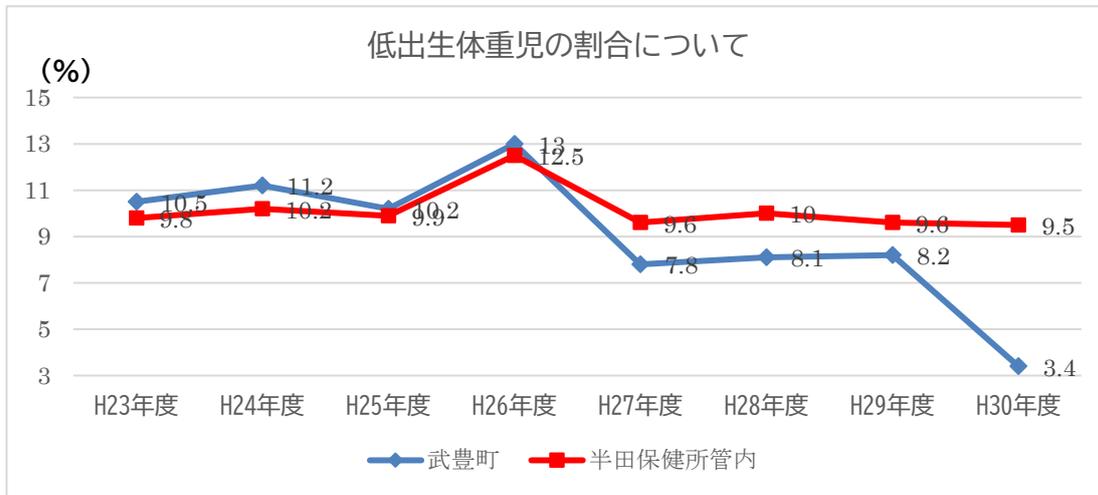
指標	策定値 (H23年度)	中間評価① (H27年度)	中間評価② (R元年度)	目標値	評価
<b>⑨ ゆったりとした気分で子どもと過ごせる時間がある母親の増加</b>					
ゆったりとした気分で子どもと過ごせる時間がある母親の割合					
3か月児健康診査時	84.2%	88.9%	86.5%	90.0%	B-
1歳6か月児健康診査時	80.9%	81.6%	81.2%	90.0%	C
3歳児健康診査時	74.8%	69.8%	73.7%	80.0%	D
<b>⑩ 育児について相談相手のいる母親の増加</b>					
育児について相談相手のいる母親の割合					
3か月児健康診査時	99.0%	98.7%	96.5%	100.0%	D
1歳6か月児健康診査時	99.5%	99.2%	98.4%	100.0%	D
3歳児健康診査時	99.3%	97.7%	96.7%	100.0%	D
<b>⑪ 子育てしやすいまちと感じている人の増加</b>					
子育てしやすいまちと感じている人の割合					
0～18歳の子どもがいる世帯のうち子育てしやすさに対し「満足」「やや満足」と答えた人の割合	未把握	41.6%	45.3% (H30年度)	60.0%	B-
この地域で今後も子育てをしたいと感じている人の割合					
3か月児健康診査時	未把握	97.7%	99.3%	100.0%	B+
1歳6か月児健康診査時	未把握	95.3%	98.1%	100.0%	B+
3歳児健康診査時	未把握	96.2%	98.7%	100.0%	B+

【各指標項目の資料等】

項目	資料	担当
①②④	令和元年度母子保健報告	健康課
③	令和元年度母子保健統計	健康課
⑤	実績並びに主要施策報告書	健康課
⑥⑦	健康かるて	健康課
⑧⑨⑩	母子健康診査マニュアル集計結果	健康課
⑫	町民意識調査	企画政策課

## 現状・考察

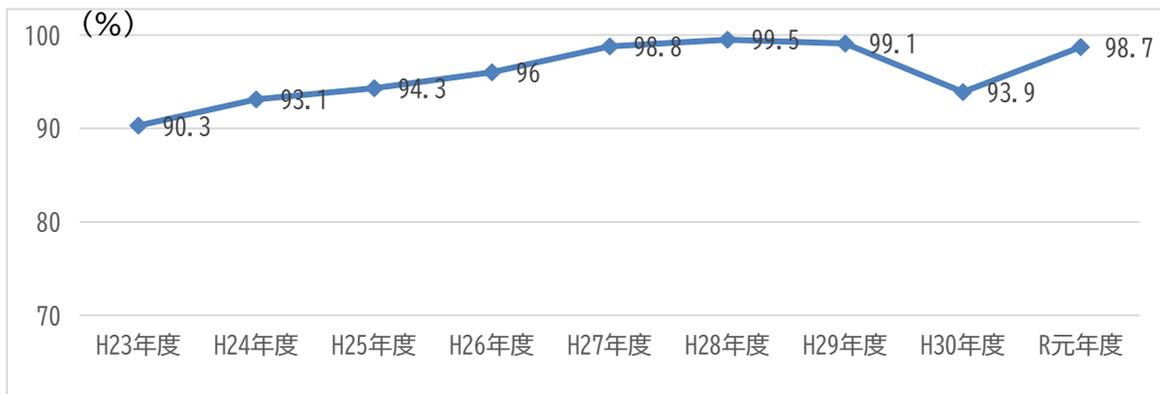
### 【低出生体重児の割合について】



資料：母子保健統計（知多半島医療圏）

平成23年度以降の低出生体重児の年次推移は、平成25年度までは横ばいになっており、平成26年度で増加している。その後は、再び武豊町、半田保健所管内ともに横ばいになっているが、武豊町では平成30年度に減少している。令和元年度は8.9%であり、平成30年度の3.4%よりは増加したが、平成27年度からは目標値の9.6%を継続して下回っているため、中間評価②では、優先的課題として上げる必要はないと考える。

### 【お元気ですか訪問実施率について】



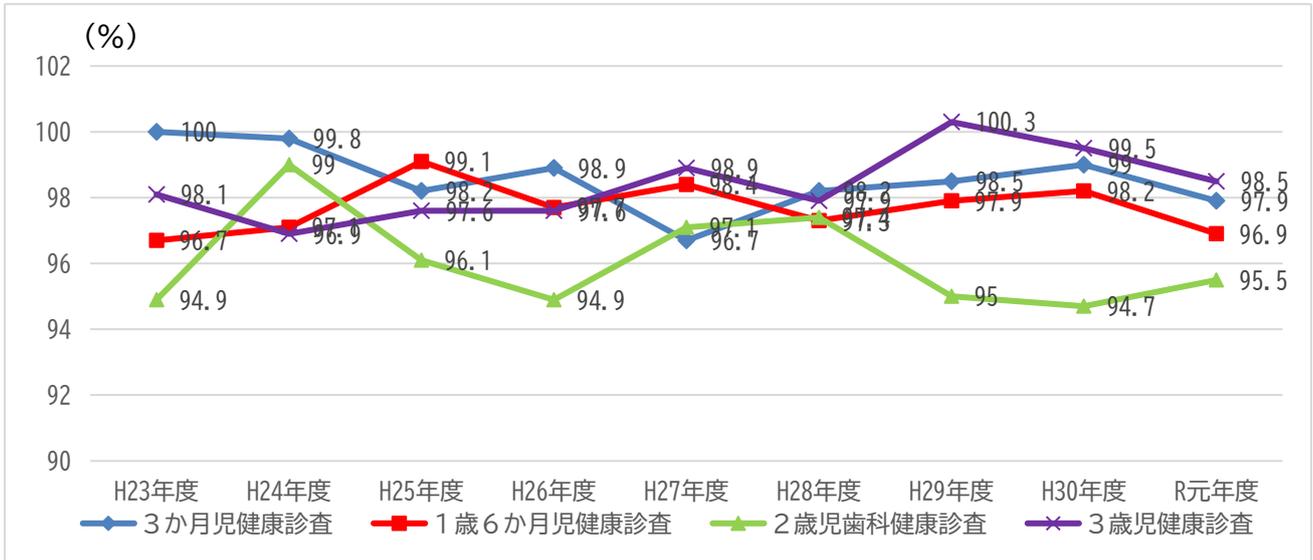
資料：健康かるて

平成23年度以降のお元気ですか訪問実施率の年次推移は、増加傾向になっている。必要に応じて他市町と連携を図りながら、本町全ての乳児に実施できるよう努めており、中間評価②時には、98.7%と高い実施率となっているが、目標には到達していない。

平成30年度は、一時的に93.9%の実施率となっているが、入院や里帰り中など何らかの事情により訪問できなかったものの、電話や医療機関との情報共有などの手段を用いて、3か月児健康診査までの全員の状況把握を実施している。

今後も高い実施率を維持するとともに、訪問できなかった家庭の状況把握を実施して継続的支援に努めていく。

【母子健康診査受診率について】



資料：健康かるて

平成23年度以降の母子健康診査受診率の年次推移は、増減しながらも9割以上の高い受診率を維持している。その理由として、未受診者へのハガキや電話による勧奨を実施しているからではないかと考えられる。また、電話や訪問等による事後フォローも実施しており、乳幼児及びその保護者への継続的支援に努めている。

今後も高い受診率を維持するとともに、事後フォローや状況把握を実施していく必要があると考える。

【かかりつけの小児科を持っている家庭の増加について】

かかりつけの小児科を持っている家庭の割合は、3か月児健診は88.3%、1歳6か月児健診は95.8%、3歳児健診は93.7%で、第1回中間評価時と比較すると3か月児健診と3歳児健診では増加、1歳6か月児健診ではやや低下しており、目標値には達していない。

【休日・夜間の小児医療機関を知っている家庭の増加について】

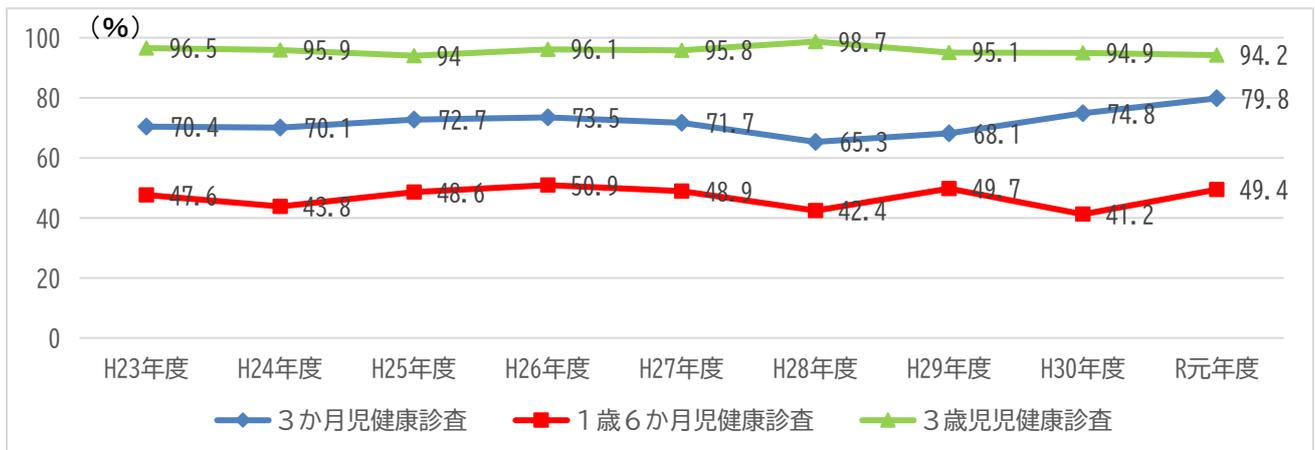
平成28年度に母子健康診査の問診項目の改定により、この項目がなくなり、評価できないため、中間評価②より変更することとする。休日・夜間の小児救急医療機関の知識については、3か月児健診での問診「小児救急電話相談（#8000）を知っていますか？」の項目で確認できるが、令和元年度は、91.1%の人が「知っている」と回答していた。

今後は#8000の認知度を評価指標とする。

【事故予防対策を実施している家庭について】

※以下の乳幼児健診の問診で「はい」と回答した人の割合

- ・ 3か月児健診の問診  
「たばこ・ボタン電池・硬貨・ピアスなどの小物は1 m以上の高さのところに置いてありますか？」
- ・ 1歳6か月児健診の問診  
「浴室のドアには、子どもがひとりで開けることができないような工夫がしてありますか？」
- ・ 3歳児健診の問診  
「ベランダや窓のそばに踏み台になるものを置かないようにしていますか？」



資料：健康かるて（母子健康診査問診項目集計結果）

平成23年度から令和元年度の事故予防対策を実施している家庭の年次推移は、横ばいになっている。また、1歳6か月児健康診査時の事故予防対策で「はい（対策をしている）」と回答した家庭の割合は、5割以下であり、3か月児、3歳児と比較して圧倒的に低くなっている。風呂場のドアを開けておくことの危険性を周知していく必要がある。



中間評価②でみえてきた課題

❶ 事故予防対策を実施している家庭の低迷

事故予防対策を実施している家庭は横ばいになっており、1歳6か月児および3歳児健康診査時の項目において、目標を下回っている。

乳幼児死亡の原因の多くが不慮の事故であることから、今後も乳幼児期の事故予防対策について啓発していく必要があると考える。特に1歳6か月児の「風呂場のドアを乳幼児が自分で開けることができないようにしている」と回答した家庭の割合が5割以下であり、意識の低さが伺える。風呂場のドアを開けっぱなしにしておくことの転倒等のリスクを周知していくことが必要である。

しかし事故予防に特化して事業を展開していくのは困難であるため、既存の事業を活用し事故予防対策の啓発に取り組むことが有効と考える。

## ② 子どもが成長するごとに、ゆったりとした気分で子どもと過ごせる時間がない母親の増加

ゆったりとした気分で子どもと過ごせる時間がある母親の割合は、令和元年度において3か月児健康診査時86.5%、1歳6か月児健康診査時81.2%、3歳児健康診査時73.7%となっている。策定時、中間評価①時においても3歳児健康診査時における割合が低く、子どもが成長するごとにゆったりとした気分で子どもと過ごせる時間がないと感じる母親が増えている。

子どもの身体的・精神的成長に伴い、子どもの行動範囲が広くなり、自我が芽生え、自己主張が強くなるため、子育てに工夫が必要になることが多い。子どもの健やかな成長・発達には、親がゆったりとした気分で関わる必要があるが、成長過程を知らないと、不安が強くなったり、叱りすぎてしまう、など不適切な関わりをしてしまうことが考えられる。現代は、インターネット等で情報が簡単に入手しやすいが、子育ては、子どもの個性に合わせた関わりが必要になるため、令和2年度から設置した子育て世代包括支援センター等と連携しながら、母子保健事業を通し、個別の支援を継続していくことが有効と考える。

さらに今後は、民間と協働で、子育て中の母親にとって敷居の低い相談支援体制を検討する必要がある。



### 目標達成に向けた具体的な事業展開

- 3か月児健診にて、事故予防のリーフレットを配布
- 成長とともに予測される事故を予防するための普及・啓発を適切な時期に実施
  - ・10か月児すくすく相談にて、転落、溺水予防に風呂場のドアを閉めることを啓発
  - ・1歳6か月児健診にて、転落予防にベランダ等に踏み台になるものを置かないことを啓発
- 子育て世代包括支援センターの活用等の啓発の継続
- 子育て相談の丁寧な個別対応の継続

### 実施事業・関連事業

No	事業名	事業内容	担当課
1	母子健康手帳交付・保健指導	母子健康手帳の交付及び活用方法の説明と、必要な保健指導を実施する。	健康課
2	妊産婦・乳児健康診査受診票の交付	妊婦健康診査、子宮頸がん検診、産婦健康診査、乳児健康診査を実施する。	健康課
3	フレッシュパパママ教室 (両親学級)	妊婦及びその家族を対象とした子育て講座を実施する。	健康課
4	妊娠8か月サポートコール事業	妊娠8か月以降の妊婦を対象に、保健師が架電し、出産への不安や準備状況についての相談を受ける。	健康課
5	未熟児訪問	低出生体重児を把握し、早期に訪問指導を実施する。	健康課

No	事業名	事業内容	担当課
6	お元気ですか訪問	生後 2~3 か月児の家庭に、3 か月児健康診査前に全戸訪問し、体重測定や育児相談を実施する。	健康課 子育て支援課
7	産後ケア事業	産後に不安や体調不良がありサポートを希望する母子を対象に委託契約した医療機関が心身のケア、育児相談を実施する	健康課
8	赤ちゃん教室	管理栄養士による離乳食の講義と半田市立半田病院看護師による乳児のホームケア、病院のかかり方についての講義を開催する。	健康課
9	3 か月児健康診査	問診、身体測定、医師の診察、個別育児指導、防災に関する講話を実施する。	健康課 子育て支援課
10	7 か月児すくすく相談	身体測定、個別育児指導、絵本の読み聞かせと絵本の紹介、個別栄養相談（希望者）を実施する。	健康課
11	10 か月児すくすく相談	身体測定、個別育児指導、赤ちゃんの歯についての講話、個別歯科相談（希望者）を実施する。	健康課
12	1 歳 6 か月児健康診査	問診、身体測定、医師の診察、歯科医師の診察、ブラッシング指導、フッ化物歯面塗布、個別育児指導、心理相談（必要児）を実施する。	健康課 子育て支援課
13	2 歳児歯科健康診査	問診、身体測定、歯科医師の診察、ブラッシング指導、フッ化物歯面塗布、個別育児指導、心理相談（必要児）を実施する。	健康課 子育て支援課
14	3 歳児健康診査	問診、身体測定、医師の診察、歯科医師の診察、ブラッシング指導、フッ化物歯面塗布、個別育児指導、心理相談（必要児）を実施する。	健康課 子育て支援課
15	未受診者把握	各健診の未受診者の追跡を実施し、現状把握をする。	健康課 子育て支援課
16	育児相談・おしゃべりサロン	保健師による身体計測、個別育児相談を行う。	健康課
17	心理相談	心理相談員による個別心理相談を実施する。	健康課
18	面接・電話相談	乳幼児・妊産婦等を対象に、保健師による面接相談、電話相談を実施する。必要時関係機関と合同面接、今後の処遇について検討する。	健康課 子育て支援課
19	家庭訪問	乳幼児・妊産婦を対象に、保健師による家庭訪問を実施する。必要時関係機関と合同面接、今後の処遇について検討する。	健康課 子育て支援課
20	親子遊び方教室	保健師、指導保育士、主任保育士、子育て支援センター保育士、あおぞら園主任保育士、児童館厚生員がスタッフとして参加し、自由遊び、体操、親子で取り組める集団設定遊びを通じて、親子のかかわりや子どもの発達を観察する。スタッフによる個別育児相談を実施し、必要に応じて専門相談機関の紹介をする。	子育て支援課 健康課

No	事業名	事業内容	担当課
21	赤ちゃんルーム にこにこルーム	保健師、子育て支援センター保育士がスタッフとして参加し、遊びや絵本の読み聞かせ等を通じて児への関わり方を提案したり、親の不安に対する相談を受ける。	子育て支援課 健康課
22	あおぞら園・園庭開放での健康教育、育児相談	保健師による育児相談、健康教育を実施し、入園後の親子の関わりや子どもの発達の変化について観察する。	子育て支援課 健康課
23	要保護児童対策事業	武豊町要保護児童対策地域協議会実務者会議（知多児童相談センター、学校、役場などで構成）にて、要保護家庭の情報を共有化し、具体的な支援の検討をする。 家庭訪問や定期面接などで、家庭の状況・児の様子について把握し、必要な支援を実施する。	子育て支援課 健康課 学校教育課
24	子育て世代包括支援センターとの連携	コーディネーター会議にて、要フォロー家庭の情報を共有化し、具体的な支援の検討する。母子手帳の交付等での面接、家庭訪問を通して、家庭の状況、児の様子を把握し、必要な支援を実施する。	子育て支援課 健康課 福祉課 学校教育課 生涯学習課 社会福祉協議会
25	学校保健との連携	学校保健委員会等で、小中学生への健康教育を実施する。	学校教育課 健康課
26	不妊治療費等助成	一般不妊検査、治療及び人工受精に対しての治療費について、年間5万円を限度に5年度分まで助成する。	健康課
27	子ども（A類）予防接種事業	子ども（20歳未満）に対して、予防接種を実施することで、疾病の伝染や発生及びまん延を予防する。	健康課
28	未熟児養育医療	2000グラム以下の未熟児または2000グラム以上であっても指定医療機関の医師が入院養育を必要であると認めた乳児に対して、医療費の一部を助成する。	保険医療課 健康課

## 削除・変更した指標

変更前	変更後
休日・夜間の小児救急医療機関を知っている 家庭の割合（1歳6か月児健診、3歳児健診）	#8000を知っている家庭の割合 （3か月児健診）
理由：母子健康診査の問診項目が変更になったため。	

## (9) 最終評価までの重点的な取り組み

めざす  
姿

**今までなかった機会、必要な人に必要な健康情報を！！**

各分野において様々な課題が明らかになったため、最終評価（令和6年）に向け、実現可能で、かつ重点的、優先的に取り組むべき内容について、保健師等の専門職をはじめ関係者間で検討した。その中で、どの分野においても、健康情報の発信がまだ十分でないことが見えてきた。

そこで、特に重点的・優先的な課題を絞り込み、他課の協力を仰ぎながら、今まで連携していなかった事業で必要な情報提供を行える機会を検討した。

最終評価までの期間は、従来の事業展開に加え、様々な手段での情報発信に力を入れていく。

### 重点的、優先的な課題

- 朝食摂取の勧奨
- プラス一皿分の野菜摂取の勧奨
- 口腔ケアの必要性の周知

### 今後、健康情報を発信する機会(過去に実施のないもの)

- 保育園の入園申請の際の待合室にポスター掲示
- 保育園児のお便り帳に保護者向けのチラシ同封
- 就学時健診時の配布物にチラシ同封
- 体育館にポスター掲示
- あおば健診の案内にチラシ同封
- 特定同封の健康マイレージのチラシ裏に健康情報を掲載
- たけとよスポーツDAYの参加賞にチラシ同封
- 確定申告の待合室にポスター掲示



**問8 あなたは自分自身のことを健康だと思えますか？**

- |               |              |
|---------------|--------------|
| 1 健康だと思う      | 2 まあまあ健康だと思う |
| 3 あまり健康だと思わない | 4 健康だと思わない   |

**問9 あなたが健康だと感じるのは、どんなときですか？（あてはまる番号すべてに○）**

- |                |                             |
|----------------|-----------------------------|
| 1 自分のことが自分でできる | 2 社会に貢献できる・自分の役割がある         |
| 3 病気・障がいがない    | 4 病気や障がいがあっても、日常生活や仕事に支障がない |
| 5 趣味が楽しめる      | 6 食事がおいしい                   |
| 7 その他（         | ）                           |

**問10 あなたが健康について関心のある情報は何か？（あてはまる番号すべてに○）**

- |         |        |           |      |
|---------|--------|-----------|------|
| 1 食事・栄養 | 2 歯の健康 | 3 休養・心の健康 | 4 禁酒 |
| 5 禁煙    | 6 運動   | 7 健診情報    |      |
| 8 その他（  |        |           | ）    |

**問11 あなたは健康に関する情報をどこから得ていますか？（あてはまる番号すべてに○）**

- |               |            |           |
|---------------|------------|-----------|
| 1 テレビ・ラジオ     | 2 新聞・雑誌・書籍 | 3 インターネット |
| 4 SNS         | 5 かかりつけの病院 | 6 保健センター  |
| 7 町の広報・ホームページ | 8 その他（     | ）         |

**問12 あなたは今、この地域で安心して暮らしていますか？**

- |      |       |
|------|-------|
| 1 はい | 2 いいえ |
|------|-------|

**問13 あなたは趣味の会やスポーツの会に参加していますか？**

- |      |       |                          |
|------|-------|--------------------------|
| 1 はい | 2 いいえ | 3 新型コロナウイルスの影響で参加できなくなった |
|------|-------|--------------------------|

**問14 あなたはメタボリックシンドロームを知っていましたか？**

- |                          |
|--------------------------|
| 1 言葉も意味も知っていた            |
| 2 言葉は聞いたことがあるが、意味は知らなかった |
| 3 知らなかった                 |



メタボリックシンドロームとは、内臓脂肪蓄積に加え、血中脂質、血圧、血糖のうち2つ以上の危険因子に該当している場合をいいます。

問14-1 メタボリックシンドロームが動脈硬化性疾患（脳卒中、心疾患）の大きな原因の1つになることを知っていましたか？

- 1 はい                      2 いいえ

問15 幸せの黄色いリボン事業を知っていましたか？

- 1 言葉も内容も知っていた  
2 言葉は聞いたことがあるが、内容は知らなかった  
3 知らなかった



幸せの黄色いリボン事業とは、「めざせ！！脱！太っ腹な武豊」をキャッチフレーズに、町民が日常的に自分の腹囲を意識できる環境を整備するため、武豊町内の施設に設置したお腹まわりが測れる黄色いリボンのことです。お腹まわりは内臓脂肪がたまっているかの目安になります。みかけたらぜひ測ってみてください。

問16 健康たけとよスマイレージ事業を知っていましたか？

- 1 言葉も内容も知っていた  
2 言葉は聞いたことがあるが、内容は知らなかった  
3 知らなかった



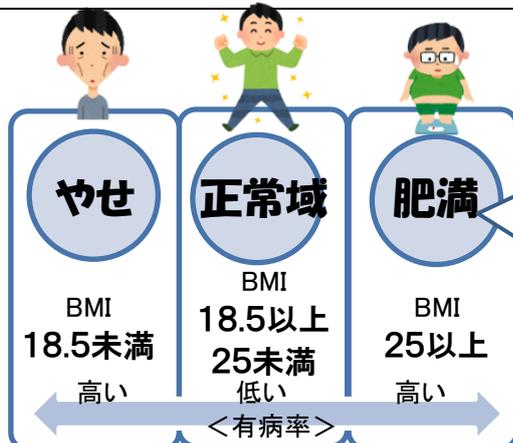
【栄養・食生活】

健康たけとよスマイレージ事業とは、健康のために健診を受けたり、普段の生活の中で運動や食事に気を付けたり、健康講座・イベント・地域の活動などに参加して、一定以上のマイレージ(ポイント)を貯めることで、「あいち健康づくり応援カード！～MyCa～(まいか)」と交換でき、交換時に健康グッズがもらえたり、豪華賞品が当たる抽選会に応募できたり、さらに県内の協力店で「まいか」を提示すると様々な特典(サービス)が受けられる事業です。



問17 あなたはBMIを知っていましたか？

- 1 言葉も意味も知っていた  
2 言葉は聞いたことがあるが、意味は知らなかった  
3 知らなかった



BMIとは、大人の体格(身長と体重のバランス)の目安を表すもので、**体重(Kg) ÷ 身長(m) ÷ 身長(m)** で求めることができます。

BMI が22のときの体重を「適正体重」と言い、統計的に見て一番病気になりにくく、22から離れるほど有病率が高くなると言われています。

問18 あなたは1日に2回以上、主食・主菜・副菜を3つそろえて食べることが、週に何日ありますか？

- 1 ほとんど毎日食べる      2 週4～5日食べる      3 週2～3日食べる  
4 ほとんど食べない

問19 あなたは野菜のおかずを1日何皿分食べますか？

- 1 5皿分以上      2 3～4皿分      3 1～2皿分      4 ほとんど食べない

野菜は1日350g  
(5皿分)  
が理想的です！



小鉢の野菜のおかずを1皿分(約70g)、大皿の野菜のおかずを2皿分と数えます。付け合わせの野菜は、合わせて小鉢1皿分に相当するなら1皿分と数えます。

青菜のお浸し(1鉢)  <b>1皿分</b>	野菜サラダ(1皿)  <b>1皿分</b>	カボチャの煮物(1鉢)  <b>1皿分</b>
生春巻き(2本)  <b>2皿分</b>	野菜炒め(1人前)  <b>2皿分</b>	野菜カレー(1人前)  <b>2皿分</b>

問20 あなたは外食や買い物するとき、カロリーなどの栄養成分表示を参考にしていますか？

- 1 はい      2 いいえ

問21 あなたはよく噛んで、毎食の食事時間を15分以上にしていますか？

- 1 はい      2 いいえ

問22 あなたは週に一度は、楽しく食事をする時間を作っていますか？

- 1 はい      2 いいえ

問23 あなたは食事をするとき、腹八分目にしていますか？

- 1 はい      2 いいえ

問24 あなたは食事を毎日とりますか？毎日とる食事に○をつけてください。  
(あてはまる番号すべてに○)

- 1 朝食      2 昼食      3 夕食



問31 あなたはここ2週間、自分が役に立つ人間だと思えないと感じることがありますか？

- 1 はい                      2 いいえ

問32 あなたはここ2週間、わけもなく疲れたように感じることはありますか？

- 1 はい                      2 いいえ

問33 あなたはここ1か月、睡眠で休養がとれていますか？

- 1 十分にとれている                      2 まあまあとれている  
3 あまりとれていない                      4 全くとれていない



問34 あなたは自分の楽しみを持っていますか？

- 1 持っている                      2 持っていない

問35 あなたは悩みや心配事が相談できる相手や場所がありますか？

- 1 ある                      2 ない

### 【アルコール】

問36 あなたはお酒を飲みますか？

- 1 飲む                      2 飲まない                      3 ほとんど飲まない                      4 以前は飲んでいましたがやめた

問36-1 問36で「1 飲む」と答えた方にお伺いします。  
どのくらいの頻度で飲みますか？

- 1 毎日                      2 週5～6回                      3 週3～4回                      4 週1～2回                      5 月に1～2回

問36-2 問36で「1 飲む」と答えた方にお伺いします。  
どのくらいの量を飲みますか？

- 1 1合未満                      2 1合以上2合未満                      3 2合以上3合未満                      4 3合以上

1日の適正量の目安は、清酒1合(180ml)程度。他のお酒に換算すると…



ビール中瓶1本  
(500ml)



ウイスキーダブル  
1杯(60ml)



日本酒1合  
(180ml)



焼酎1合  
(180ml)



ワイン2杯  
(240ml)



問41 あなたは歯の健康管理として実践していることはありますか？（あてはまる番号すべてに○）

- 1 歯磨きを1日2回以上する
- 2 フッ素入りの歯磨き剤を使っている
- 3 歯の治療は早めに受けるようにしている
- 4 デンタルフロス・歯間ブラシなど歯の間を清掃する器具を使っている
- 5 その他（ ）

フッ素入りの歯磨き剤は、成分表示に  
**フッ化ナトリウム・フッ化スズ・モノフルオロリン酸ナトリウム**の  
いずれかが表記されています



問42 あなたは、歯周病が全身の病気に関係があることを知っていましたか？

- 1 知っていた
- 2 知らない



歯周病は、呼吸器疾患・心疾患・糖尿病などの病気と関連しています

問43 あなたは8020運動を知っていましたか？

- 1 知っていた
- 2 知らなかった



**8020運動**とは、80歳以上で20本以上の自分の歯を持っている人を増やそうという運動です

健康づくりに関するご意見や、保健センターに取り組んでほしいことがあればご記入ください



## (2) 町内小学校高学年に実施したアンケート内容



第2期 健康たけとよ21スマイルプラン 中間評価

### 【令和2年度健康についてのアンケート】



たけとよちようほけん  
武豊町保健センター

保健センターでは、子どもたちが健康で楽しくらせる武豊町にするために、小学生のみなさんの普段の様子について調べることになりました。  
次のページの質問を読んで、あてはまるところに○をつけてください。「はい」「いいえ」でまよう時は多いと思う方に○をつけてください。

#### <あなたは>

いま なんねんせい 今、何年生ですか？ ⇒ 小学4年生 小学5年生 小学6年生  
せいべつ 性別は？ ⇒ 男 女

#### <運動について>

- ① あなたは体育の授業や学校の休み時間以外に、運動(スポーツ)や体を動かす遊びを週に3日以上していますか？(3日はふくみます)  
はい いいえ

#### <お酒やたばこについて>

- ① あなたは、子ども(19さいまでの人)がお酒(アルコール)を飲むと、体に悪いことを知っていますか？  
はい いいえ

- ② あなたは、たばこをすうことが体に悪いことを知っていますか？  
はい いいえ

- ③ あなたは、人がすっているたばこのけむりをすうことが体に悪いことを知っていますか？  
はい いいえ



- ④ あなたのまわりの人で、たばこをすっている人はいますか？  
はい いいえ



5 あなたはぐっすり眠れますか？

はい

いいえ



「いいえ」と答えた人のみ

眠れない理由は何ですか？

ゲームをやっているから ・ スマホやタブレットで動画<sup>動画</sup>をみているから ・ テレビをみているから  
習い事<sup>習い事</sup>がおそいから ・ なやみや考え事<sup>かんがえこと</sup>があるから ・ その他( )



6 あなたはすっきりと起きられますか？

はい

いいえ



「いいえ」と答えた人のみ

起きられない理由は何ですか？

夜寝る<sup>よるね</sup>のがおそいから ・ いやなことがあるから ・ その他( )

### ＜食事<sup>しょくじ</sup>について＞

1 あなたは朝ごはん・昼ごはん・夕ごはんの3食をかならず食べていますか？

はい

いいえ



「いいえ」と答えた<sup>こた</sup>人<sup>ひと</sup>のみ

食べていないのはどれですか？

朝ごはん ・ 昼ごはん ・ 夕ごはん



2 あなたは朝ごはんを誰と食べる<sup>た</sup>ことが多い<sup>おほ</sup>ですか？

家族<sup>かぞく</sup>と食べる

一人<sup>ひとり</sup>で食べる

3 あなたは夕ごはんを誰と食べる<sup>た</sup>ことが多い<sup>おほ</sup>ですか？

家族<sup>かぞく</sup>と食べる

一人<sup>ひとり</sup>で食べる

4 あなたは主食<sup>しゅしょく</sup>・主菜<sup>しゅさい</sup>・副菜<sup>ふくさい</sup>を知<sup>し</sup>っていますか？

はい

いいえ

5 あなたは野菜を朝ごはん・昼ごはん・夕ごはんの3食、食べていますか？  
(昼ごはんは給食を除きます)

はい      いいえ  
↓  
「いいえ」と答えた人のみ  
↓  
野菜を食べていないのはどれですか？

朝ごはん・昼ごはん・夕ごはん

6 あなたは食事の時間が好きですか？

はい      いいえ

7 あなたは家で料理を作ったり、作る手伝いをしていますか？

はい      いいえ

8 あなたは地産地消という言葉を知っていますか？

はい      いいえ





第2期 健康たけとよ21スマイルプラン  
- 第2回中間評価・見直し -  
令和3年3月

武豊町 健康福祉部 健康課

